社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■現代経済専攻	マクロ経済分析基礎 田中　淳平	1学期		2	1
	ミクロ経済分析基礎 朱　乙文	1学期		2	2
	計量経済分析基礎 藤井　敦	1学期		2	3
	地域経済論 田村　大樹	1学期		2	4
	経済史 土井　徹平	1学期		2	5
	会計学I 白石　和孝	1学期		2	6
	財務会計I 西澤　健次	1学期		2	7
	経営学I 遠藤　雄二	1学期		2	8
	マーケティング 別府　俊行	1学期		2	9
	経営組織論 山下　剛	1学期		2	10
	情報管理基礎 池田　欽一	1学期		2	11
	マクロ経済学 田中　淳平	2学期		2	12
	ミクロ経済学 朱　乙文	2学期		2	13
	財政学II 藤　貴子	2学期		2	14
	金融論 後藤　尚久	2学期		2	15

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■現代経済専攻	国際金融論 前田 淳	2学期		2	16
	産業組織論 後藤　宇生	2学期		2	17
	統計学 林田 実	2学期		2	18
	計量経済学 藤井　敦	2学期		2	19
	労働経済学 畔津　憲司	2学期		2	20
	環境経済学 牛房 義明	2学期		2	21
	応用地域科学 奥山　恭英	2学期		2	22
	会計学II 白石 和孝	2学期		2	23
	財務会計II 西澤 健次	2学期		2	24
	管理会計 梅澤　俊浩	2学期		2	25
	経営学II 遠藤　雄二	2学期		2	26
	経営戦略論 浦野 恭平	2学期		2	27
	コーポレート・ファイナンス 松本　守	2学期		2	28
	人的資源管理 福井　直人	2学期		2	29
■地域コミュニティ専攻	コミュニケーション論 安藤　満代	2学期		2	30

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■文化・言語専攻	英語翻訳研究 野島　啓一	2学期		2	31
	中国語法研究概論 王　占華	1学期		2	32
	中国文化研究概論 板谷　俊生	1学期		2	33
	中国民族文化研究 竹村　則行	1学期 2年	2	2	34
	中国語教授法研究 西　香織	2学期		2	35
	中国民間文学研究 竹村　則行	2学期		2	36
	中国文化史研究 板谷　俊生	2学期		2	37
	中国古典文学研究 武井　満幹	2学期		2	38
	比較広域文化研究 岩本　真理子	1学期 2年	2	2	39
■東アジア専攻	東北アジア研究概論 八百 啓介　他	1学期		2	40
	アメリカ社会史概論 寺田 由美	1学期		2	41
	イギリス地域概論 久木 尚志	1学期		2	42
	現代中国経済研究 白石　麻保	2学期		2	43
	東アジア政治思想研究 金 鳳珍	2学期		2	44
	現代韓国経済研究 尹 明憲	2学期		2	45

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア専攻	アメリカ社会史研究 寺田 由美	2学期		2	46
	イギリス地域研究 久木 尚志	2学期		2	47
	国際協力研究 大平　剛	2学期		2	48
	安全保障研究 戸蒔　仁司	2学期		2	49
	国際政治経済研究 阿部　容子	2学期		2	50
■特別研究科目	特別研究基礎 畔津　憲司	1学期	1	2	51
		1年			
	特別研究基礎 後藤 尚久	1学期	1	2	52
		1年			
	特別研究基礎 後藤　宇生	1学期	1	2	53
		1年			
	特別研究基礎 藤井　敦	1学期	1	2	54
		1年			
	特別研究基礎 田村 大樹	1学期	1	2	55
		1年			
	特別研究基礎 田中　淳平	1学期	1	2	56
		1年			
	特別研究基礎 朱 乙文	1学期	1	2	57
		1年			
	特別研究基礎 前田 淳	1学期	1	2	58
		1年			
	特別研究基礎 林田 実	1学期	1	2	59
		1年			
	特別研究基礎 牛房 義明	1学期	1	2	60
		1年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■特別研究科目	特別研究基礎 奥山　恭英	1学期	1	2	1年	61
	特別研究基礎 西澤　健次	1学期	1	2	1年	62
	特別研究基礎 別府　俊行	1学期	1	2	1年	63
	特別研究基礎 山下　剛	1学期	1	2	1年	64
	特別研究基礎 池田　欽一	1学期	1	2	1年	65
	特別研究基礎 浦野　恭平	1学期	1	2	1年	66
	特別研究基礎 福井　直人	1学期	1	2	1年	67
	特別研究基礎 土井　徹平	1学期	1	2	1年	68
	特別研究基礎 西　香織	1学期	1	2	1年	69
	特別研究１ 畔津　憲司	2学期	1	2	1年	70
	特別研究１ 後藤　尚久	2学期	1	2	1年	71
	特別研究１ 後藤　宇生	2学期	1	2	1年	72
	特別研究１ 藤井　敦	2学期	1	2	1年	73
	特別研究１ 田村　大樹	2学期	1	2	1年	74
	特別研究１ 田中　淳平	2学期	1	2	1年	75

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■特別研究科目	特別研究１ 朱 乙文	2学期	1	2	1年	76
	特別研究１ 前田 淳	2学期	1	2	1年	77
	特別研究１ 林田 実	2学期	1	2	1年	78
	特別研究１ 牛房 義明	2学期	1	2	1年	79
	特別研究１ 奥山　恭英	2学期	1	2	1年	80
	特別研究１ 西澤 健次	2学期	1	2	1年	81
	特別研究１ 別府 俊行	2学期	1	2	1年	82
	特別研究１ 山下　剛	2学期	1	2	1年	83
	特別研究１ 池田　欽一	2学期	1	2	1年	84
	特別研究１ 浦野 恭平	2学期	1	2	1年	85
	特別研究１ 福井　直人	2学期	1	2	1年	86
	特別研究１ 土井　徹平	2学期	1	2	1年	87
	特別研究１ 西　香織	2学期	1	2	1年	88
	特別研究２ 後藤 尚久	1学期	2	2	2年	89
	特別研究２ 後藤　宇生	1学期	2	2	2年	90

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究２ 前田　淳	1学期	2	2	91
		2年			
	特別研究２ 林田　実	1学期	2	2	92
		2年			
	特別研究３ 後藤　尚久	2学期	2	2	93
		2年			
	特別研究３ 後藤　宇生	2学期	2	2	94
		2年			
	特別研究３ 前田　淳	2学期	2	2	95
		2年			
	特別研究３ 林田　実	2学期	2	2	96
		2年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■現代経済専攻	財政学I 藤　貴子	1学期		2	97
■地域コミュニティ専攻	社会心理学 田島　司	1学期		2	98
	生涯学習論 恒吉 紀寿	1学期		2	99
	臨床心理学 田中　信利	1学期		2	100
	社会福祉援助論 小賀 久	1学期		2	101
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期		2	102
	人間環境学 野井 英明	1学期		2	103
	文化社会学 濱野　健	1学期		2	104
	都市社会学 稲月 正	1学期		2	105
	教育制度論 児玉 弥生	2学期		2	106
	臨床教育学 楠 凡之	2学期		2	107
	福祉コミュニティ論 坂本　毅啓	2学期		2	108
	高齢社会論 石塚　優	2学期		2	109
	司法福祉論 深谷　裕	2学期		2	110
	フィールドワーク論 竹川 大介	2学期		2	111

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■地域コミュニティ専攻	臨床社会学 西田　心平	2学期		2	112
	環境社会学 岩松　文代	2学期		2	113
■文化・言語専攻	イギリス文学研究概論 木原 謙一　他	1学期		2	114
	アメリカ文学研究概論 前田 譲治　他	1学期		2	115
	英語学研究概論 平野　圭子	1学期		2	116
	英語教育法研究概論 ジェニファー・ラーソンホール　他	1学期		2	117
	英語表現法 ジェニファー・ラーソンホール	2学期		2	118
	現代イギリス文学研究 田部井 世志子	1学期 2年	2	2	119
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期 2年	2	2	120
	イギリス文化研究 アダム・ヘイルズ	2学期		2	121
	現代アメリカ文学研究 アーノルド・ウェイン	1学期 2年	2	2	122
	アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	123
	アメリカ文化研究 齊藤　園子	2学期		2	124
	社会言語学研究 平野　圭子	2学期		2	125
	英語通訳研究 伊藤 健一	1学期 2年	2	2	126

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	中国思想文化研究概論 鄧　紅	1学期		2	127
	中国哲学史研究 鄧　紅	2学期		2	128
	中国語音声学研究 平田　直子	1学期	2	2	129
		2年			
	中国語教育論研究 胡　玉華	2学期		2	130
	比較文化研究概論 福島　勲　他	1学期		2	131
	日本文化研究概論 佐藤 眞人　他	1学期		2	132
	言語学研究概論 漆原 朗子　他	1学期		2	133
	比較文学研究概論 ダニエル・ストラック　他	1学期		2	134
	日本宗教文化研究 佐藤 眞人	2学期		2	135
	日本美術史研究 五月女　晴恵	1学期	2	2	136
		2年			
	日本表象文化研究 真鍋　昌賢	2学期		2	137
	比較広域文学研究 ダニエル・ストラック	2学期		2	138
	ヨーロッパ比較文化研究 福島　勲	2学期		2	139
	日英比較文化研究 フィオナ・クリーサー	2学期		2	140
	日米比較文化研究 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	141
		2年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■文化・言語専攻	理論言語学研究（形態論） 漆原 朗子	2学期		2	142
	理論言語学研究（統語論） 葛西　宏信	1学期 2年	2	2	143
■東アジア専攻	中国研究概論 堀地　明　他	2学期		2	144
	東南アジア研究概論 田村 慶子　他	1学期		2	145
	アメリカ社会概論 中野 博文	1学期		2	146
	アメリカ人種関係概論 北　美幸	1学期		2	147
	国際関係研究概論 大平　剛　他	1学期		2	148
	中国社会史研究 堀地　明	2学期		2	149
	現代中国政治研究 下野　寿子	2学期		2	150
	東アジア国際政治研究 李　東俊	2学期		2	151
	日本社会史研究 八百 啓介	2学期		2	152
	近代日本政治外交史研究 小林 道彦	2学期		2	
	東南アジア近現代史研究 篠崎　香織	2学期		2	153
	東南アジア地域研究I 伊野 憲治	2学期		2	154
	東南アジア地域研究II 田村 慶子	2学期		2	155

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア専攻	アメリカ社会研究 中野 博文	2学期		2	156
	アメリカ人種関係研究 北　美幸	2学期		2	157
	国際経済研究 魏　芳	2学期		2	158
	国際機構研究 山本　直	2学期		2	159
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	160
		2年			
	現代イギリス文学研究 田部井 世志子	1学期	2	2	161
		2年			
	英語表現法 ジェニファー・ラーソンホール	2学期		2	162
	アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	163
	現代アメリカ文学研究 アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	164
		2年			
	英語教育法研究概論 ジェニファー・ラーソンホール　他	1学期		2	165
■専攻共通科目	社会システム総合概論 大平　剛　他	1学期	1	2	166
		1年			
■特別研究科目	特別研究基礎 田島　司	1学期	1	2	167
		1年			
	特別研究基礎 恒吉 紀寿	1学期	1	2	168
		1年			
	特別研究基礎 松尾 太加志	1学期	1	2	
		1年			
	特別研究基礎 児玉 弥生	1学期	1	2	169
		1年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 田中　信利	1学期 1年	1	2	170
	特別研究基礎 小賀　久	1学期 1年	1	2	171
	特別研究基礎 河嶋　静代	1学期 1年	1	2	
	特別研究基礎 楠　凡之	1学期 1年	1	2	172
	特別研究基礎 深谷　裕	1学期 1年	1	2	173
	特別研究基礎 野井　英明	1学期 1年	1	2	174
	特別研究基礎 稲月　正	1学期 1年	1	2	175
	特別研究基礎 竹川　大介	1学期 1年	1	2	176
	特別研究基礎 岩松　文代	1学期 1年	1	2	177
	特別研究基礎 田部井　世志子	1学期 1年	1	2	178
	特別研究基礎 木原　謙一	1学期 1年	1	2	179
	特別研究基礎 前田　譲治	1学期 1年	1	2	180
	特別研究基礎 平野　圭子	1学期 1年	1	2	181
	特別研究基礎 伊藤　健一	1学期 1年	1	2	182
	特別研究基礎 鄧　紅	1学期 1年	1	2	183

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 武井　満幹	1学期	1	2	184
		1年			
	特別研究基礎 胡　玉華	1学期	1	2	185
		1年			
	特別研究基礎 佐藤 眞人	1学期	1	2	186
		1年			
	特別研究基礎 真鍋　昌賢	1学期	1	2	187
		1年			
	特別研究基礎 ダニエル・ストラック	1学期	1	2	188
		1年			
	特別研究基礎 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	1	2	189
		1年			
	特別研究基礎 漆原 朗子	1学期	1	2	190
		1年			
	特別研究基礎 葛西　宏信	1学期	1	2	191
		1年			
	特別研究基礎 下野　寿子	1学期	1	2	192
		1年			
	特別研究基礎 白石　麻保	1学期	1	2	193
		1年			
	特別研究基礎 金 鳳珍	1学期	1	2	194
		1年			
	特別研究基礎 尹 明憲	1学期	1	2	195
		1年			
	特別研究基礎 八百 啓介	1学期	1	2	196
		1年			
	特別研究基礎 小林 道彦	1学期	1	2	
		1年			
	特別研究基礎 篠崎　香織	1学期	1	2	197
		1年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 伊野 憲治	1学期	1	2	198
		1年			
	特別研究基礎 田村 慶子	1学期	1	2	199
		1年			
	特別研究基礎 寺田 由美	1学期	1	2	200
		1年			
	特別研究基礎 中野 博文	1学期	1	2	201
		1年			
	特別研究基礎 北　美幸	1学期	1	2	202
		1年			
	特別研究基礎 久木 尚志	1学期	1	2	203
		1年			
	特別研究基礎 魏　芳	1学期	1	2	204
		1年			
	特別研究基礎 大平　剛	1学期	1	2	205
		1年			
	特別研究基礎 山本　直	1学期	1	2	206
		1年			
	特別研究基礎 ジェニファー・ラーソンホール	1学期	1	2	207
		1年			
	特別研究基礎 永末　康介	1学期	1	2	208
		1年			
	特別研究 1 田島　司	2学期	1	2	209
		1年			
	特別研究 1 恒吉 紀寿	2学期	1	2	210
		1年			
	特別研究 1 松尾 太加志	2学期	1	2	
		1年			
	特別研究 1 児玉 弥生	2学期	1	2	211
		1年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 田中　信利	2学期 1年	1	2	212
	特別研究 1 小賀　久	2学期 1年	1	2	213
	特別研究 1 河嶋　静代	2学期 1年	1	2	
	特別研究 1 楠　凡之	2学期 1年	1	2	214
	特別研究 1 深谷　裕	2学期 1年	1	2	215
	特別研究 1 野井　英明	2学期 1年	1	2	216
	特別研究 1 稲月　正	2学期 1年	1	2	217
	特別研究 1 竹川　大介	2学期 1年	1	2	218
	特別研究 1 岩松　文代	2学期 1年	1	2	219
	特別研究 1 田部井　世志子	2学期 1年	1	2	220
	特別研究 1 木原　謙一	2学期 1年	1	2	221
	特別研究 1 前田　譲治	2学期 1年	1	2	222
	特別研究 1 平野　圭子	2学期 1年	1	2	223
	特別研究 1 伊藤　健一	2学期 1年	1	2	224
	特別研究 1 鄧　紅	2学期 1年	1	2	225

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究１ 武井　満幹	2学期	1	2	226
		1年			
	特別研究１ 胡　玉華	2学期	1	2	227
		1年			
	特別研究１ 佐藤 眞人	2学期	1	2	228
		1年			
	特別研究１ 真鍋　昌賢	2学期	1	2	229
		1年			
	特別研究１ ダニエル・ストラック	2学期	1	2	230
		1年			
	特別研究１ ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	231
		1年			
	特別研究１ 漆原 朗子	2学期	1	2	232
		1年			
	特別研究１ 葛西　宏信	2学期	1	2	233
		1年			
	特別研究１ 堀地　明	2学期	1	2	234
		1年			
	特別研究１ 下野　寿子	2学期	1	2	235
		1年			
	特別研究１ 白石　麻保	2学期	1	2	236
		1年			
	特別研究１ 金 鳳珍	2学期	1	2	237
		1年			
	特別研究１ 尹 明憲	2学期	1	2	238
		1年			
	特別研究１ 八百 啓介	2学期	1	2	239
		1年			
	特別研究１ 小林 道彦	2学期	1	2	
		1年			

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■特別研究科目	特別研究１ 篠崎　香織	2学期	1	2	1年	240
	特別研究１ 伊野 憲治	2学期	1	2	1年	241
	特別研究１ 田村 慶子	2学期	1	2	1年	242
	特別研究１ 寺田 由美	2学期	1	2	1年	243
	特別研究１ 中野 博文	2学期	1	2	1年	244
	特別研究１ 北　美幸	2学期	1	2	1年	245
	特別研究１ 久木 尚志	2学期	1	2	1年	246
	特別研究１ 魏　芳	2学期	1	2	1年	247
	特別研究１ 大平　剛	2学期	1	2	1年	248
	特別研究１ 山本　直	2学期	1	2	1年	249
	特別研究１ ジェニファー・ラーソンホール	2学期	1	2	1年	250
	特別研究１ 永末　康介	2学期	1	2	1年	251
	特別研究２ 田島　司	1学期	2	2	2年	
	特別研究２ 児玉 弥生	1学期	2	2	2年	252
	特別研究２ 河嶋 静代	1学期	2	2	2年	253

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■特別研究科目	特別研究２ 楠 凡之	1学期 ２年	2	2	254
	特別研究２ 稲月 正	1学期 ２年	2	2	255
	特別研究２ 竹川 大介	1学期 ２年	2	2	256
	特別研究２ 岩松　文代	1学期 ２年	2	2	
	特別研究２ 田部井 世志子	1学期 ２年	2	2	
	特別研究２ 木原 謙一	1学期 ２年	2	2	
	特別研究２ 伊藤 健一	1学期 ２年	2	2	257
	特別研究２ 鄧　紅	1学期 ２年	2	2	
	特別研究２ 武井　満幹	1学期 ２年	2	2	258
	特別研究２ 胡　玉華	1学期 ２年	2	2	259
	特別研究２ 佐藤 眞人	1学期 ２年	2	2	
	特別研究２ 大平　剛	1学期 ２年	2	2	
	特別研究３ 田島　司	2学期 ２年	2	2	
	特別研究３ 児玉 弥生	2学期 ２年	2	2	260
	特別研究３ 河嶋 静代	2学期 ２年	2	2	261

社会システム研究科 社会システム研究科　博士前期課程（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究３ 楠　凡之	2学期 ２年	2	2	262
	特別研究３ 稲月　正	2学期 ２年	2	2	263
	特別研究３ 竹川　大介	2学期 ２年	2	2	264
	特別研究３ 田部井　世志子	2学期 ２年	2	2	
	特別研究３ 木原　謙一	2学期 ２年	2	2	
	特別研究３ 伊藤　健一	2学期 ２年	2	2	265
	特別研究３ 鄧　紅	2学期 ２年	2	2	
	特別研究３ 武井　満幹	2学期 ２年	2	2	266
	特別研究３ 胡　玉華	2学期 ２年	2	2	267
	特別研究３ 佐藤　眞人	2学期 ２年	2	2	
	特別研究３ 大平　剛	2学期 ２年	2	2	

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor	田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済分析の前提となるマクロ経済学の基礎知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	マクロ経済学の基礎理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	マクロ経済学の基礎知識を正しく活用して、現実経済の抱える問題点を正しく理解できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

マクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　GDPとマクロ経済循環（１）　【GDP】【付加価値】【最終財】
3回　GDPとマクロ経済循環（２）　【三面等価】【貯蓄投資バランス】
4回　GDPとマクロ経済循環（３）　【GDPデフレーター】
5回　所得・支出モデル（１）　【潜在的GDP】【有効需要原理】
6回　所得・支出モデル（２）　【均衡GDP】
7回　所得・支出モデル（３）　【乗数効果】【節約のパラドックス】
8回　所得・支出モデル（４）　【財政政策】【均衡予算乗数】
9回　流動性選好理論（１）　【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
10回　流動性選好理論（２）　【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
11回　流動性選好理論（３）　【中央銀行】【公開市場操作】
12回　流動性選好理論（４）　【信用創造】【貨幣乗数】
13回　IS-LMモデル（１）　【IS曲線】【LM曲線】
14回　IS-LMモデル（２）　【財政政策】【金融政策】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）　30%　　期末試験　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

経済学は積み重ねの学問なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	ミクロ経済分析の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	現代のミクロ経済の諸問題に関連する情報を収集し、分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

ミクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いての、現実の種々の経済問題への理論的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ミクロ経済学と数学
２回　消費者行動理論（１）：【選好】【効用】【無差別曲線】
３回　消費者行動理論（２）：【予算制約】最適消費量の決定
４回　消費者行動理論（３）：【スルーツキー方程式】
５回　消費者行動理論（４）：【補償需要】
６回　生産者行動理論（１）：【生産物市場】【生産要素市場】
７回　生産者行動理論（２）：【生産理論】
８回　生産者行動理論（３）：【費用理論】
９回　生産者行動理論（４）：最適供給量の決定
１０回　厚生経済学（１）：【エッジワースのボックス・ダイヤグラム】
１１回　厚生経済学（２）：【パレート最適】
１２回　厚生経済学（３）：【厚生経済学の定理】
１３回　市場と市場調整
１４回　経済とミクロ経済分析
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度　３０％　　レポートもしくは小テスト　７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

入門レベルのミクロ経済学について事前に復習をしておくと、授業内容の理解がより深まる。

キーワード　/Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、市場、厚生経済学

計量経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　藤井　敦 / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	統計的推定検定を理解し、計量経済学の基礎を固め、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	統計ソフトを用いて、経済データを的確に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	統計的手法を用いて、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

計量経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

表計算ソフト，およびいずれかの計量経済分析用ソフトウエアを学ぶ．
これを用いて，簡単な分析ができるようになることを目指す．

教科書　/Textbooks

適宜，実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　概要
２回　表計算ソフトを用いたデータ収集と整理
３回　　表計算ソフトを用いたデータ分析と視覚化
４回　表計算ソフトを用いた回帰分析：実行方法と解釈方法
５回　表計算ソフトを用いた回帰分析：理論的な背景
６回　実証分析例(回帰分析)
７回　データベースソフトを用いたデータの整理
８回　実証分析例(パネルデータ)
９回　計量経済ソフトの使用：準備
１０回　計量経済ソフトの使用：データファイル
１１回　計量経済ソフトの使用：簡単なプログラム
１２回　計量経済ソフトの使用：グラフ作成
１３回　演習：データ収集，読み込み，プログラム
１４回　演習：結果の視覚化と解釈
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加　…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習：指定された資料を読んでからご参加ください．
復習：授業のメモを作成してください．

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

計量経済分析基礎 【昼】

キーワード　/Keywords

地域経済論 【昼】

担当者名 /Instructor	田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	地域経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	地域経済に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

地域経済論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

教科書　/Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1．都市とは何か
2．経済活動の場としての都市
3．都市を支える人、物、情報のフロー
4．交易と都市
5．物財生産と都市
6．都市化の進展
7．工業都市から情報都市へ
8．都市で行われる経済活動
9．中心地論
10．工業立地論
11．オフィス立地論
12．都市システム論
13．コンピュータ・ ネットワークと都市
14．21世紀の都市像
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの当該個所を予め予習しておくこと。

地域経済論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

キーワード　/Keywords

経済史 【昼】

担当者名 /Instructor	土井　徹平 / 経済学科						
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済史に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

経済史

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることを目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何が見えてくるのか。過去を知ることで、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代のイギリスを発端とし世界に波及していった「産業革命」を事例とします。そして「産業革命」とはいかなる「革命」で、なぜ「革命」は起きたのか分析することを通じて、経済史を学ぶ意義について皆さんと考えていきたいと思います。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「経済史」という方法論
第２回　「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
第３回　「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
第４回　戦（いくさ）と掠奪（りゃくだつ）の経済史
第５回　もう一つの「大いなる分岐」–経済格差の構造化 -
第６回　生産力の肥大化と「帝国主義」
第７回　なぜ「産業革命」はイギリスで起こったのか - 財産権と「産業革命」 -
第８回　「革命」のインセンティヴ
第９回　「発明」はいかにして起こったか
第１０回　エネルギーと「産業革命」
第１１回　なぜ日本は「産業革命」を実現できたのか
第１２回　「明治維新」の経済史的意義
第１３回　「革命」の輸入
第１４回　産業革命はアジアで起こり得たか
第１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…８０％　日常での授業への取り組み…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の授業内容を復習して講義に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

経済史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力＝分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と感じてきた方でも、歴史をもとに考える意思さえあれば、まったく問題ありませんので主体的にご参加ください。

キーワード　/Keywords

経済史　社会経済史　産業革命

会計学I 【昼】

担当者名 /Instructor　白石 和孝 / ＳＨＩＲＡＩＳＨＩ　ＫＡＺＵＴＡＫＡ / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	会計に関する高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

会計学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Iでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

教科書　/Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第16版〉』（中央経済社）、桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（第10版）』（有斐閣）、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
２回　同上
３回　同上
４回　同上
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・・・　80%　　ディスカッションへの参加・・・　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分予習をしておくとともに、復習もしておくこと。

会計学I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

財務会計I 【昼】

担当者名 /Instructor	西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	財務会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

財務会計Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

教科書　/Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社
斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　財務会計入門
２回　収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
３回　収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
４回　収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
５回　資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
６回　資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
７回　資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
８回　会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
９回　旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
１０回　旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
１１回　現代会計の諸問題【退職給付会計】
１２回　現代会計の諸問題【資産除去債務】
１３回　IFRSの検討【減損会計】
１４回　IFRSの検討【公正価値会計】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平素の学習状況　・・・　８０％　レポート　・・・　２０％

財務会計I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ(＝損益法)と資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネット等で学習しておくこと。
事後学習：財務会計論の基礎的な思考並びにキータームを整理しておくこと

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経営学I 【昼】

担当者名 /Instructor　遠藤　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	企業経営の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	企業経営に関する専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

経営学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本の企業経営と人事労務管理全般、ならびに各論について、十分な予習、報告と討論を通じて理解を深めていく。

教科書　/Textbooks

受講者の要望も取り入れて、１回目に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

初回：大学院生の勉強の仕方について講義。受講生の要望を聞いて、テキストを決定する。

第１部：企業経営と人事労務管理
第２部：採用から定年までの仕事
第３部：職場の男女平等とディーセント・ワーク
第４部：日本の人事労務管理、２０世紀と２１世紀

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容５０％、討論内容５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

マーケティング 【昼】

担当者名 /Instructor	別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	マーケティングに関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

マーケティング

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2~15回　ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経営組織の諸問題・諸課題について、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

経営組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

教科書　/Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

岸田民樹編『組織論から組織学へ』文眞堂、2009年。 (○)
三井泉編『フォレット』文眞堂、2012年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、到達目標で示した三点の理解を目指します。
講義では、学生による報告、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

第1回　ガイダンス
第2回～14回　上記テキストの各章の輪読
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度　30%　　発表・報告内容　40%　　レポート提出等　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された教科書について、報告者は講義前に該当箇所をよく読み込んでレジュメを作成し、報告者以外の人も読み込んで講義に臨んでください。また、講義後にもう一度該当箇所を読み復習しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

キーワード　/Keywords

情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　池田　欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	情報管理に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	情報管理の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	情報管理に関する高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

情報管理基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義ではデータを管理、分析する手法について学ぶ。データ管理ではデータベースソフトを用いデータの効率的な管理方法、利用手法について学ぶ。データ分析では統計ソフトや表計算ソフトを利用してデータの統計、多変量分析手法について学ぶ。テキスト輪読と実習を併用し、テキストで学んだ後、実習によって理解度を深める、定期的に宿題（レポート課題）の提出をしてもらう。

教科書　/Textbooks

初回に指示（1回目に相談後、書籍や論文を指定し輪読）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※受講者の希望、習熟度、進行状況などにより内容、順番、進み方は変更になる場合があります。

第１回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
第２回：統計ソフト、表計算ソフトの利用
第３回：統計ソフト、表計算ソフトを使った統計分析
第４回：データと度数分布確率変数と確率分布
第５回：2グループの関係、比較
第６回：回帰分析
第７回：イベントスタディ
第８回：機械学習手法の学習
第９回：機械学習手法の応用
第１０回：機械学習手法とシミュレーション
第１１回：機械学習手法とシミュレーション実習
第１２回：データベースの設計方法、リレーショナルデータベース
第１３回：データベースソフトの利用方法
第１４回：クエリによるデータ抽出
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日ごろの取り組み（発表内容など）...30%、 宿題（レポート）...30%、期末試験...40%

詳細は第1回目に説明します。期末試験は期末レポートに変更する場合があります。

情報管理基礎 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

基礎的内容も簡単に話しますが、学部レベルの統計学の知識は前提とします。

講義前にはテキストや資料により予習、準備をし、講義後には復習と課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

USBフラッシュメモリを使いますので持っていない人は準備してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor	田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	マクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	マクロ経済の専門家として、より高度なマクロ経済理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	より高度なマクロ経済の専門知識を生かして、現実経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

マクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

「マクロ経済分析基礎」（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、開放経済下のマクロ経済（マンデル＝フレミング・モデル）、経済成長理論、消費・貯蓄の決定理論、世代重複モデルなどである。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　IS-LMモデルの復習　【IS曲線】【LM曲線】【財政・金融政策】
3回　AD-ASモデル（1）　【総需要曲線】【総供給曲線】
4回　AD-ASモデル（2）　【ディマンドプル・インフレ】【コストプッシュ・インフレ】【スタグフレーション】
5回　マンデル＝フレミング・モデル（1）【為替レート】【変動相場制度】【固定相場制度】
6回　マンデル＝フレミング・モデル（2）【開放経済下の財政・金融政策】
7回　新古典派成長理論（1）【経済成長】【マクロ生産関数】【TFP】【資本労働比率】
8回　新古典派成長理論（2）【収束】【黄金律】
9回　新古典派成長理論（3）【人口成長】【TFP成長】
10回　新古典派成長理論（4）【人的資本】
11回　消費・貯蓄の決定理論（1）【消費平準化】【異時点間の予算制約】【効用最大化】
12回　消費・貯蓄の決定理論（2）【リカードの中立命題】
13回　世代重複モデル（1）【資本の過剰蓄積】
14回　世代重複モデル（2）【世代間の所得分配】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）　30%　　期末試験　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な文献を読むこと。

履修上の注意　/Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

マクロ経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	ミクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	ミクロ経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

ミクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 ミクロ経済学と数学
２回 不完全競争の経済分析（１）：【独占】、価格差別」
３回 不完全競争の経済分析（２）：【クールノー・ナッシュ均衡』
４回 不完全競争の経済分析（３）：【寡占】、【独占的競争】
5回 不完全競争の経済分析（４）：まとめ
６回 不確実性と情報の経済分析など（１）：【不確実性】、【リスク】、
７回 不確実性と情報の経済分析など（２）：【逆選択】【道徳的危険】
８回 不確実性と情報の経済分析など（３）：【情報】、【シクナル】
9回 不確実性と情報の経済分析など（４）：まとめ
10回 ゲーム理論とミクロ経済分析（１）：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
11回 ゲーム理論とミクロ経済分析（２）：【非協力ゲーム】【同時ゲーム】
12回 ゲーム理論とミクロ経済分析（３）：【逐次ゲーム】
13回 ゲーム理論とミクロ経済分析（４）：【協力ゲーム】
14回 ミクロ経済分析の応用
15回 総まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業参加態度　３０％　　レポートもしくはテスト　７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

なし

ミクロ経済学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード　/Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor　藤　貴子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	財政と租税の理解に必要なより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	財政と租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	財政と租税のより高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

財政学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本では2014年4月より消費税率が引き上げられ、元来、所得税が中心であった税体系において、消費税収は所得税収と並ぶ基幹税目となった。経済のグローバル化は、各国の租税政策に大きな影響を与えており、このような所得税の地位低下は日本に限るものではない。この授業では、グローバル化の下で租税体系の収斂化が進む各国税制の中でも、唯一、国税において所得課税中心主義を貫くアメリカの租税政策と、1990年代後半から2000年代にかけて租税体系の消費課税化を進めたドイツの租税政策について比較検討し、現代税制の課題と展望を考察する。

教科書　/Textbooks

関口智『現代アメリカ連邦税制–付加価値税なき国家の租税構造』東京大学出版会　2015年　￥6,912
関野満夫『現代ドイツ税制改革論』税務経理協会　2014年　￥3,996

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中村良広『所得税改革–日本とドイツ』税務経理協会　2013年　￥3､024

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　カイダンス、世界の税制改革の潮流について
第2回　アメリカ連邦財政の特質
第3回　アメリカ連邦税制の水平的租税関係
第4回　アメリカにおける租税支出と雇用主提供民間医療保険
第5回　アメリカ税制からみた医療・年金資金の個人積立口座化
第6回　オバマ政権の経済・財政政策の成果と課題
第7回　アメリカにおける勤労所得の資本所得化と税制
第8回　アメリカの経常収支の赤字と国際租税政策
第9回　グローバル化とアメリカにおける消費課税論の台頭
第10回　トランプ政権における財政・租税政策の議論
第11回　近年アメリカ税制の課題・小テスト(1)
第12回　ドイツ税制の由来と税制改革2000
第13回　ドイツ売上税（付加価値税）改革と純資産課税の動向
第14回　グローバル化とドイツ企業税制改革
第15回　ドイツ税制の課題・現代税制の課題と展望・小テスト(2)

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート40%、小テスト（2回）40%、日常の授業への取り組み20%

財政学II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、教科書を読んで、配布資料を熟読し、予習をした上で受講すること。
授業後には、参考文献や学部レベルの財政学のテキスト等を参照して、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。
なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

財政　租税

金融論 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	金融の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	金融に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　日本の金融市場
3回　家計の金融活動
4回　企業の金融活動
5回　情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
6回　情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
7回　金融仲介機関の存在理由
8回　地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
9回　地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
10回　銀行経営とガバナンス【BIS規制】
11回　銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
12回　郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融資計画】
13回　郵政民営化【経営形態とその問題点】
14回　証券化と金融市場
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・ 50%、報告内容・・・ 30%、ディスカッションへの貢献・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。
毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

金融論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際金融論 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	国際金融システムの枠組みと運動法則に関する専門的な知識を身につけ、国際金融の諸現象を深く洞察し、それらの原因と影響を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	国際金融関係の文献資料や情報・データを収集し、内容を適切に分析・加工・利用することができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	国際金融に関する知識を常に求め、国際金融システムが直面する諸課題に対して、分析と思索と提言を行う態度を身につけることができるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　円高・円安とは　【クロスレート】
2回　為替レートによる換算　【実質為替レート】【実効為替レート】
3回　国際収支表の概要　【経常収支】
4回　国際収支表における複式簿記の原理　【貸借対照表】
5回　並為替と逆為替　【コルレス銀行】
6回　荷為替信用制度と決済　【信用状】
7回　グローバル化と直接投資　【投資収支】
8回　国際証券投資と外貨準備　【対外資産・負債】
9回　為替レートを左右するもの　【アセットアプローチ】
10回　為替レートの変動が与える影響　【マーシャル・ラーナー条件】
11回　経常収支を左右するもの　【ISバランス】
12回　国際資本移動を左右するもの　【キャリー取引】
13回　基軸通貨と国際通貨体制　【為替媒介通貨】
14回　国際通貨・金融危機の原因　【国際資本移動】
15回　危機の予防と対処　【IMFコンディショナリティー】【プルーデンス政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する（100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の初回に指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際金融論 【昼】

キーワード　/Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor	後藤　宇生 / 経済学科						
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法を理解、運用し、経済問題の解決に貢献できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	国際的な学術雑誌を詳細に読むことを通じて、先行研究の情報を有益に利用できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、分析・理解し、改善案を提案できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

産業組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

海外の雑誌を参考に、産業組織論におけるResearch Questionを解くことを目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Kenneth Train. 2009. Discrete Choice with Simulation. 2nd. Cambridge University Press.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回から15回：
Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌等の論文を精読し、Research Questionを解くための手法を理解する。

成績評価の方法　/Assessment Method

試験　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意　/Remarks

統計学、計量経済学、微積分学、線形代数の知識が必要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

統計学 【昼】

担当者名 /Instructor　林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	統計学の幅広い高度な知識を身につけ、応用できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	統計学の推定、検定を利用して、経済・経営分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	統計学を通じて、科学的な思考ができるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

統計学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

到達目標
①統計的推定と検定を理解する。
②正規分布をはじめとする密度関数の性質を理解する。
③漸近分布の概念を理解する。

教科書　/Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　離散型確率変数
2　連続型確率変数
3　離散型確率変数の同時分布
4　連続型確率変数の同時分布
5　二項分布
6　ポアソン分布
7　ガンマ分布
8　正規分布
9　二変数正規分布
１０　漸近分布
１１　点推定
１２　区間推定
１３　統計的検定の初歩
１４　一様最強力検定
１５　尤度比検定

成績評価の方法　/Assessment Method

平素の成績による (100%) 。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。
事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

統計学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学 【昼】

担当者名 /Instructor　藤井　敦 / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	計量経済学の理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	経済の専門家として、必要な情報を収集し、計量経済学的分析を行えるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	経済の問題・現象と数量的な分析を関連付けられるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

計量経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

教科書　/Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

1回講義概要と表計算ソフトの操作
2回因果関係を調べる
3回回帰分析
4回要因分解
5回社会現象と実験
6回複雑な因果関係(操作変数)
7回情報の構造を利用する(パネルデータ)
8回色のついたデータ(標本選別)
9回確率分布の特徴(最尤原理と積率法)
10回多肢選択
11回過去が未来に影響することを利用する
12回データの縮約
13回潜在変数を使った分析
14回効率性分析
15回まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…50%、授業への参加…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習：クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください．

復習：授業のメモを作成してください．

計量経済学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

労働経済学 【昼】

担当者名 /Instructor　畔津　憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	労働経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

労働経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

近年、経済組織における人事マネッジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している．本講義では，採用・解雇基準の設定，賃金形態の設定，職業訓練の実施といった人事制度に関するトピックについて学ぶ．講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする．人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための基礎を身につけることを目標とする．

教科書　/Textbooks

『人事と組織の経済学』，エドワード P. ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：人事の経済学とは【人事制度】
第2回　採用基準の設定（１）【限界分析】
第3回　採用基準の設定（２）【対費用効果】
第4回　適任者の採用【自己選択】【モニタリング】
第5回　労働者の生産性を知る【非対称情報】【職務配置】
第6回　変動給与と固定給与（１）【投入ベース】【産出ベース】
第7回　変動給与と固定給与（２）【リスク回避】【就労インセンティブ】
第8回　人的資本理論（１）【人的資本理論】【学校教育】
第9回　人的資本理論（２）【職場訓練】
第10回　離職・解雇・希望退職（１）【年齢構成】
第11回　離職・解雇・希望退職（２）【希望退職】【選別的解雇】
第12回　情報，シグナル及び引き抜き（１）【シグナリング】
第13回　情報，シグナル及び引き抜き（２）【引き抜き】
第14回　動機づけとしての昇進（１）【トーナメント】
第15回　動機づけとしての昇進（２）【絶対成果】【相対成果】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の取り組み 70%, レポート　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキストを読んでおくこと。講義中の課題を出すので解くこと。

履修上の注意　/Remarks

労働経済学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor	牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	環境問題を経済分析するのに必要な高度な専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	環境経済学における経済理論モデルの理解、実証分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	現在直面する環境問題の課題の抽出、解決策の提案ができるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

環境経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

教科書　/Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン　『環境経済学–理論と実践』　勁草書房　2005年○
岡敏弘　『環境経済学』　岩波書店　2006年○
環境経済・政策学会編　『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣　2006年○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
2回　ミクロ経済学の復習1　【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
3回　ミクロ経済学の復習2　【余剰分析】、【部分均衡分析】
4回　ミクロ経済学の復習3　【外部性】、【公共財】
5回　環境政策の経済分析1　【直接規制】、【経済的手法】
6回　環境政策の経済分析2　【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
7回　地球温暖化の経済分析　【排出権取引】、【環境税】
8回　廃棄物の経済分析　【廃棄物課税】、【デポジット制】
9回　環境評価　【仮想評価法】、【コンジョイント法】
10回　再生可能エネルギーの経済分析1　【FIT】、【RPS】
11回　再生可能エネルギーの経済分析2　【分散型発電】、
12回　スマートグリットの経済分析1　【デマンドレスポンス】
13回　スマートグリットの経済分析2　【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
14回　最近の研究動向の紹介
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義中の発言（25%）、発表（25%）、期末試験（50%）

環境経済学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前までに教科書の該当する章を予め読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で確認テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor　奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

応用地域科学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、「地域科学」（Regional Science）についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、問題解決志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウオルター・アイサード教授によれば、「ある１つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的でしかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深くしかも忍耐強く調査研究を試みるものである」をいう。

教科書　/Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション・ガイダンス
２回　地域科学とは
３回　分析対象としての地域概念の検証
４回　地域経済分析の基礎１
５回　地域経済分析の基礎２
６回　地域経済分析の基礎３
７回　産業連関分析の基礎１
８回　産業連関分析の基礎２
９回　産業連関分析の基礎３
１０回　産業連関分析—地域産業連関表
１１回　産業連関分析—地域間産業連関表
１２回　産業連関分析—政策分析への応用１
１３回　産業連関分析—政策分析への応用２
１４回　産業連関分析—より高度なテクニック
１５回　期末レポート発表および討論

成績評価の方法　/Assessment Method

授業時の学習態深度、２０％：レポート発表、３０％：レポートの内容、５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

当該授業に係わる論文・書籍の内容の理解はもとより、院生が不明と思う点に関して自ら調べ授業の備える。授業後は当該授業の内容の深い理解に努めるとともに、さらなる不明点がある場合はそれについて調べる。

応用地域科学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学は必須、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。
各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

地域科学は空間を扱う実践的な学問です。計量分析中心ですがその応用範囲は大変広く、将来的にも大変役立つ学問領域です。

キーワード　/Keywords

地域科学、計量分析、都市経済学、地域経済学

会計学II 【昼】

担当者名 /Instructor　白石 和孝 / ＳＨＩＲＡＩＳＨＩ　ＫＡＺＵＴＡＫＡ / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

会計学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学IIではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

教科書　/Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第16版〉』（中央経済社）、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
２回　同上
３回　同上
４回　同上
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・・・　80%　　ディスカッションへの参加・・・　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくとともに、復習もしておくこと。

会計学II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

財務会計II 【昼】

担当者名 /Instructor　西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	財務会計に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	財務会計に関するより高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

財務会計Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社
斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　財務報告の目的【財務報告】
２回　「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
３回　会計情報の質的特性【意思決定有用性】
４回　「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
５回　財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
６回　「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式、貸借対照表等式】
７回　財務諸表における認識と測定（その１）【認識】
８回　財務諸表における認識と測定（その２）【測定】
９回　「財務諸表における認識と測定」の検討（その１）【写像】【築像】
１０回　「財務諸表における認識と測定」の検討（その２）【定量化】【定性化】
１１回　財務報告の問題点（その１）【財務報告】【非財務報告】
１２回　財務報告の問題点（その２）【純利益】【包括利益】
１３回　概念フレームワークと実証研究【実証性】
１４回　財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況　・・・　８０％　レポート　・・・　２０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ（＝損益法）と資産・負債アプローチの考え方について、教科書、参考書、インターネット等の文献を用いて学習しておくこと。
事後学習：財務会計論のキータームを中心に、基礎的な思考を整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

財務会計II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業内容は、院生との相談の上、進める予定である。

キーワード　/Keywords

管理会計 【昼】

担当者名 /Instructor　梅澤　俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	管理会計の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	管理会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	管理会計に関する高度な専門知識を生かして、会計や経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

管理会計

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、企業評価や契約における会計の役割を検討する。

基本的に、指定テキストの各章を、1章につき2コマ使って、輪読 (精読) する予定である。
各章の担当者には、レジュメを作成の上、パワーポイントで説明をしてもらう。

教科書　/Textbooks

Christensen, J.A. and J.S. Demski. 2003. Accounting Theory: An information content perspective. McGROW HILL.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の方針、内容や評価についての説明
２回　Chapter 1: Introduction
３回　Chapter 2: The reporting organization
４回　Chapter 2: The reporting organization
５回　Chapter 3: Classical foundation
６回　Chapter 3: Classical foundation
７回　Chapter 4: Accounting foundation
８回　Chapter 4: Accounting foundation
９回　Chapter 5: Modeling information
１０回　Chapter 5: Modeling information
１１回　Chapter 6: Information use at the individual level
１２回　Chapter 6: Information use at the individual level
１３回　Chapter 7: The accounting system as an information channel
１４回　Chapter 7: The accounting system as an information channel
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（授業中の発言など）…５０％ 報告…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は、報告の前に資料を作成・準備し、報告後にコメントを踏まえて資料を修正してから、資料を提出すること。

管理会計 【昼】

履修上の注意　/Remarks

学部レベルの会計関連科目およびミクロ経済学関連科目は履修済みであること。
ミクロ経済学ベースの会計なので、「ミクロ経済分析基礎」および「コーポレート・ファイナンス」を履修済みであること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経営学II 【昼】

担当者名 /Instructor　遠藤　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	企業経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	企業経営に関するより高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

経営学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本の企業経営について考えていく。入念な予習に基づく受講者の報告の後、毎回のテーマについて議論し、理解を進化させていく。

教科書　/Textbooks

事例研究が中心となるため教科書は使用しない。テーマに関する資料・論文を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２~１５回：日本企業のうち、過去２０年間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、成功と失敗の要因を探求していく。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容５０％、討論内容５０％。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経営戦略論 【昼】

担当者名 /Instructor　浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経営戦略に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	経営戦略の策定に寄与する情報の収集・分析手法、戦略計画の立案・評価の手法を身につけることができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門的な知識にもとづいて、経営戦略に関わる課題解決に主体的に取り組むことができるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

経営戦略論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
到達目標は以下のとおりです。
経営戦略論の基礎・応用理論の修得により、現実の経営現象の説明ができる。

教科書 /Textbooks

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年を使用。
その他、随時、参考資料を提供する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに沿って随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。

第1回　ガイダンス
第2回　イントロダクション　【定義】【経営戦略論史】
第3回　事業戦略①フレームワーク　【SWOT】【Five Forces】【VC】【RBV】
第4回　事業戦略②基本戦略　【差別優位】【コスト優位】
第5回　競争のダイナミズム①競争優位の持続可能性　【システム】【経営資源】【組織能力】
第6回　競争のダイナミズム②業界標準と競争　【ネットワーク外部性】【業界標準】【競争と協調】
第7回　競争のダイナミズム③イノベーションと産業進化　【技術】【市場】【収益化】
第8回　企業戦略①フレームワーク【事業の定義】【取引費用】【事業範囲】
第9回　企業戦略②垂直統合　【生産費用】【取引費用】【中間組織】
第10回　企業戦略③多角化　【多角化の要因】【多角化のタイプ】【学習】
第11回　企業戦略④多角化のマネジメント【組織形態】【PPM】【凝集性】
第12回　国際化の戦略　【国際化の形態】【OLI】【トランスナショナル】
第13回　参入と撤退　【内部成長】【M&A】【アライアンス】
第14回　撤退とリストラクチャリング【清算】【売却】【事業統合】【リストラクチャリング】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%　　発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

経営戦略論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード　/Keywords

経営環境　経営戦略　イノベーション　組織変革

コーポレート・ ファイナンス 【昼】

担当者名 /Instructor　松本　守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	コーポレート・ファイナンス理論の観点から、企業経営で生起する諸問題の課題を設定し、それらの問題を分析し、解決策を考えることができるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

コーポレート・ファイナンス

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義は，欧米のビジネススクールで定評のあるテキストを輪読し，コーポレート・ ファイナンスの基礎概念と主要なトピックを学習します。

教科書　/Textbooks

Richard Brealey , Stewart Myers , Franklin Allen ,Principles of Corporate Finance 10th,McGraw Hill Higher Education,2010.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Stephen A. Ross, Corporate Finance ,McGraw-Hill Higher Education.

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　Goals and Governance of the Firm
第3回　How to Calculate Present Values
第4回　Valuing Bonds
第5回　The Value of Commons Stocks
第6回　Net Present Value and Other Investment Criteria
第7回　Making Investment Decisions with the Net Present Value Rule
第8回　Introduction to Risk and Return
第9回　Portfolio Theory and the Capital Asset Pricing Model
第10回　Risk and the Cost of Capital
第11回　Agency Problems, Compensation, and the Performance Measurement
第12回　Efficient Markets and Behavioral Finance
第13回　How Corporations Issue Securities
第14回　Payout Policy
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…50%　授業への貢献度など (報告・ 発言・ レポートなど) …50%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

受講にあたって，事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
講義終了後には，必ず講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

学部レベルの「ミクロ経済学」・「統計学・ 計量経済学」・「会計学 (財務会計・ 管理会計) 」の知識を前提とします。不安がある場合はしっかり復習しておいて下さい。
参加者は毎回報告の義務があります (毎回レポートを課します) 。また，授業中に何も発言しない人 (自発的に発言しない人) には単位を与えません。

コーポレート・ファイナンス 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor	福井　直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析できる技能を形成できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門的知識を活かし、現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

人的資源管理

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。
扱う領域は学部講義である「人的資源管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したく、学術的研究の動向にウェイトを置いた議論を展開したいと考えています。

教科書　/Textbooks

受講者の学習水準に合わせて選定したいが、現時点では、下記参考書に挙げている奥林・原田(2014)の使用を検討している。ただし、それを用いるか否かは講義の第1回の話し合いで決定するので、必ず出席してほしい。
ただし、昨年度は受講者が初学者のみであったため、教科書として平易な上林憲雄編(2015)『ベーシックプラス人的資源管理』中央経済社を指定した。この教科書は数少ない大学院生向けの人的資源管理テキストであり、読み応え十分である。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

上林憲雄編(2015)『ベーシックプラス人的資源管理』中央経済社。（昨年使用した教科書）
奥林康司・原田順子(2014)『人的資源管理』放送大学教育振興会。（一昨年使用した教科書）
岩出　博(2013)『Lecture人事労務管理（増補版）』泉文堂。
白木三秀編(2013)『人的資源管理の基本(第3版)』文眞堂。
上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
奥林康司・上林憲雄・平野光俊編(2009)『入門人的資源管理（改訂版）』中央経済社。
その他、専門的な学術論文を適宜配布するので、これについても予習が必要。

※奥林ほか編(2009)は3年前の指定教科書である。大学院レベルとしては少々易しいかもしれない。
※別途、各回において論文を配布する。

人的資源管理 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、人的資源管理研究概論
２回　経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
３回　組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
４回　職務設計論の研究【分業】【調整】
５回　人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
６回　雇用管理の研究【終身雇用】【雇用の流動化】
７回　人材育成の研究【キャリア】【OJT】
８回　人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
９回　賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
１０回　労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
１１回　人材ポートフォリオの研究【非正社員】
１２回　ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
１３回　ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
１４回　人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
１５回　まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、いずれの教科書を用いるかによって若干内容は変化することに留意されたい。また、人的資源管理に関する基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・・・ 25%（配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が思いのほか多くなることはあらかじめ了承されたい。）
中間レポート・・・ 50%（2,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）
最終レポート・・・ 25%（4,000字～6,000字を予定）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：事前に教科書の該当箇所、および配布された論文は必ず読んでくること。自分の報告のときだけ予習し、他人の報告のときは学習しないなどは言語道断。
事後学習：教科書を再度読み、報告レジュメを読みなおすことで、各回の復習を必ず行うこと。報告のやりっ放しにならないように。

履修上の注意　/Remarks

（１）このシラバスを読んだうえで履修登録すること。時間帯の都合だけで科目選択してはならない（本科目に限らない）。
（２）講義は日本語で行なう。
（３）大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。とくに、学部で人的資源管理（あるいはそれに類する科目）を受講した学生を主対象としたい。ただ、学部のときに当該科目を履修した経験がないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただし、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。
人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。とはいえ、人的資源管理に関する最低限の基礎知識はあることを前提として講義を進めたい。経営組織論や経営戦略論と併せて受講することを推奨する。
時間割で選択する科目は、自身のプラスになるように考えたうえで選択すること。繰り返すが、単位の取りやすさ、曜日や時限だけで判断しないこと。

キーワード　/Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

コミュニケーション論 【昼】

担当者名 /Instructor	安藤　満代 / Michiyo Ando / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	コミュニケーションにおける心理学の諸分野の理論的な知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	コミュニケーションに係わる諸問題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	コミュニケーションに係わる諸問題を心理学的観点から検討できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

コミュニケーション論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

前半は「コミュニケーションの基礎」「コミュニケーションの様相と関係性」「コミュニケーションの影響力」について学修する。後半ではコミュニケーションの研究法で主要な実験法、質問紙法、インタビュー法の解説と論文購読を行い、最後に受講生による発表を行う。

教科書　/Textbooks

辻大介他著（2014）　コミュニケーション論をつかむ　　有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○浦上昌則、脇田貴文（2008）心理学、社会科学研究のための調査系論文の読み方　東京書籍
○末田清子他　（2012）コミュニケーション研究法　ナカニシヤ出版
○APA（アメリカ心理学会）(2004) APA論文作成マニュアル　医学書院

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　コミュニケーションとは何か、ことばとコミュニケーション
第3回　身体とコミュニケーション
第4回　談話・文章を理解するメカニズム、会話のダイナミクス
第5回　文字のコミュニケーション、映像のコミュニケーション
第6回　自己とコミュニケーション、社会関係とコミュニケーション
第7回　親密性とコミュニケーション、都市空間とコミュニケーション
第8回　説得、うわさ、世論
第9回　メディアの影響力、メディアの影響
第10回　コミュニケーション研究のアプローチ
第11回　実験法解説、実験法の論文購読
第12回　質問紙法の解説、質問紙法の論文購読
第13回　インタビュー法の解説、　インタビュー法の論文購読
第14回　受講者による発表および討論（前半）
第15回　受講者による発表および討論（後半）

成績評価の方法　/Assessment Method

1）担当章の発表のレポート：40%
2）受講生による発表のレポート：40%
3）授業への参加度：20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

コミュニケーションに関して、日常で感じる疑問、新聞やニュースで得た情報での疑問などを考えおいて下さい。

コミュニケーション論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

各自の修士論文のテーマと関連づけて考えみて下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者の数によっては、内容を一部変更することがある。

キーワード　/Keywords

コミュニケーション、人間関係、自己、社会

英語翻訳研究　【昼】

担当者名 /Instructor　野島　啓一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の諸分野に関する高度な知識を身に付け、国際社会に役立てる能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	専門的職業人として、英語力を駆使して資料の的確な分析とその発展的研究ができるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	専門的知識を活用して、グローバル社会が抱える課題を主体的に探索・解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語翻訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

i) major translation theories
ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

教科書　/Textbooks

Printed Material:
Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introductory Lecture
Week 2　Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3　Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4　Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5　Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6　Project Work (I): Relevance-theoretic Approach
Week 7　Project Work (II): Translation Principles
Week 8　Project Work (III): Communication Situations
Week 9　Communicative Clues
Week 10　Inter-lingual Interference
Week 11　Direct Translation and Indirect Translation
Week 12　A Unified Account of Translation
Week 13　Research Program: Planning and structuring
Week 14　Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15　Course review

英語翻訳研究　【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

in-class projects (20%)　+　take home quiz (20%)　+　exam (60%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students are required to organize review and preparation items after each class.

履修上の注意　/Remarks

None

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国語法研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor　王　占華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈できる能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	積極的に言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から研究課題を取り込んで、実践する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国語法研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国言語文化専攻及び他専攻の院生として、修得した方が将来の研究と仕事に役立てる文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、現代言語理論と中国語の研究・教育能力を身につける。

教科書　/Textbooks

資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
○朱 徳熙　『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
○相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
○杉村 博文　『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．　文法研究概説　文法研究の対象　文法研究の方法
２．　構造主義と中国語文法研究
３．　認知文法と中国語文法研究
４．　「配価（結合価）文法」と中国語文法研究
５．　語義特徴分析理論と中国語文法研究
６．　格文法と中国語文法研究
７．　生成文法理論と中国語文法研究
８．　機能文法・第二言語教育と中国語文法研究
９．　語用論と中国語文法研究
１０．これまでの重要な研究（問題別の観点・著作・論文）
１１．現代中国語文法研究における重要課題
１２．中国の有名な文法研究者及びその観点と論述
１３．日本の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
１４．海外の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の練習・発表・コメントにより100％で評価

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各種類の文法研究理論の分析資料として、２回目の授業より、事前分析と事後復習用の言語データを配布する。その都度に要求に応じてすること。

中国語法研究概論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

自分の外国語習得実践と非母語者に中国語を教える実践を想定し、理論的なレベルアップと実用能力を身につけることに心かけて履修するように望んでいる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

言葉は思考とコミュニケーションの道具であり、文法は思考と研究の規則である。専攻分野に関係なく、中国語や言語学の知識・教育の能力を身につけるための講義で、基礎を固めた上、視野を広め、積極的な思考・問題提起などを望んでいる。

キーワード　/Keywords

現代文法理論　比較文法　第２言語の習得　第２言語の教育　言語能力

中国文化研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説–魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説–魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイプセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した茅盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

教科書　/Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
第2回　中国近代と厳復『天演論』の影響について
第3回　中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
第4回　義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
第5回　魯迅と故郷紹興および作品集『吶喊』について
第6回　魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野厳九郎との関係について
第7回　魯迅と辛亥革命について
第8回　啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
第9回　五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
第10回　イプセンの『人形の家』と中国女性解放について
第11回　五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
第12回　革命文学論争–「創造社」「太陽社」VS魯迅について
第13回　中国左翼作家聯盟成立とその活動について
第14回　国防文学論争と魯迅の死について
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 40%　　レポート・・・ 60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

なし。

中国文化研究概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

中国民族文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor　竹村　則行 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国民族文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	現代中国語に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	中国民族文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国民族文化研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業は、中国民族文化研究「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、少数民族の匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や文学作品を系統的に読解することで、中国民族文化理解に資することを目的とする。

中国四大美人の一人として有名な王昭君は、漢民族と少数民族の融和と悲劇の象徴として、歴代の種々の詩文戯曲小説に描かれてきた。中国文学史、中国民族文化史上に占める王昭君の意義は今日も全く失われていない。

関連する作品は多数に上る。時間が限られた1学期の授業では、まず王昭君に関する歴史記録を確認した上で、宋代王安石の「明妃曲」、次いで欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

授業では、毎週担当者が30分程度で所定の作品内容について報告し、その後は担当者ー受講生が自由に討論する。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。必要な資料を担当者が毎回準備する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『古文真宝(前集)下』(星川清孝、明治書院、新釈漢文大系10、昭和42年)
『王昭君故事的伝承与嬗変』（張文徳、学林出版社、2008年）
『歴代歌詠昭君詩詞選注』（魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する歴史記録を踏まえた上で、『古文真宝』に収録する王安石の「明妃曲」、欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

一　はじめに　授業の目的と概要の紹介
二　『漢書』巻9元帝紀・巻94匈奴伝
三　『後漢書』巻89南匈奴伝
四　『西京雑記』巻2画工棄市
五　王安石「明妃曲」その一(明妃初出漢宮時ー当時枉殺毛延寿)
六　王安石「明妃曲」その二(ー去心知更不帰ー人生失意無南北)
七　王安石「明妃曲二」その一(明妃出嫁与胡児ー弾看飛鴻勧胡酒)
八　王安石「明妃曲二」その二(漢宮侍女暗垂涙ー尚有哀絃留至今)
九　欧陽脩「明妃曲」その一(漢宮有佳人ー万里安能制夷狄)
十　欧陽脩「明妃曲」その二（漢計誠已拙ー莫怨春風当自嗟）
十一　欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その一（胡人以鞍馬ー胡人共聴亦咨嗟）
十二　欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その二（玉顔流落死天涯–豈知此声能断腸）
十三　小まとめ　王安石・欧陽脩の「明妃曲」について
十四　「昭君出塞」関連ビデオ
十五　まとめ　中国文学における王昭君故事の意義

中国民族文化研究 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%　日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

調査発表や討論は日本語を主とするが、作成する資料等は中国文でも構わない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

王昭君　中国文学史　古文真宝　少数民族　匈奴　王安石　欧陽脩

中国語教授法研究 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上、説得力のある教育法を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を取り込んで、自分なりの講義ポイントを積み重ねる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国語教授法研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

大目標：
　中国語を含む外国語教授法の歴史をおさえた上で、新しい教授法や教育の枠組み、アプローチの方法を知り、21世紀のグローバル社会に必要な情報活用力、協働力、高度思考力を身につけるのにふさわしい授業を模索する。

小目標（概要）：
１）外国語教授法、中国語教授法の歴史と変遷を知る。
２）授業デザインの枠組み、評価の方法を知る。
３）実際にレベル別の授業デザインをして、発表する（受講者数により模擬授業またはプランの発表を行う）。

教科書　/Textbooks

指定無し。随時、資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

竹内理、水本篤『外国語教育ハンドブック（改訂版）』（松柏社）
国際文化フォーラム『外国語学習のめやす–高等学校の中国語・韓国語教育からの提言』
稲垣忠、鈴木克明『授業設計マニュアル Ver.2～教師のためのインストラクショナルデザイン』（北大路書房）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション
第2回外国語教授法の歴史(1)【伝統的教授法】
第3回外国語教授法の歴史(2)【特殊な教授法】
第4回中国語圏（中国、台湾、シンガポールなど）における中国語教育と教授法
第5回非中国語圏における中国語教育と教授法
第6回21世紀の外国語指導法、アプローチ(1)【フォーカス・オン・フォーム】
第7回21世紀の外国語指導法、アプローチ(2)【外国語学習のめやす】
第7回21世紀の外国語指導法、アプローチ(3)【インストラクショナルデザイン】【アクティブラーニング】
第9回授業デザイン(1)【概要】
第10回授業デザイン(2)【実践】
第11回評価の方法(1)【概要】
第12回評価の方法(2)【実践】
第13回模擬授業の実践（または授業デザイン案の発表）と講評（第1グループ）
第14回模擬授業の実践（または授業デザイン案の発表）と講評（第2グループ）
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

受講者数により、教案作成の上、模擬授業か、プランの発表を行う。
１）教案の完成度の完成度（40％）
２）模擬授業または教案発表の完成度（40％）
３）毎回の授業態度（授業への積極的参加、自己および他者の客観的評価など）(20％)

中国語教授法研究 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

その都度、指定された参考文献や参考ウェブページを期日までに読み、指定の課題を提出すること。
前半は講義形式が中心となるが、後半はグループ（ペア）での協働作業が増えるので事前にグループ内できちんと連絡、相談ができるような状態にしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語教育、教授法、授業デザイン、評価、情報活用、協働、高度思考

中国民間文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor	竹村　則行 / 北方キャンパス　非常勤講師					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	現代中国語と方言に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	中国民間文学に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国民間文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

近現代中国における民間文学への関心と研究は、中国がアヘン戦争を経て欧米の先進文明を認識し、植民地国家でない自立した中国のあり方を模索し始めた1920年代に始まる。

この授業では、その草創期における顕著な著作である鄭振鐸の『中国俗文学史』を読み、鄭振鐸が日中戦争下において中国の民間文学をどう捉えていたか、その考えは今日の中国にどう活かされているかについて考える。

授業では、毎回担当者が30分程度、『中国俗文学史』に示された当該題目について調査発表し、その後、受講生全員で自由討論する。

教科書　/Textbooks

○『中国俗文学史』（鄭振鐸、中国文聯出版社、2009年）
※どの版本を用いてもよい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『挿図本中国文学史』（鄭振鐸、商務印書館、1963年）
※どの版本を用いてもよい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

各章を前後二回に分け、担当者が前30分で内容紹介する。残りの時間は全員が自由に討論する。教員は適宜総括する。
前期の予定は次の通りである。
一　はじめに　鄭振鐸と『中国俗文学史』について　【鄭振鐸の生涯と『中国俗文学史』の成書について学習する。】
二　第一章　何謂「俗文学」前半　【俗文学とは何か。前。正統文学と対比しつつ、その近代的意義を検討する。】
三　第一章　何謂「俗文学」後半　【俗文学とは何か。後。その分類を行い、中国文学史における特質を分析する。】
四　第二章　古代的歌謡　前半　【古代の歌謡。前。主に北方『詩経』の歌謡について、その特徴等を検討する。】
五　第二章　古代的歌謡　後半　【古代の歌謡。後。主に南方『楚辞』の歌謡について、その特性等を分析する。】
六　第三章　漢代的俗文学　前半【漢代の俗文学。前。主に漢代初期の楚風文学について、その特徴等を検討する。】
七　第三章　漢代的俗文学　後半【漢代の俗文学。後。主に古詩、無名氏の詩について、その特性等を分析する。】
八　第四章　六朝的民歌　前半　【六朝の民歌。前。主に六朝時代北朝の楽府について、その特徴等を検討する。】
九　第四章　六朝的民歌　後半　【六朝の民歌。後。主に六朝時代南朝の楽府について、その特性等を分析する。】
十　第五章　唐代的民間歌謡　前半　【唐代の民間歌謡。前。主に唐代前期の民間歌謡の特徴等を検討する。】
十一　第五章　唐代的民間歌謡　後半【唐代の民間歌謡。後。主に唐代後期の民間歌謡の特性等を分析する。】
十二　第六章　敦煌変文　前半　【敦煌変文。前。敦煌変文の出土情況や分類について学習する。】
十三　第六章　敦煌変文　後半　【敦煌変文。後。王昭君や伍子胥等、正統文学と関わる諸作品について検討する。】
十四　第七章　宋金的雑劇詞　前半【宋金代の雑劇詞。前。主に宋金代北方における雑劇詞の特徴等を検討する。】
十五　第七章　宋金的雑劇詞　後半【宋金代の雑劇詞。後。主に宋金代南方における雑劇詞の特性等を分析する。】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

中国民間文学研究 【昼】

履修上の注意　/Remarks

発表や質問は日本語を用いるが、作成資料は中文使用可です。
自由質問の時間は、全ての受講生に質問を促します。「何もありません」はありません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

鄭振鐸　中国俗文学史　民間文学

中国文化史研究 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国文化史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中文の中国文化史に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国文化史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国文化史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイプセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

教科書　/Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
第2回　早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
第3回　中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
第4回　辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
第5回　イプセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
第6回　中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
第7回　近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
第8回　中国小劇場運動のパイオニア田漢お中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
第9回　田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
第10回　上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
第11回　劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
第12回　夏衍の上海映画演劇界における活躍について
第13回　欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
第14回　曹禺戯曲における悲劇性について
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40%　　レポート・・・60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

中国文化史研究 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イプセン劇の受容、中国近代演劇の父–曹禺

中国古典文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国文学の漢文資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国文学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国古典文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

三国時代の文学について、『三国志演義』にも引用される詩や文を読み、その作品の特徴や物語展開上の役割などを考察する。また『三国志演義』をはじめとして授業中に取り上げる作品のテキストや参考資料などを学ぶ。

教科書　/Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『詩歌三国志』（松浦友久、新潮選書、1998年）
○『「三国志」漢詩紀行』（八木章好、集英社新書、2009年）
ほか。
※作品を読む際に参考にすべきものについては授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　『三国志』、『三国志演義』について
第2回　建安文学、『文選』について
第3回　『三国志演義』第四十八回
第4回　曹操「短歌行」（『文選』巻27）
第5回　『三国志演義』第二十二回
第6回　陳琳「為袁紹檄劉予州」（『文選』巻44）
第7回　『三国志演義』第七十九回
第8回　曹植「七歩詩」（『世説新語』）
第9回　『三国志演義』第四十四回
第10回　曹植「銅雀台賦」（『三国志』裴松之注引『魏紀』）
第11回　『三国志演義』第九十一回
第12回　諸葛亮「出師表」（『文選』巻37）
第13回　『三国志演義』第二十三回
第14回　孔融「薦禰衡表」（『文選』巻37）
第15回　その他の、三国志に関する漢詩
※以上のように予定しているが、順番や取り上げる作品は変わることがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み（50%）+レポート（50%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に紹介する参考書等を利用して、理解を深めて下さい。

履修上の注意　/Remarks

中国古典文学研究 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

①漢文訓読についても学んでいく。
②調べたり解釈したりしてもらうことがある。

キーワード　/Keywords

三国志演義、三国志、文選、建安文学、漢詩・漢文

比較広域文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	日本の文化に関する深い知識を身に付け、さまざまな他文化との比較研究を通じて、専門的職業人として国際社会及び地域社会に貢献できる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	日本文化並びにさまざまな他文化に関する深い学識を備えた専門家として、広範囲にわたる資料を駆使し、分析・研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門的な知識と研究能力を生かし、グローバル社会における課題を自ら解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

比較広域文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では「シンボル」と「イメージ」をテーマとした異文化理解を研究する。物事が持つシンボル性や、それに基づくイメージは、たとえ同じものでも、あるいはよく似たものでも、文化によって全く異なる場合が多いことはあまり意識されていない。いくつかの事例を取り上げて、そのシンボル性やイメージの違いを考えると同時に、その違いが重大な誤解や文化摩擦につながりかねない重要性を持つものであることを認識しよう。

この授業の到達目標は以下の通りである。
・ シンボル・ イメージという抽象的な研究対象を扱い、その成果をグローバル社会で応用できる。
・ 日本文化と異文化の内面的関係を理解できる。

教科書　/Textbooks

特になし。授業中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　問題提起・ シンボルとイメージの研究はなぜ必要か？
2回　シンボル・ イメージと非言語コミュニケーションの関係
3回　龍とドラゴンは同じ？
4回　龍のシンボル性
5回　ドラゴンのシンボル性
6回　身近な動物のシンボル性
7回　火のシンボル性
8回　地獄の業火としての火
9回　浄火としての火
10回　水のシンボル性
11回　水で洗うのは体か心か
12回　物理的洗浄と衛生感
13回　精神的洗浄と宗教
14回　火と水と葬儀形式の関係
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度20%、レポート80%で評価する。

比較広域文化研究 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で扱ったテーマをヒントとして積極的に資料を探し、自主的な研究を進めて、その内容を授業中に報告できるようにすること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東北アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor	八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	日本列島および朝鮮半島を一つの地域として捉え、その文化および経済の課題を、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国家間の問題として捉えられがちな日本および朝鮮・韓国の関係を思想・文化・地域経済といった異なった視点から分析することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	一国の利益と利害にとらわれることなく、広く国際的な地域社会における協力関係の利点と恩恵を考えることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東北アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本と朝鮮半島とは２千年にわたる歴史のなかで互いの文化の発展をもたらす多くの交流の一方で、国家間における戦争や対立を繰り返してきました。

ここでは、日本と朝鮮半島という東北アジア地域の視点から、その歴史・文化・政治・経済の研究について、日本・韓国の二国間とそれを越えた社会の視点から基礎的な研究方法をオムニバスで紹介します。具体的には、江戸時代の国際関係と日朝関係（担当者八百３回）、東アジアの思想史における朝鮮と日本の思想文化の比較（担当者金３回）、経済発展過程における日韓両国の比較と両国間の経済関係（担当者尹３回）、日韓の政治と国際関係（担当者李３回）をリレー方式で行い、学生の皆さんにまとめてもらう予定です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北島万次『秀吉の朝鮮侵略と民衆』(岩波書店、2012)　○仲尾宏『朝鮮通信使–江戸日本の誠信外交』(岩波書店、2007)　○小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』(藤原書店、2012)
○小倉紀蔵『創造する東アジア』(春秋社、2011)
○野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』（慶應義塾大学出版会、2001）
○野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』（慶應義塾大学出版会、2004）
○李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（法政大学出版局、2011）
○吉澤文寿『戦後日韓関係：国交正常化交渉をめぐって』（クレイン、2005）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　八百–幕藩制国家と朝鮮王朝の史料研究
第3回　八百–近世における通信使と漂流民の研究史
第4回　八百–封建制と官僚制からみた日韓社会の比較
第5回　金–兵学と儒学の比較研究
第6回　金–国学と朱子学の比較研究
第7回　金–思想史から見た日韓文化の比較
第8回　尹–経済発展での日韓比較
第9回　尹–日韓両国間の貿易・投資の展開
第10回　尹–環黄海地域をめぐる経済交流
第11回　李–サンフランシスコ講和条約と戦後日韓関係
第12回　李–日韓会談（１）基本関係、請求権
第13回　李–日韓会談（２）残された問題
第14回　学生の報告①
第15回　学生の報告②

東北アジア研究概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告…４０％　期末レポート…６０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと
事後にノートを整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史概論　【昼】

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ社会史概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに、政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じることで、アメリカ社会を支えてきた人々の営み考え方、感じ方を受講生にとらえさせる。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

教科書　/Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
２回　南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
３回　再建期と金ぴか時代：奴隷制廃止とＫＫＫ
４回　再建期と金ぴか時代：工業化の進展と社会進化論
５回　再建期と金ぴか時代：ポピュリズム
６回　革新主義と改革運動：都市化の進展
７回　革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
８回　革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
９回　革新主義と改革運動：労働運動
１０回　大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
１１回　大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
１２回　大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
１３回　大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
１４回　大恐慌とニューディール：貧困と政治
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況…20%　授業への貢献度…20%　授業中の報告内容…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキストを読み込み、事後にノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意　/Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

アメリカ社会史概論　【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

イギリス地域概論　【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	イギリスに関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	イギリスに関する先行研究および一次資料の収集・整理ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

イギリス地域概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

近代イギリスについて、文化の多様性を中心に取り上げ、現代イギリス社会を構成している諸要因を通時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

教科書　/Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 はじめに
２回 宗教
３回 政治文化
４回 労働
５回 福祉
６回 教育
７回 食文化
８回 慣習
９回 音楽
１０回 地域
１１回 女性
１２回 総力戦
１３回 死者追悼
１４回 帝国
１５回 若者文化

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・発言の内容 …　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

イギリス地域概論　【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代中国経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国、及び途上国、新興国（地域）経済理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国、及び途上国、新興国（地域）経済に対する政策提言を可能にする実証的分析・研究が行える。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	習得した知識や技能を適切かつ有意義に生かすこと、研究に対する誠実な姿勢、的確な視点を持つ。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代中国経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点･ 手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献，Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル，中文文献，邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的･ 実証的な分析を行い，報告･ ディスカッションを行う。

教科書　/Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済発展の概要（１）SNA　政策
3回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済発展の概要（２）経済成長
4回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済発展の概要（３）企業
5回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済発展の概要（４）農村、農業
6回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済発展の概要（５）金融
7回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済の近年の動向（１）SNA、経済発展、経済政策
8回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済の近年の動向（２）経済政策、労働、金融
9回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済の近年の動向（３）経済政策、労働、金融、内陸、沿海
10回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済が直面する課題、展望（１）経済成長
11回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済が直面する課題、展望（２）市場経済、経済成長
12回　テキスト輪読、ディスカッション　中国経済が直面する課題、展望（３）移行経済、市場経済
13回　テキスト輪読、ディスカッション　中国の経験の一般化：論点抽出（１）経済政策、経済成長
14回　テキスト輪読、ディスカッション　中国の経験の一般化：論点抽出（２）経済成長、市場経済
15回　まとめ
＊内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告･・・ 60%　　ディスカッションへの参加状況･・・ 40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。
事後学習：文献（論文）の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

現代中国経済研究 【昼】

履修上の注意　/Remarks

（主にミクロ）経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とするので，学部レベルの当該科目の知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東アジア政治思想研究 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	日本、中国、朝鮮・韓国の伝統と近代の政治思想史を読み直し、東アジア三国の思想や文化に関する様々な専門知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を生かせるよう実践的な問題や課題に関心をもち、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東アジア政治思想研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

東アジア三国（日本、中国、朝鮮）の儒学と朱子学を比較研究する。それによって、三国の思想、思考様式などを比較考察する。

教科書　/Textbooks

小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）　5500円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小倉紀蔵『創造する東アジア　文明・文化・ニヒリズム』（春秋社、2011）
○与那覇潤『中国化する日本』（文芸春秋、2011）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　授業の概要
第2回　第1章　【朱子学】【日本近代】
第3回　第2章　【儒教】【主体】
第4回　第3章　【理】【論理】
第5回　第4章　【朱子学的思惟】【階層性】
第6回　第5章　【垂直性】【水平性】
第7回　第6章　【こころ】【ニヒリズム】
第8回　第8章　【国体論】【霊魂】
第9回　第9章　【元田永孚】【教育勅語】
第10回　第10章　【福沢諭吉】【朱子学的半身】
第11回　第11章　【丸山眞男】【朱子学的半身】
第12回　第12章　【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
第13回　第13章　【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
第14回　第14章　【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

受講生の報告、討論（30%）、レポート（70%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書の予習、報告と討論の準備。事後の復習、関連文献の自主学習

履修上の注意　/Remarks

必ず予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

東アジア政治思想研究 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

東アジアの比較思想研究を通して、東アジアの過去、現在、未来を思想史的に考えよう。

キーワード　/Keywords

アジアから考える視点、文明論的な視点、比較思想

現代韓国経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor	尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	現代の韓国経済を学ぶことによって、東アジア経済発展のダイナズムと脆さを理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきか考察してみる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代韓国経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、アジアＮＩＥｓの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたらかを明らかにする。

教科書　/Textbooks

趙淳 (深川博史監訳/藤川昇悟訳)　『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版局

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で適時指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション 「序論」
第２回 「1950年代と1960年代の経済発展」
第３回 「概観」(1)：輸出志向工業化と重化学工業化
第４回 「概観」(2)：構造調整と民主化
第５回 「産業組織」(1)：大企業と中小企業の関係
第６回 「産業組織」(2)：政府の政策
第７回「労働」(1)：韓国の労働事情
第８回 「労働」(2)：労働問題と政策的含意
第９回 「金融制度」(1)：銀行制度と証券市場
第10回 「金融制度」(2)：金融政策と金融改革
第11回 「対外貿易」(1)：貿易政策と貿易状況
第12回 「対外貿易」(2)：世界経済の中の韓国
第13回 「IMF経済危機」
第14回 「危機以降の韓国経済」
第15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

指定文献の報告…30%、授業での討論参加状況…30%、レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回で取り上げる項目について指定した文献はもちろん、関連する文献も自分で調べて読みこなしておく。事後学習としては授業で取り上げた内容を再確認する。

履修上の注意　/Remarks

現代韓国経済研究 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

開発独裁、財閥、輸出志向工業化、通貨危機、構造改革

アメリカ社会史研究　【昼】

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を深める。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を深める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

現代アメリカ社会の始まりは、19世紀末～20世紀初頭の革新主義時代であるとされる。本授業においては、革新主義時代のアメリカ社会形成を中心に、現代アメリカ史に関する基本文献を読み、アメリカ社会をよりよく理解する端緒とする。

教科書　/Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
２回　都市の時代：1893年シカゴ万博と都市の拡大
３回　都市の時代：ハル・ハウスと移民の生活
４回　都市の時代：ハル・ハウスと貧困・階級
５回　労働争議の時代：プルマン・ストライキと労働問題
６回　労働争議の時代：労働組合と労働問題
７回　労働争議の時代：フォーディズムと労働問題
８回　大衆消費の時代：郊外化とアメリカ文化
９回　大衆消費の時代：都市化とアメリカ文化
１０回　大恐慌の時代：不況と政治
１１回　大恐慌の時代：不況と家族・家庭
１２回　大恐慌の時代：不況と労働運動
１３回　冷戦の時代：冷戦と反共主義
１４回　冷戦の時代：冷戦と家族・家庭
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況…20%　授業への貢献度…20%　授業中の報告…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキストを読み込み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意　/Remarks

リーディング・リストの参考文献を積極的に読むことを薦める。

アメリカ社会史研究　【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

イギリス地域研究　【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	イギリスに関する専門的な知識を修得し、それに基づいて高度な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	イギリスに関する先行研究を的確に整理し、一次資料に基づく議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	修得した知識・技能に基づき、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

イギリス地域研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺的な地域に関する文献を読み、続いてイギリスを含む近代社会の成り立ちを社会思想史的に分析した著作を中心に議論を展開する。

教科書　/Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture
成瀬治『近代市民社会の成立』

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 はじめに
２回 地域・文化研究の方法論
３回 スコットランドの再定義
４回 カムリかウェールズか
５回 北アイルランド研究の現状
６回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
７回 イギリスにおける階級とジェンダー
８回 イギリス人の「生と死」
９回 イギリスの家族構造
１０回 イギリスにおける「プロパティ」概念
１１回 イギリス社会における労働
１２回 イギリス社会における宗教
１３回 社会と国家
１４回 社会と社会理論
１５回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・発言の内容・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

イギリス地域研究　【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際協力に関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際協力に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	国際協力に関して修得した知識と技能を生かして、広い視野に立って適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際協力研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、新興援助国である中国や韓国が既存の国際開発レジームにとってどのような存在であるのかに焦点をあて、国際開発協力の最新の動向を理解します。とりわけ21世紀に入って以降の中国によるアフリカ援助は、アフリカの国々の経済成長を助けていると評価されるものの、その中国モデルは既存の援助ルールとは一線を画しています。そのことが従来のドナー国とのあいだに摩擦を生み出しており、今後の国際援助レジームの行く末を不透明にする原因となっています。授業では国際開発協力をめぐる国際政治にも焦点を当ててこの問題について考察します。

教科書　/Textbooks

Ian Watson, Foreign Aid and Emerging Powers, Routledge, 2014.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

エマ・モーズリー『国際開発援助の変貌と新興国の台頭』明石書店、2014年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　新興国の台頭と開発援助
第3回　ディスカッション
第4回　IR理論から考える新興国と地政学
第5回　ディスカッション
第6回　アフリカにおけるアジアの援助国
第7回　ディスカッション
第8回　アジアにおける政府開発援助
第9回　ディスカッション
第10回　新興国、アジアの対外援助、地政学
第11回　ディスカッション
第12回　援助効果の議論と官民連携
第13回　ディスカッション
第14回　開発効果の議論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告と議論への貢献度・・・１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献の該当ページをしっかりと読み込んでおくこと。事後学習としては翌週にディスカッションがあるので、学んだ内容を復習して、何を討論したいのかの論点を明確にしておくこと。

国際協力研究 【昼】

履修上の注意　/Remarks

また、開発援助の歴史と仕組みについて十分な知識が無ければ、学部の『国際協力論I』も併せて受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

安全保障研究 【昼】

担当者名 /Instructor	戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際関係における安全保障上の問題について知識を習得し、それに基づいて、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	安全保障に関する先行研究を収集し的確に整理することができる。一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	安全保障に関する具体的、実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

安全保障研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

教科書　/Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

安全保障研究 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジュメを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回　ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分、質疑応答をしてもらう。

例えば、以下、11回までは、Michael Walzer, Just and Unjust Wars; A Moral Argument with Historical Illustrations 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読してゆく。（各回ともに、15～20分×２章＝30～40分の要旨報告と質疑応答をしてもらう）

第2回　ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War
第3回　ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society
第4回　ch.5 Anticipations, ch6. Interventions
第5回　ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well
第6回　ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians
第7回　ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism
第8回　ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well
第9回　ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency
第10回　ch.17 Nuclear Detterrence, ch.18 The Crime of Aggression
第11回　ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers
第12回　Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告
第13回　Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et.al., eds., War and Moral Responsibility, Princeton UP, 1974.
第14回　Richard Norman, Killing in Self-defence, in Richard Norman, Ethics, Killing and War, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.
第15回　RIchard Norman, Killing the Innocent, in ibid., pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度（30％）、予習状況（30％）、レポート（40％）から評価したい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講者は1名～若干名であろうから、事前の報告・質疑準備がかなりの頻度で必要になる。またレポート執筆のため各回の既習事項の反芻が求められる

履修上の注意　/Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。
履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際政治経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor	阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際政治経済の様々な理論を理解し、複雑化する国際政治経済の諸問題を専門的に論じることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	国際政治経済に関する事項について、修得した知識と技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際政治経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、グローバリゼーション下における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

教科書　/Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。
関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年
○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年
Robert O'Brien, Marc Williams, Global Political Economy: Evolution and Dynamics, 4th edition, Palgrave MacMillan, 2013.
Ronen Palan, Global Political Economy: Contemporary Theories, 2nd edition, Routledge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
野林健・長尾悟『国際政治経済を学ぶ - 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。
○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　国際秩序をめぐる政治と経済
第3回　グローバリゼーションと国際関係
第4回　国際政治経済の見方（１）重商主義
第5回　国際政治経済の見方（２）自由主義
第6回　国際政治経済の見方（３）批判理論
第7回　戦後の国際経済秩序の枠組み（１）ブレトン・ウッズ、GATT体制
第8回　戦後の国際経済秩序の枠組み（２）レジームの変容と課題
第9回　金融のグローバル化と通貨危機
第10回　国際金融秩序の構築
第11回　地域主義の展開（１）北米の経済協定
第12回　地域主義の展開（２）ヨーロッパの統合
第13回　地域主義の展開（３）アジアの多様性
第14回　科学技術と国際政治経済
第15回　まとめ

国際政治経済研究 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容…30%、授業参加（議論への貢献度など）…20%、期末レポート…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には必ず復習すること。
必要に応じて事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、読んでから授業に臨むこと。

履修上の注意　/Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　畔津　憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

労働経済学に関する論文を理解する訓練を行う。また幾つかのトピックに関する論文を読むことで、修士論文のテーマを決めるための準備を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、論文を指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ~ 第15回
指定した論文を読み発表を行う。論文の中で使用された分析手法について学ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された論文を読むこと。紹介した文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

労働経済学に関する論文を読むためにミクロ経済学、計量経済学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

①経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
②現在の経済問題を理解し、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～１５回
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み … 50%　発表内容 … 30 %　ディスカッションへの貢献 … 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、報告の準備をしておくこと。
前回の報告について修正を含めまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。
毎回、前回の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【昼】

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成するための基礎訓練を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　藤井　敦 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

学生が自身の研究テーマのために必要とする計量経済モデルについて，各自学習し，発表を行う。これを通じて，計量経済分析のイメージを自身のテーマと関連して持つことができるようにする．

教科書　/Textbooks

適宜，資料および実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各種学術研究検索サイト

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　基本となる統計学・計量経済学についてやや詳しく扱う資料を輪読する。
２回　同上
３回　同上
４回　同上
５回　同上
６回　資料の中から各自ひとつずつ話題を選んで発表。
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　関心のある先行研究論文を1本ずつ選び，内容の報告。前回までで学んだモデルがどのように用いられているかを中心に報告する。
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　同上

成績評価の方法　/Assessment Method

論文を読んで発表　…　80%，　授業中のディスカッションへの参加　…　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習：指定された資料・論文を読む．
復習：その日の議論のメモを作成し提出する．

履修上の注意　/Remarks

特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者の関心・能力に指導者の関心・能力を加味し、修士論文につながる研究テーマを見つける。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１～１５回
いくつかの文献を報告してもらい、それを手がかりに研究テーマを絞り込んでいく。
毎回の文献輪読を基本とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学の標準的文献を輪読する。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　文献報告
3回　文献報告
4回　文献報告
5回　文献報告
6回　文献報告
7回　文献報告
8回　文献報告
9回　文献報告
10回　文献報告
11回　文献報告
12回　文献報告
13回　文献報告
14回　文献報告
15回　文献報告

成績評価の方法　/Assessment Method

報告の出来　70%　　日常の授業への取り組み　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を要求する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究基礎 【昼】

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、ミクロ経済分析の論理と方法について必要な基礎知識を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時間中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ミクロ経済学と数学
２～４回　興味・関心のあるミクロ経済問題について調査報告
５～６回　ミクロ経済分析的アプローチ論究
７～１３回関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告
１４回　現代ミクロ経済学の展開
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度　３０　％　レポート　７０　％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学についての基礎知識を十分に修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマ確定に向けて、先行研究の内容報告、参考文献一覧の作成、修士論文の目次作成などを行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～10回　先行研究・参考文献の講読。レジュメによる学生の発表形式で行う。
11回　正しい引用の仕方・参考文献表の作り方を説明する。
12回～15回　修士論文のテーマ、目次、参考文献一覧を作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。前期の本科目では統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

教科書 /Textbooks

浅野 晳、中村 二朗(2009)『計量経済学』第2版、有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。
事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学、統計的推定、統計的検定

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン　『環境経済学–理論と実践』　勁草書房　2005年○
岡敏弘　『環境経済学』　岩波書店　2006年○
環境経済・政策学会編　『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣　2006年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
2回　ミクロ経済学の復習1　【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
3回　ミクロ経済学の復習2　【余剰分析】、【部分均衡分析】
4回　ミクロ経済学の復習3　【外部性】、【公共財】
5回　環境政策の経済分析1　【直接規制】、【経済的手法】
6回　環境政策の経済分析2　【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
7回　地球温暖化の経済分析　【排出権取引】、【環境税】
8回　廃棄物の経済分析　【廃棄物課税】、【デポジット制】
9回　環境評価　【仮想評価法】、【コンジョイント法】
10回　再生可能エネルギーの経済分析1　【FIT】、【RPS】
11回　再生可能エネルギーの経済分析2　【分散型発電】、
12回　スマートグリットの経済分析1　【デマンドレスポンス】
13回　スマートグリットの経済分析2　【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
14回　最近の研究動向の紹介
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言（25%）、発表（25%）、期末試験（50%）

特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前までに指定したテキストの該当する章、論文などをを予め教科書を読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に資する基礎的な知識を得るとともに、受講生による更なる問題意識の顕在化に努め、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

１回　イントロダクション・ガイダンス
２回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
３回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
４回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
５回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
６回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
７回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
８回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
９回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１０回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１１回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１２回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１３回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１４回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１５回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度、３０％：期末のレポート、７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教員から支持された内容の研究・調査を行い授業に備える。授業後は授業ないで指摘された点を勘案し、さらなる研究・調査を進める。

履修上の注意 /Remarks

各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

論文課題を策定することは非常に重要です。興味を持っていることを理解可能で論文となり得る形の課題として策定することに注力します。

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

大学院における会計学の基礎を勉強するために、財務会計論ないし会計学原理のテキストの個別のテーマを取り上げて、会計について深く考えたいと思う。

教科書 /Textbooks

友岡賛『会計学原理』税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回～１５回
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジュメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ・・・ ６０％ レポート ・・・ ４０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。
事前学習：著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考文献、インターネット等で学習しておくことが望ましい。また、事前の課題に対して十分な予習をしておくこと。
事後学習：演習で残した課題については、図書館などを活用して、調べて、考えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2~15回　修論指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合を総合的に評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業は、予習と復習を必要とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

経営組織論に関する文献を読み込み、現実と結び合わせながら考える力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

受講者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード (山本安次郎・ 田杉競・ 飯野春樹訳) 『 [新訳] 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年 (○)
H.A.サイモン (二村敏子・ 桑田耕太郎・ 西脇暢子・ 高柳美香・ 高尾義明訳) 『新版　経営行動』ダイヤモンド社、2009年 (○)
M.P.フォレット (米田清貴・ 三戸公訳) 『組織行動の原理』未来社、1972年 (○)
三井泉編『フォレット』文眞堂、2013年 (○)

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回 ~ 第15回　文献整理・ 報告・ 議論

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・ 発表…50%　　授業への参加度…50%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

参考文献を熟読しておいてください。講義前には、教科書の該当箇所を読み込んで講義に臨んでください。また講義後にもう一度教科書を読み復習しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　池田　欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のためのに必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法、サポートベクトルマシン、ニューラルネット（深層学習）など機械学習を経済に応用した主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
第2回～第15回：文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来　50%　　日常の授業への取り組み　50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料、およびテキストを事前にしっかり読み込み、講義後にはしっかり理解できていない部分の復習を必ずすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回　ガイダンス
第2回～第14回　学生による報告・討議
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%　　発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
演習後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する資料やデータなどによる復習によって、本演習の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。
論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。
演習の前後で資料整理（予習・復習）をすることで、論文作成に向けての研究ノートとして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

特別研究基礎 【昼】

キーワード　/Keywords
経営環境　経営戦略　イノベーション　組織変革

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　福井　直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本科目は大学院の所属ゼミ演習科目に該当します。演習の主旨は、修士論文に向けた指導を行うことです。
本科目は修士論文を作成する前提知識として、研究の進め方、論文の読み方・書き方、社会科学研究法に関する専門的内容を学習することを目標としています。本科目では、毎回のように論文や研究書を渡し、諸君に読んできてもらうことを必須としますが、決して平板な輪読に終始することを目論んでいるわけではありません。諸君が主体的に論文や本から知識を取り込むとともに、自身の見解や主張を論理的に、かつ科学的な作法に基づいて発信すること、これを達成するための演習と位置づけています。
また、本科目の終盤では修士論文のテーマをある程度確定してもらうこととします。

教科書　/Textbooks

とくに指定しませんが、毎回のようにリーディングスを配布・貸与します。これらはすべて必読です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

大谷信介・木下栄二ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房（複数版があるので、演習時に紹介する）。
○ダン・レメニイ著、小樽商科大学ビジネス創造センター訳『研究の進め方』同文舘出版。
○伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　論文の読み方
第2回　研究の進め方概論
第3回　よいリサーチ・クエスチョンとは
第4回　概念的思考
第5回　理論構築の方法
第6回　概念の操作的定義
第7回　仮説の立て方
第8回　仮説検証型論文の検討
第9回　サーベイ・リサーチの方法（質問票作成、ワーディングなど）
第10回　サーベイ・リサーチの方法（データ収集の方法）
第11回　サーベイ・リサーチの方法（回収後の作業、分析について）
第12回　ケース・スタディの方法
第13回　ケース・スタディの実例
第14回　エスノグラフィーの方法、その他の一次資料収集方法
第15回　総まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回課題レポートを課し、その結果をこちらで採点する。その合計点によって評定する（100点満点）。

特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回で指示される文献について最低2回は読んでおくこと。
事後学習：毎回課題レポートを課すので、真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

人的資源管理の専門的内容については、「人的資源管理」の科目のなかで扱うので、そちらを併せて受講すること。一方、こちらの科目では人的資源管理そのものを対象とした演習を行なうわけではない。
さらに、「経営学」「経営戦略」「経営組織」の並行受講を必須とする。
大学院生なので当然のことであるが、各回における授業外学習すなわち予習復習を怠らないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文では1次資料の収集を必須とする。換言すれば、これを満たさない論文は不可とする。
これを行おうとすれば、この演習の知識は最低限必要となる。さらに、サーベイ・リサーチの方法をとる場合は、統計的方法論に通じていなければならない。本演習では統計学の基礎知識について教授することはないため、他の専門科目において学習を深めておくこと（もちろん統計ソフトを使えば統計分析が手軽にできるのだが、その分析過程や解釈において、統計学の知識が欠落していると深い分析はできないものと考えよ）。
加えてアドバイスするとすれば、統計的方法論の理解のためには、確率・統計や微積分といった数学の知識が必要であることは間違いない。
エスノグラフィーの方法で資料を集めてもらうことを妨げない（ただし福井の専門外であるので、推奨しない）。

キーワード /Keywords

経営学方法論、理論構築、仮説検証、サーベイ・リサーチ、ケーススタディ

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　徹平 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎	経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は大学院における演習科目にあたります。ここではまず、歴史学的分析法について学んでいただくとともに、歴史資料（史料）の扱い方、史料調査や史料収集の行い方について指導します。そのうえで、経済史に関する研究テーマを設定し、独自に史料調査・収集を行ってもらいます。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマをふまえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　歴史学的分析法について
第３回　史料調査・史料収集について
第４回　史料調査実習
第５回　史料調査実習
第６回～第１４回　学生による報告と報告内容に基づくディスカッション
第１５回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容80%、日常における授業への参加度20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は主に学生による報告をもとに進めていきます。したがって事前に十分な調査研究活動を行い、その成果をもって授業に臨むようにしてください。また授業の際に受けた指導に基づき、その後、修正作業を行い、次回の授業時に新たに成果を提出出来るよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

大目標：
　中国語および日本語のコミュニケーション上の事象について客観的な角度から見る力を養い、日中の諸コミュニケーションの特徴（傾向）について、共通点や相違点を整理することができる。

小目標（概要）：
１）修士論文等を書くために必要なアカデミックスキル（プレゼン能力を含む）を身につける。
２）言語学（主に中国語と日本語、語用論）、第二言語習得（主に中国語、中間言語語用論）に必要な基礎的知識を身につける。
３）言語学（主に中国語と日本語、語用論）、第二言語習得（主に中国語、中間言語語用論）の研究に必要な手法（特に、文献講読を通した学術論文の読み方、まとめ方について）の基礎を身につける。

教科書　/Textbooks

指定無し。随時、資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』春風社
竹内理、水本篤『外国語教育ハンドブック（改訂版）』松柏社
清水崇文『中間言語語用論概論　第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク
○ヘレン スペンサー=オーティー『異文化理解の語用論–理論と実践』研究社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション
第2回文献の選択、役割分担、担当者決定
第3回文献（１）講読、ディスカッション
第4回文献（１）講読、ディスカッション
第5回文献（１）講読、まとめ（担当者発表）
第6回文献（２）講読、ディスカッション
第7回文献（２）講読、ディスカッション
第8回文献（２）講読、まとめ（担当者発表）
第9回文献（３）講読、ディスカッション
第10回文献（３）講読、ディスカッション
第11回文献（３）講読、まとめ（担当者発表）
第12回文献（４）講読、ディスカッション
第13回文献（４）講読、ディスカッション
第14回文献（４）講読、まとめ（担当者発表）
第15回総括

特別研究基礎 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

担当レジュメ、プレゼンのしかた、期末レポート等で総合評価する。
１）担当回のレジュメの完成度（30%）
２）担当回のプレゼンの完成度（20%）
３）期末レポートの完成度（30%）
４）毎回の授業態度（課題の準備状況、授業への積極的参加など）(20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義までに指定した学術論文を読んでおくこと。
担当者は期日までにその内容をまとめ、レジュメを作成、提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語、語用論、言語学、中間言語語用論

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　畔津　憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自の関心のある労働経済学のトピックを選び、それに関する論文を読むことで、修士論文のテーマを設定する。また設定したテーマに必要な分析手法を習得する。

教科書 /Textbooks

適宜、論文を指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回
指定した論文を読み発表を行う。最終的に修士論文テーマを設定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された論文を読むこと。紹介した文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

労働経済学に関する論文を読むためにミクロ経済学、計量経済学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための準備をする。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回～14回　各自の研究テーマに沿った論文を読み報告する。
15回　まとめとしてレポートを作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・ 50%、報告内容・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、報告の準備をしておくこと。
毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成するための基礎訓練を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　藤井　敦 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

計量経済モデルを現実のデータにあてはめてひとつの統計分析結果を得るには，考慮すべき様々な問題が存在する。これらについて，参加者同士の議論を通じて経験していく。修士論文相当のイントロダクションの青写真を作ることが目的である。

教科書　/Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　教員による研究論文をサンプルとして提示：「なぜ，何を，どのように分析するか」を考えながら作業することを学ぶ。併せて，研究遂行上の困難とその解決方法の事例を学ぶ。
２回　どんな問題に興味があるか，先行研究論文数本を選び，自身の興味の背景とともに内容を報告。
３回　同上
４回　同上
５回　同上
６回　同上
７回　先行研究で用いられている計量経済学的な分析手法を報告。それを自分の興味対象に応用するにはどのようなデータが必要で，どのようなデータが利用可能かを報告。
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　データの利用可能性を前提にして，計量経済モデルの組み合わせ・修正を検討する。
１３回　同上
１４回　同上
１５回　同上

成績評価の方法　/Assessment Method

発表　…　80%，　授業中のディスカッションへの参加　…　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習：事前に指示した文献・資料を読んでからご参加ください．
復習：その日の議論のメモを作成してください．

履修上の注意　/Remarks

特別研究１　【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究テーマに関連する主要文献を徹底して読込み、理論的考察のための枠組みを構築する。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１～１５回
受講者の文献報告にしたがって精読の方法、思考のまとめ方などについて指導していく。
文献輪読と受講者の研究報告を中心に進めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

授業を通じて自らの研究体制を固めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１　【昼】

担当者名 /Instructor　田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学の標準的文献を輪読する。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　文献報告
3回　文献報告
4回　文献報告
5回　文献報告
6回　文献報告
7回　文献報告
8回　文献報告
9回　文献報告
10回　文献報告
11回　文献報告
12回　文献報告
13回　文献報告
14回　文献報告
15回　文献報告

成績評価の方法　/Assessment Method

報告の出来　70%　　日常の授業への取り組み　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を要求する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究１　【昼】

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成し報告する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１～２回　ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
３～８回　特別研究テーマの調査・研究報告
９～１４回　特別研究論文の作成および報告
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度　５０％　レポートもしくは論文　５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の内容の発表、先行研究の報告、修士論文に盛り込むデータと図表の作成を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～10回　修士論文の内容、とりわけ、本文に相当する部分を学生が執筆・発表し、指導する。
11回～13回　修士論文に盛り込むデータ・図表を学生が作成・発表し、指導する。
14回～15回　修士論文の問題の設定と予想される結論について、学生が発表し、指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。本科目では計量経済学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

教科書 /Textbooks

浅野 皙、中村 二朗(2009)『計量経済学』第2版、有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。
事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学、内生性

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解するようになる。
・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅野・中村 『計量経済学』第2版 有斐閣 2009年 ○
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 講義概要の説明と計量経済学について
2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
8回 時系列分析2 【単位根】、【共和分】
9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
11回 環境経済学関連の論文の紹介
12回 スマートグリットの経済分析の論文の紹介
13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
14回 最近の研究動向の紹介
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

特別研究１ 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに指定したテキストの該当する章、論文などをを予め教科書を読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で確認を行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

１回　イントロダクション・ガイダンス
２回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
３回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
４回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
５回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
６回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
７回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
８回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
９回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１０回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１１回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１２回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１３回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１４回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
１５回　学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度と進捗、３０％：期末のレポート、７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教員から指示された内容の研究・調査を行い当該授業に備える。授業後は、授業内で指摘された点及び関連する点に関して勘案しさらなる研究・調査を行い次回の授業に備える。

履修上の注意 /Remarks

各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

特別研究１　【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

論文の課題に係わる先行研究を広範囲に調べ、何が分かっているか、なぜそのように導き出されたか、そして何が分かっていないか等を整理することが、その後の課題に係わる解析の基礎となります。きめ細やかで丁寧な先行研究のレビューを心がけて下さい。

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追随するあまり、会計学の古典を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回～１５回
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジュメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況　・・・　６０％　レポート　・・・　４０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。
事前学習：著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考文献、インターネット等で学習しておくことが望ましい。
また、事前の課題に対して十分な予習をしておくこと。
事後学習：演習で残した課題については、図書館などを活用して、調べて、考えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2~15回　修論指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

経営組織論に関する文献を読み込み、現実と結び合わせて考える力を身につけることを目指します。
修士論文のテーマを決定していきます。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード（山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳）『［新訳］経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年（○）
H.A.サイモン（二村敏子・桑田耕太郎・西脇暢子・高柳美香・高尾義明訳）『新版　経営行動』ダイヤモンド社、2009年（○）
M.P.フォレット（米田清貴・三戸公訳）『組織行動の原理』未来社、1972年（○）
三井泉編『フォレット』文眞堂、2013年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～第15回　文献整理・報告・議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表…50%　　授業への参加度…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を熟読しておいてください。講義前には、教科書の該当箇所を読み込んで講義に臨んでください。また講義後にもう一度教科書を読み復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　池田　欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のためのに必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデル、ニューラルネット（深層学習）など複雑系手法、機械学習の手法を経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
第2回～第15回：文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来　70%　　日常の授業への取り組み　30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料、およびテキストを事前にしっかり読み込み、講義後にはしっかり理解できていない部分の復習を必ずすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。
到達目標は以下のとおりです。
・ 経営戦略論の諸学派アプローチを理解できる。
・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。
学期末に中間報告を行ないます。
第1回　ガイダンス
第2回～第14回　学生による報告・討議
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%　　発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
演習後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する資料やデータなどによる復習によって、本演習の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。
論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。
講義の前後で資料整理（予習・復習）をすることで、論文作成に向けての研究ノートとして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

特別研究１　【昼】

キーワード　/Keywords
経営環境　経営戦略　イノベーション　組織変革

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　福井　直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この科目では、1学期に立ててもらった研究テーマに沿って、各種文献を集め、読み込んでいくことを目標とします。修士論文では実証研究であることを必須としていますが、実証を行うためには事前の文献サーベイをどれだけ行うかが鍵になります。また、1年次に十分な文献サーベイを行わないことには、2年次での実証に間に合いません。したがって、本演習のなかで大量の文献を押さえておきましょう。もちろん闇雲に読んでは意味が無く、自分の問題意識に照らし合わせながら知識を得るとともに、既存研究を一定の立場から批判することも重要です。
また、テーマが確定したからといって、読む論文の幅を狭めないほうがよいでしょう。むしろ、テーマに関する文献をまずは広く浅く読んでみて、そのなかで関心のある領域について深く追究していくプロセスを推奨します。本演習は広く浅くという観点から、テーマに関する前提知識を習得できるような論文読解を目指します。

教科書　/Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考書は、各自のテーマに応じて変化するため、ここで挙げることはまずできません。もちろん、テーマが決まれば関連文献を福井から紹介することはあります。しかし、各自で探すことも重要な作業です。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

この演習の計画を事前に立てることは難しいです。なぜなら、受講者の研究テーマが決まっていないためです。にもかかわらず、シラバスには計画を書かなければなりません。いま仮に、受講者が「人事考課」についての研究を進めることになったと仮定して、その場合どのような文献を順に読み進めるかを例示する形で、計画としたいと思います。

第1回　対人評価における人事考課の位置づけ
第2回　人事考課の史的変遷（概ね戦前まで）
第3回　人事考課の史的変遷（戦後～高度経済成長期）
第4回　人事考課の史的変遷（安定成長期～バブル期）
第5回　人事考課の史的変遷（バブル崩壊以降～現在）
第6回　人事考課におけるerrorに関する諸研究
第7回　人事考課におけるaccuracyに関する諸研究
第8回　人事考課のpurposeに関する諸研究
第9回　人事考課のfairnessに関する諸研究
第10回　人事考課における評価者の認識枠組の研究
第11回　人事考課の技法に関する研究
第12回　人事考課と目標管理
第13回　人事考課とコンピテンシー
第14回　人事考課と多面評価
第15回　人事考課からパフォーマンス・マネジメントへ

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回、各自のテーマに関連する報告を義務付け、各回の成績が点数化されます。その点数の合計点をもって本科目の最終評定とします。

特別研究１ 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回報告を義務付けるので、その準備を行なうこと。また報告にあたっては相当量の文献渉猟が求められる。
事後学習：毎回の課題をこなすこと。報告のやりっ放しにならないように。

履修上の注意 /Remarks

「経営学」「経営組織」「経営戦略」「人的資源管理」を必ず並行履修してください。
また、これら以外に自身にとってプラスになる科目については積極的に履修してもらいたいです。くれぐれも曜日の都合のみで時間割を組むことの無いよう。
また当然のことですが、大学院生であるからには授業外の学習（予習・復習）が必須であることを心得てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでいくつか修士論文の審査に立ち会ってきましたが、既存研究を無批判に引用する論文が目立ちます。もちろん既存研究が正しいと思えることはありますが、すべてを受容できるわけではないでしょうし、自分の考えとは異なることもあって当然です。にもかかわらず論文内に批判が一点もないことがあります。既存研究を読んで何も感想や意見が出てこないのは、おそらく勉強不足から来ています。批判を行うには、自分自身に一定量の知識が必要であり、確固たる自分の見解が必要だからです。既存研究の渉猟が不足しているために、批判ができないというのは、修士論文の水準からすれば不十分といわざるを得ません。この演習を通じて、一定の水準に達してもらえればと思います。

キーワード /Keywords

人的資源管理、修士論文、参考文献

特別研究１　【昼】

担当者名 /Instructor　土井　徹平 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業は大学院における演習科目にあたります。ここでは経済史に関する研究テーマを確定し、史料調査・収集および分析を行うことで、修士論文をまとめることを目的とします。そのうえで、歴史学的分析法、史料の扱い方や史料収集の方法、論文の読み方・書き方などについて授業を通じて適宜指導を行います。

教科書　/Textbooks

学生の研究テーマに応じて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回～第１４回　研究報告と報告内容に基づくディスカッション
第１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・報告内容80%、日常における授業への参加度20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は主に学生による研究報告をもとに進めていきます。したがって事前に十分研究活動を行い、その成果をもって授業に臨むようにしてください。また授業の際に受けた指導に基づき、その後、修正作業を行い、次回の授業時に新たに成果を提出出来るよう心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

大目標：
　中国語および日本語のコミュニケーション上の事象について客観的な角度から見る力を養い、日中の諸コミュニケーションの特徴（傾向）について、共通点や相違点を整理することができる。

小目標（概要）：
１）修士論文等を書くために必要なアカデミックスキル（プレゼン能力を含む）を身につける。
２）言語学（主に中国語と日本語、語用論）、第二言語習得（主に中国語、中間言語語用論）に必要な基礎的知識を身につける。
３）言語学（主に中国語と日本語、語用論）、第二言語習得（主に中国語、中間言語語用論）の研究に必要な手法（特に、文献講読を通した先行文献の調べ方、探し方、研究課題及び研究計画の設定のしかたについて）の基礎を身につける。

教科書　/Textbooks

指定無し。随時、資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』春風社
竹内理、水本篤『外国語教育ハンドブック（改訂版）』松柏社
清水崇文『中間言語語用論概論　第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク
○ヘレン スペンサー=オーティー『異文化理解の語用論–理論と実践』研究社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　先行文献の調べ方、探し方についてのガイダンス
第2回　文献（１）講読、ディスカッション
第3回　文献（１）講読、ディスカッション
第4回　文献（１）講読、まとめと文献リストの作成（担当者発表）
第5回　文献（２）講読、ディスカッション
第6回　文献（２）講読、ディスカッション
第7回　文献（２）講読、まとめと文献リストの作成（担当者発表）
第8回　研究課題及び研究計画の設定のしかたについてのガイダンス
第9回　文献（３）講読、ディスカッション
第10回　文献（３）講読、ディスカッション
第11回　文献（３）講読、まとめと文献リストの作成（担当者発表）
第12回　文献（４）講読、ディスカッション
第13回　文献（４）講読、ディスカッション
第14回　文献（４）講読　まとめと文献リストの作成（担当者発表）
第15回　総括

特別研究１　【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

担当レジュメ（文献リストを含む）、プレゼンのしかた、期末レポート等で総合評価する。
１）担当回のレジュメの完成度（30%）
２）担当回のプレゼンの完成度（20%）
３）期末レポートの完成度（30%）
４）毎回の授業態度（課題の準備状況、授業への積極的参加など）(20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義までに指定した学術論文を読んでおくこと。
担当者は期日までにその内容をまとめ、レジュメを作成、提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語、語用論、言語学、中間言語語用論

特別研究２ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の中間報告を目指してデータの収集と論文執筆の両方を同時に実施する。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～14回　研究報告
第15回　中間報告に向けての準備

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・ 50%
論文内容・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、報告の準備をしておくこと。
毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容を改善しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究２ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究２ 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマについて論文を作成・報告し、論文完成に向けての準備を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１～８回　特別研究テーマの調査・研究報告
９～１４回　特別研究論文の作成および報告
１５回　まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究２ 【昼】

担当者名 /Instructor　林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

修士論文作成のためのリーディングとライティングを行って行く。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：論文を熟読すること。また、修士論文の執筆をすすめること。
事後学習：演習内での議論を踏まえて、修士論文の修正を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学、内生性

特別研究３ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中間報告での指摘をもとに論文を改定し、修士論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (中間報告での指摘の確認)
第2回 ~ 第14回　論文報告
第15回　修士論文報告会への最終準備

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・ 50%
論文内容・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、論文作成の準備と前回の報告内容の改善をしておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究３ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究３ 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文を作成・報告し、修士論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１～　８回　修士論文の調査・研究報告–論理の流れの最終的確定
９～１４回　修士論文の細目の修正・完成
１５回　修士論文の提出と最終的なプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ（またはプレゼンのファイル）を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究３ 【昼】

担当者名 /Instructor　林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

修士論文作成のためのリーディングとライティングを行って行く。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：論文を熟読すること。また、修士論文の執筆をすすめること。
事後学習：演習内での議論を踏まえて、修士論文の修正を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学、内生性

財政学I 【夜】

担当者名 /Instructor　藤　貴子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	財政や租税の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	財政や租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	財政や租税に関する高度な知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

財政学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

租税論を体系的に学ぶとともに、日本税制の形成過程や仕組みを理解し、現実の税制を理論的に考察する。そして日本税制の抱える課題とその解決策について検討する。

教科書　/Textbooks

森信茂樹『日本の税制–何が問題か』岩波書店　2010年　￥3,456

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

窪田修『図説 日本の税制 (平成28年度版) 』東洋経済新報社　2016年　￥2,808
三木義一『日本の税金　新版』岩波新書　2012年　￥864
森信茂樹『税で日本はよみがえる–成長力を高める改革』2015年　￥3,240

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、税制の機能・役割
第2回　課税理論、税の転嫁と帰着
第3回　租税理論–包括的所得税、支出税、最適課税論
第4回　消費課税の類型
第5回　日本税制の歴史
第6回　日本の租税体系・小テスト(1)
第7回　租税理論と所得課税
第8回　日本の所得税の課題
第9回　社会保障と所得税
第10回　社会保障と消費税
第11回　法人税の理論と課題
第12回　相続税の理論と課題
第13回　日本の消費税の仕組みと課題
第14回　付加価値税における複数税率
第15回　日本の税制の課題とその解決策について考察・小テスト(2)

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート40%、小テスト (2回) 40%、日常の授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、教科書を読んで、配布資料を熟読し、予習をした上で受講すること。
授業後には、参考文献や学部レベルの財政学のテキスト等を参照して、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。
なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。

財政学I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

財政　租税

社会心理学 【夜】

担当者名 /Instructor	田島　司 / 人間関係学科					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	社会の諸問題にかかわる社会心理学の専門知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	人間関係に係わる諸課題を社会心理学的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	人間関係に係わる諸課題に対して社会心理学の観点から対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会心理学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも，それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論，考え方，研究方法などを理解し，受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

社会心理学の研究法の主な特徴を理解した上で、社会心理学の理論が他の複数の学問分野にどのように関連するかを理解し、説明できるようになることが到達目標である。

教科書　/Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

社会心理学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半（7，8回程度）の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には，受講者からテキストの各節（参加人数によって，各自の担当ページ数や進度は異なる）の内容を報告してもらい，その内容について補足の講義を行う。その後，皆で議論する。

後半（7，8回程度）は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする。受講者が8名以下であれば，1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また，受講者各自の研究テーマの発表を交えながら，様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする場合もある。

１回　オリエンテーション他
２回　社会心理学の特徴1【実験】
３回　社会心理学の特徴2【統計】
４回　動機づけと感情1【外発的動機づけ】
５回　動機づけと感情2【内発的動機づけ】
６回　人格と個性
７回　人格と文化
８回　社会的行動1【役割】
９回　社会的行動2【集団間関係】
10回　社会心理学と認知心理学との関連
11回　社会心理学と教育心理学との関連
12回　社会心理学と臨床心理学との関連
13回　社会心理学と福祉心理学との関連
14回　社会心理学と福祉学，教育学，社会学，人類学等との関連
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容　…　50　%　　議論への参加等　…　50　%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習論 【夜】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	生涯にわたる学習の特性や理論について専門的知識を修得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	学習者の課題発見・解決プロセスを理解・分析する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	学習者の課題発見・解決プロセスを支援・促進する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

生涯学習論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

教科書　/Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○パトリシア・クランプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房
○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
その他、学会年報や紀要など

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　生涯学習とは何か
3　政策動向と論点
4　社会教育学としての研究動向
5　生涯学習としての研究動向
6　国際的な政策・研究動向と論点
7　成人教育論の理論展開
8　成人教育論の論点
9　子どもの教育学と成人教育学
10　意識変容の学習とは
11　自己決定型学習とは
12　学習と学習支援
13　学習支援者の専門性と役割
14　学習成果の還元、学習社会とは
15　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度と質疑応答･･･70%、レポート･･･30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前は、配付資料を検討し、論点を明確化してのぞむ
事後は、講義内容を踏まえて、関連の論文などを検討する

生涯学習論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

臨床心理学 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	臨床心理学に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸問題を臨床心理学の観点から調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題に臨床心理学の観点から解決策を提案できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

臨床心理学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

講義「臨床心理学」の内容を更に深めるために、乳児期から老年期までの各発達段階における不適応や障害について検討する。具体的には、教員が提示する幾つかのテーマから受講者が選択して発表し、全員で討論する形式で実施する（発表に関する文献や資料は、教員が事前に準備する予定）。
　尚、英文の文献を取り上げることもあるので、それ相応の英文読解力が求められる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：演習の概要説明、発表の順番決め
第２回～第４回　乳幼児期の不適応と障害【発達障害】【育児不安】【子どもの精神障害】
第５回～第７回　学童期・青年期の不適応【いじめ】【学校不適】【非行臨床】）
第８回～第１０回　青年期以降の精神障害【過食と拒食】【パニック障害】【適応障害】
第１１回～第１３回　中年期・老年期の不適応【中年期心性】【老いと死の臨床】
第１４回～第１５回　総括：全体討論

成績評価の方法　/Assessment Method

平素　…　20%　　発表　…　60%　　討論への参加度　…　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、発表者は発表内容に関するレジュメを作成する。それ以外の者は、事前に配布された資料に目を通して自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、レジュメに目を通しながら理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

発表者は、レジュメを作成すること。また、それ以外の者も事前に資料を配布するので、前もって読み、疑問点や問題点等を明確にしておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

臨床心理学 【夜】

キーワード　/Keywords

社会福祉援助論 【夜】

担当者名 /Instructor	小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	人間の生活困難に関して調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会福祉援助論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

現代における社会福祉研究の動向を踏まえ、社会福祉援助の枠組みの制度的変化や意味について吟味し、社会福祉援助に関する方法論的検討を中心とした理論的検討を行う。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１～３回　社会福祉とは何かに関する文献講読と討論
４～８回　社会福祉の援助論、特に１９６０～７０年代の文献購読
９～１３回　社会福祉の援助論、特に１９８０年代以降の文献購読
１２～１５回　まとめの討論

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は授業で指定する文献・論文を読了し、不明な事柄について整理しておくこと。事後学習は不明な事柄について明確にできる様に指定する文献を講読すること。

履修上の注意　/Remarks

文献購読が一定量必要となるので覚悟のこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

児童福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor	河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	児童家庭福祉の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	児童家庭福祉に関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	児童家庭福祉に関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

児童福祉論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

子どもの権利を実現するために「子どもの権利条約」が締結されたが、昨今の子どもの権利をめぐる状況は必ずしも、子どもの権利条約に謳われた権利の実現に向かって進展しているとはいいがたい。世界的には戦争で家族や家をなくし、餓えや寒さに震える子どもたちが存在するし、先進諸国の日本においても貧富の格差が拡大し、食事を満足に食べられない、教育を受けられない子どもたちも存在する。今日の子どもと家庭に何が起こっているのか、子どもの権利をめぐる日本の状況を概観し、子どもの成長・発達の課題、子どもの主体形成の課題などを踏まえつつ、どのような社会的支援が求められているのか、児童家庭福祉の課題について考察する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　子どもの権利と理念の変遷　【児童観の変遷】【近代家族と子育て】【母性神話】
３回　子どもの権利条約　【子どもの権利条約】【能動的権利】【受動的権利】
４回　子どもの権利条約と課題　【子どもの権利条約】【国連子どもの権利委員会最終所見】
５回　今日の子どもの権利をめぐる状況と児童福祉対策
６回　子どもの成長・発達の課題　【発達課題】】【愛着形成】【ソーシャルスキル】
７回　関係性に生きる存在、主体的存在としての子ども
８回　児童虐待　【児童虐待防止法】【マルトリートメント】　【親権】
９回　子どもの権利をめぐる状況　【世界の子どもたち】
１０回　子どもの権利をめぐる状況　【子どもの貧困】
１１回　子どもの権利をめぐる状況　{所在不明の子どもたち】【被虐待児】
１２回　子どもの権利をめぐる状況　【不登校・ひきこもりの子どもたち】
１３回　子どもの権利をめぐる状況　【障害児】【生きづらさを抱えた子どもたち】
１４回　子どもの権利をめぐる状況　【居場所のない子どもたち】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況50%、 提出課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、レジュメのキーワードについて調べておくこと。
事後学習は、授業の復習をしておくこと。

児童福祉論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業で配布するレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

子どもの権利をめぐる状況について受講生に発表をしてもらう予定である。
メディアなどで報じる子どもや家庭に関する問題について、日常的に関心を持っておくこと

キーワード　/Keywords

人間環境学 【夜】

担当者名 /Instructor	野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間と文化の環境との関わりに関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	人間と文化の環境との関わりに関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

人間環境学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

自然（人間にとっての環境）は地質時代、先史時代、歴史時代を通して変動しており、文明は環境に深く関わりをもっていると考えられています。環境と文明の関連を考えることは、現代の環境問題、ひいては現代文明の行く末を見きわめる手がかりともなります。

毎年、様々な環境について取り上げてきましたが、今年度の人間環境学演習では、地震学者と歴史学者が書いた2冊の地震に関する本を用いて、大地震と歴史の関わりについて地震学と歴史学の2つの視点から考えます。

この科目の主な到達目標は以下のとおりです。
人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
人間と文化の環境との関わりに関する諸問題を調査・分析できる。

教科書 /Textbooks

○石橋克彦「大地動乱の時代ー地震学者は警告するー」 岩波書店、1994年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○保立道久著「歴史の中の大地動乱ー奈良・平安の地震と天皇制ー」岩波書店、2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１～１５回
最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールで進めます。
テキストを読んで発表・討論することになりますが、必要に応じて最新の情報も提供します。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 … 30%　　発表の内容 … 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の担当でない回でもテキストを読んでおいてください。また、新聞やインターネット情報などに目を通し、関連する記事があれば読んでおくとより理解が深まります。授業後は、配布された資料などを再度読んで理解してから、今後の資料として使えるよう整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学 【夜】

担当者名 /Instructor	濱野　健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	文化と人間関係の関連について理解するための専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	文化と人間関係の関わりを見定め調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	文化と人間関係の関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

文化社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

社会学領域において必須とされる社会理論・文化理論・批判理論の基礎理論を中心として、現代社会の様々な事象を批判的に分析する方法について能動的に学び、学位論文にむけた理論的・方法論的な能力を養う。
毎回、履修者は指定されたテキストの要旨と論点をまとめたディスカッションペーパーを持参してもらった上で、講義および全体討論を実施する。

教科書　/Textbooks

最初の数回は講読資料を担当教員が事前に配布する。その後は履修者の個別の研究計画などを鑑みて妥当なものを決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回：社会理論の基礎①
２回：社会理論の基礎②
３回：社会理論①
４回：社会理論②
５回：社会理論③
６回：文化理論の基礎①
７回：文化理論の基礎②
８回：文化理論①
９回：文化理論②
10回：文化理論③
11回：批判理論の基礎①
12回：批判理論の基礎②
13回：批判理論①
14回：批判理論②
15回：批判理論③

成績評価の方法　/Assessment Method

授業内評価50%。ディスカッションペーパーによる全体議論への参加50%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定する講読資料は英文の場合もあるのでその旨を理解しておくこと。

文化社会学 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

都市社会学 【夜】

担当者名 /Instructor	稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	都市社会と人間との関わりについて理解するための理論的な枠組みを学習し、都市の社会学的分析に関する専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	都市社会と人間との関わりについて調査・分析する基礎的技能を習得する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	都市社会と人間との関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

都市社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。
具体的には、以下の事柄について理解する。
（１）産業化と都市化の関係
（２）都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方
（３）さまざまな社会現象における「都市的なるもの」の意味
（４）都市計画の課題と可能性
（５）都市における社会現象を把握する技法
なお、授業は演習形式も交えて行う。

教科書　/Textbooks

『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』,町村敬志・西澤晃彦著,2000,有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『よくわかる都市社会学』,中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,ミネルヴァ書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の概要
第２回　近代都市の誕生
第３回　都市へのまなざし
第４回　都市的世界の構造
第５回　個性化のメカニズム
第６回　階級・階層生成のダイナミクス
第７回　都市生活の基盤
第８回　居住点から広がる社会
第９回　郊外という迷宮
第10回　政治権力と都市
第11回　見える都市、見えない都市
第12回　都市の計画と再生
第13回　ユートピアとしての都市
第14回　都市研究の方法
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…７０％　参加・貢献度…３０％

都市社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。
文献について報告してもらうので、報告者は、（１）概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集合的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	教育の制度に関する理論的な枠組みを学習、専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

教育制度論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

概要
教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。
授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。
後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

目標
①教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。
②教育の制度に係わる諸課題について、調査・分析できる。

教科書　/Textbooks

なし。
資料は初回に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 イントロダクション
２回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
３回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
４回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
５回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
６回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
７回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
８回 中間まとめ
９回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
１０回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
１１回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
１２回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
１３回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
１４回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
１５回 まとめ

教育制度論 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

参加度…50%　　発表報告…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

資料は事前によく読んでおくこと。
発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

臨床教育学 【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的な理解を持っている。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	様々な課題を抱える子ども・青年の抱える課題を分析しつつ、その援助を行っていくための基本的な技能を修得している。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	子ども・青年に対して人権尊重の理念に根ざした尊敬的態度で関わっていく意欲と態度を持っている。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

臨床教育学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では、今日の子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。

教科書　/Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体オリエンテーション
2回　事例検討　その１　児童期の発達障害の事例
3回　事例検討　その２　思春期の発達障害の事例
4回　事例検討　その３　学生の発達障害の事例
5回　事例検討　その４　被虐待児の事例
6回　事例検討　その５　虐待サバイバーの方の事例
7回　講読演習　テキスト　第一章
8回　講読演習　テキスト　第二章
9回　講読演習　テキスト　第三章
10回　講読演習　テキスト　第四章
11回　講読演習　テキスト　第五章
12回　講読演習　テキスト　第六章
13回　参加者の研究計画の検討
14回　参加者の研究計画の検討
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点５０％、期末レポート５０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講読テキストについては報告でない場合でも必ずしっかり読み込んで、疑問点などを確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

臨床教育学 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

福祉コミュニティ論 【夜】

担当者名 /Instructor	坂本　毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

福祉コミュニティ論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

地方創生や地域包括ケアといった流れは、改めて現代社会における地域という存在、特にコミュニティという存在が求められるようになってきている。本科目では、地域にある福祉問題について取り上げながら、具体的な解決方法としてコミュニティワークを活用して、どのように地域にある福祉問題の解決に向けた動きを作っていくのかを考える。

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

志賀信夫・畠中亨『地方都市から子どもの貧困をなくす』旬報社
白波瀬達也『貧困と地域　あいりん地区から見る高齢化と孤立死』中央公論新社
岡村重夫『地域福祉論』光生館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　現代社会における福祉問題【福祉問題】【福祉ニーズ】
第　２回　現代社会における地域福祉【地域福祉】
第　３回　地域における福祉問題①【高齢化】
第　４回　地域における福祉問題②【少子化】
第　５回　地域における福祉問題③【子どもの貧困】
第　６回　地域における福祉問題④【障害児・者】【ノーマライゼーション】
第　７回　地域における福祉問題⑤【精神保健福祉】
第　８回　地域における福祉問題⑥【社会的排除】
第　９回　福祉コミュニティ実践論①【社会的包摂】
第１０回　福祉コミュニティ実践論②【コミュニティワーク】
第１１回　福祉コミュニティ実践論③【ボランティア】
第１２回　福祉コミュニティ実践論④【地域福祉調査】
第１３回　福祉コミュニティ実践論⑤【地域包括ケア】
第１４回　北九州における福祉コミュニティの課題【地域福祉課題】
第１５回　北九州における福祉コミュニティの実践【地域福祉計画】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業時の課題提出……30%、期末レポート……70%

福祉コミュニティ論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定・配布された資料を事前に読むようにしましょう。事後学習としては、その日に学んだことを踏まえて、受講者の周囲にある地域福祉の課題について考えたり、自ら積極的にそのような課題に関わるようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

双方向型の授業を予定しています。積極的な参加を望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域にある福祉問題について、コミュニティを形成し、どのようにして解決を図っていくのか、実践的に共に考えましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉学、地域福祉、コミュニティ

高齢社会論 【夜】

担当者名 /Instructor	石塚　優 / 北方キャンパス　非常勤講師					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	高齢社会の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	高齢社会における人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	高齢社会における人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

高齢社会論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

人口構成の高齢化が進展し、2060年頃には40％近い高齢化率に達すると推計されている。この間に、75歳以上人口や85歳以上人口の増加が見込まれている。このような高度高齢社会への人口転換がもたらす社会的影響について、心理・社会的な視点から講義を進める予定。これにより高度高齢社会への移行期に生起する心理・社会的課題について理解することができる。

教科書　/Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　講義の進め方
第２回　人口構造の高齢化の推移と要因
第３回　人口ボーナスと人口オーナス
第４回　高齢者の社会的適応と社会理論【心理学的視点から】
第５回　高齢者の社会的適応と社会理論【社会学的視点から】
第６回　老化に伴う認知機能の変化（知能の変化）
第７回　老化に伴う認知機能の変化【記憶機能の変化】
第８回　高齢者の心理・社会的課題【文化的位置づけとアイデンティティ】
第９回　高齢者の家族関係【介護、認知症、虐待等】
第10回　高齢者のQOLと要求水準及び近隣の社会関係の課題
第11回　高齢者の介護・福祉・医療の制度的側面【介護保険制度】
第12回　国民医療費と後期高齢者医療制度
帯13回　人口減少･少子高齢化に伴う女性の就業と高年齢者労働力の課題
第14回　人口高齢化に伴う地域的政策課題【社会参加、社会的支援等】
第15回　まとめ【高齢化の長所、短所など】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートの提出40％、講義への参加（報告等）60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日常生活における少子化や高齢化の影響について関心を持って注視する。

履修上の注意　/Remarks

特になし

高齢社会論 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

司法福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor　深谷　裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	非行や犯罪と社会および福祉の関係性に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	司法福祉に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	司法福祉と福祉制度・実務に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

司法福祉論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

教科書　/Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶ一総合的支援による人間回復への途」（ミネルヴァ書房　2013年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の概要
第２回　犯罪や非行に対するとらえ方
第３回　歴史の中の司法福祉
第４回〜７回　司法福祉の理論と実践
第８回〜１２回　司法福祉に関わる制度と組織
第１３回〜１４回　司法福祉の国際比較
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点７０％　期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。
基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィールドワーク論 【夜】

担当者名 /Instructor	竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	諸文化の相対性と、人類の生物学的普遍性に関する最新の研究をリファーする。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査を遂行できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと展開する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

フィールドワーク論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

教科書　/Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１講　研究テーマの確認とオリエンテーション
第１講　フィールドワークに関する基本的文献
第２講　実際のデータの活用のされ方と分析手法
第３講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション１【基礎】
第４講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション１【実践】
第５講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション１【応用】
第６講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション２【基礎】
第７講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション２【実践】
第８講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション２【応用】
第９講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション３【基礎】
第10講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション３【実践】
第11講　文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション３【応用】
第12講　各自の研究に関するディスカッション
第13講　各自の研究に関するプレゼンテーション
第14講　問題点の抽出
第15講　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッション　７０％
レポート　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

あたえられた文献を読み発表の準備をすること。議論の結果を考察にまとめていくこと

フィールドワーク論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。
実際の調査データを収集する

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

最先端の研究にふれましょう

キーワード　/Keywords

フィールドワーク
社会調査

臨床社会学 【夜】

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	臨床現場の諸課題や実践にかかわる専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	臨床現場の諸課題や実践について社会学的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	臨床現場の社会学的な考察を踏まえ、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

臨床社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

社会学の一つのアプローチをなす「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の可能性について議論する。

教科書　/Textbooks

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　テーマの設定
２回　臨床社会学の議論の概要
３回　研究文献の選定①
４回　プレゼンテーションおよびディスカッション
５回　プレゼンテーションおよびディスカッション
６回　プレゼンテーションおよびディスカッション
７回　プレゼンテーションおよびディスカッション
８回　中間まとめ
９回　研究文献の選定②
１０回　プレゼンテーションおよびディスカッション
１１回　プレゼンテーションおよびディスカッション
１２回　プレゼンテーションおよびディスカッション
１３回　プレゼンテーションおよびディスカッション
１４回　プレゼンテーションおよびディスカッション
１５回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッション･･･100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等をおこなうこと

履修上の注意　/Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念に取り組んでください
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自で集めて準備してください

臨床社会学 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

環境社会学 【夜】

担当者名 /Instructor	岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間社会と自然環境・文化的環境に関する専門知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間社会と自然環境・文化的環境に関する調査・分析ができる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間社会と自然環境・文化的環境に関する問題や対策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

環境社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま（山）」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

教科書　/Textbooks

○筒井迪夫「森林文化への道」
○北村昌美「森林と日本人」
その他、各自の関心テーマにあわせて選択する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
２回　森林文化に関わる研究史について
３回　文献講読（文献の読み取りと討論）
４回　文献講読（文献の読み取りと討論）
５回　文献講読（文献の読み取りと討論）
６回　文献講読（文献の読み取りと討論）
７回　文献講読（文献の読み取りと討論）
８回　文献講読（文献の読み取りと討論）
９回　文献講読（文献の読み取りと討論）
１０回　新しい森林文化の研究について
１１回　文献講読（文献の読み取りと討論）
１２回　文献講読（文献の読み取りと討論）
１３回　文献講読（文献の読み取りと討論）
１４回　文献講読（文献の読み取りと討論）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（討論への参加含む）…50%　　事前調査と発表内容…50%

環境社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

森林（山林）、林業、山村（農村、村）等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科 田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	イギリス文学研究に必要な高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	イギリス文学研究に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

イギリス文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく、詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

教科書　/Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指摘する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目 (Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
2回目 (Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
3回目 (Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
4回目 (Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
5回目 (Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
6回目 (木原) W. B. Yeats: Introduction
7回目 (木原) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
8回目 (木原) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
9回目 (木原) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
10回目 (木原) W. B. Yeatsと能
11回目 (田部井) 導入：　D.H.Lawrence　全般について
　　(イギリス小説全般の中の異端児として：階級、性、ジェンダー、エコロジー)
12回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む　(第一の島)
13回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む　(第二の島)
14回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む　(第三の島)
15回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む　(まとめ)

成績評価の方法　/Assessment Method

各教員が3分の１ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前】担当教員によって課せられた作品を読み、それについて発表できる用意をすること。
【事後】授業でのディスカッションを振り返し、自分の考えを再考察すること。

イギリス文学研究概論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ文学研究概論　【夜】

担当者名 /Instructor	前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科 アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。

教科書　/Textbooks

1回目からは5回目までは、Death of a Salesman Arthur Miller 南雲堂　9784523036180　を使用するので事前に購入しておくこと。6回目から15回目まではプリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『アメリカ文学思潮史』　福田陸太郎　中教出版
○『アメリカ文学史１、２、３』　亀井俊介　南雲堂
○『アメリカ文学必須用語辞典』　スティーブン・マタソン　松柏社
○『アメリカ文学案内』　寺門泰彦/渡辺信二　朝日出版社
必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　アメリカ演劇研究　Arthur Miller 概説
３回　アメリカ演劇研究　Death of a Salesman の女性描写の特徴
４回　アメリカ演劇研究　Death of a Salesman の過去の位置づけ
５回　アメリカ演劇研究　Death of a Salesman の物質主義批判
６回　Stephen Crane: "An Experiment in Misery"
７回　Jacob Riis: from How the Other Half Lives
８回　Henry Miller: "The Fourteenth Ward"
９回　Vladamir Nabokov: "Symbols and Signs"
１０回　Grace Paley: from The Little Disturbances of Man
１１回　Kate Chopin: "The Story of an Hour"
１２回　Kate Chopin: "Désirée's Baby"
１３回　Leslie Marmon Silko: "The Man to Send Rain Clouds"
１４回　Luis Valdez: "Los Vendidos"
１５回　Lesléa Newman: "A Letter to Harvey Milk"

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、教員から与えられた課題を行うこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

アメリカ文学研究概論　【夜】

履修上の注意　/Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の具体例を紹介しながら基本的理論を解説し、受講生の英語学研究分野に関する理解を深めることを目指す。

教科書　/Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著 (2014). 『現代英語学へのアプローチ』. 英宝社.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　地球語としての英語
３回　英語の誕生
４回　近代英語の誕生
５回　英語の新大陸への進出
６回　英語の地域的変種
７回　英語の地球的拡散
８回　英語の社会的変種I（社会階級；年齢）
９回　英語の社会的変種II（性差；社会的ネットワーク）
１０回　英語の社会的変種III（スタイル）
１１回　英語の音声と音韻の仕組み
１２回　英語の語彙と意味・研究発表(1)
１３回　英語の文構造–生成文法の観点から–・研究発表(2)
１４回　英語の文構造–認知言語学の観点から–・研究発表(3)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表・平常の学習状況…50%、レポート…50%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

英語学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸　尚美 / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

教科書　/Textbooks

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

O Ritchie, W. C. & Bhatia, T. K. (2009). The new handbook of second language acquisition. Bingley: Emerald.
O Gass, S. & Selinker, L. (2001). Second language acquisition: An Introductory Course (2nd ed). Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.
O Hummel, K. M. (2014). Introducing second language acquisition: Perspectives and practice.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Age
Week 3: Vocabulary
Week 4: Input/Output
Week 5: Cognition
Week 6: Developmental Sequences
Week 7: Aptitude
Week 8: Motivation
Week 9: Affect
Week 10: Crosslinguistic influences
Week 11: Teacher development I (motivation)
Week 12: Teacher development II (anxiety)
Week 13: Developmental disorders
Week 14: Second Language Phonology
Week 15: Presentation of research papers

成績評価の方法　/Assessment Method

Research paper, 50%; In-class participation and discussion, 20%; 2 presentations, 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students should do the readings before class. Work on your presentation throughout the semester.

英語教育法研究概論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

second language acquisition, SLA, language, research, English

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor　ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

教科書　/Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
Week 5: Research paper literature review
Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
Week 7: Research paper Questions & Variables
Week 8: Research paper Participants & Materials
Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
Week 11: Data analysis & data commentary language focus
Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
Week 13: The evil of Power Point (informational design)
Week 14: Getting published
Week 15: Research proposal or paper presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

Research proposal or paper (100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

英語表現法 【夜】

履修上の注意　/Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

現代イギリス文学研究　【夜】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を基軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、"inhumanism" を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標：　英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。（The Ecocriticism Readers　by Cheryll Glotfelty ）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　導入　（自然と文学について）
２回　The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
３回　The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii　精読と解釈【環境文学研究の誕生】
４回　The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx　精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
５回　The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii　精読と解釈【人文学と環境危機】
６回　The Ecocriticism Readers pp. xxii – xxiv　精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
７回　The Ecocriticism Readers pp. xxiv – xxv　精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
８回　伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
９回　ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
１０回　ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
１１回　ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
１２回　ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
１３回　自然と人間のあり方についての議論：　授業を踏まえて（１）【機械文明の問題】
１４回　自然と人間のあり方についての議論：　授業を踏まえて（２）【共生の可能性】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・・・８０％
毎回の授業への参加度など・・・２０％

現代イギリス文学研究　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

イギリス文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor　木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテクストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Foweles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク,ハンス 、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　イメージの起源 (死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵) (イメージの起源)
３回　イメージの起源 (死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵) (死)
４回　イメージの起源 (死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵) (再生)
５回　文学テクストへの応用 (Charles Dickens)
６回　芸術の神話 (果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学) (イメージと神話)
７回　芸術の神話 (果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学) (歴史)
８回　芸術の神話 (果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学) (古代芸術)
９回　文学テクストへの応用 (P. B. Shelley)
１０回　スペクタル後 (ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法) (スペクタル)
１１回　スペクタル後 (ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法) (映像)
１２回　スペクタル後 (ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法) (遠隔視)
１３回　文学テクストへの応用 (W. B. Yeats)
１４回　イメージ形成と国家表象について
１５回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素１００パーセント

イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテクストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

イギリス文化研究　【夜】

担当者名 /Instructor　アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	国々の間の文化、考え方を交換するための架け橋となる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

イギリス文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On succesfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

教科書　/Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – 'Reading' Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director's Problems

イギリス文化研究　【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes …　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Preparatory reading will be assigned on a regular basis.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代アメリカ文学研究　【夜】

担当者名 /Instructor　アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest "walkers" in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, On The Road, by Jack Kerouac, and The Road, by Cormac McCarthy—who is perhaps America's greatest living author.

教科書　/Textbooks

Cormac McCarthy, The Road, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, On The Road, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1: Introduction to course and expectations
2: Walking, and what it means in context
3: Henry David Thoreau
4: Walt Whitman
5: James Fenimore Cooper
6: John Dos Passos
7: Henry Miller
8: Jack Kerouac
9: John Steinbeck
10: Hunter S. Thompson
11: Bill Bryson
12: Paul Thoreaux
13: Gus Van Sant (director)
14: Cormac McCarthy
15: Final presentation and course review

現代アメリカ文学研究　【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

Requirements: Final Essay: 40%, Four 1-page summaries: 20%, participation: 20%, Presentations: 20%,

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意　/Remarks

This course will be taught in English and all students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not be able to pass the course.

キーワード　/Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

アメリカ文学研究　【夜】

担当者名 /Instructor	前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 Adventures of Huckleberry Finn を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論考する。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

教科書　/Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn　Mark Twain　A Norton Critica Edition　ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

- Huck Finn　Ed. Harold Bloom　Chelsea House Publisher
- Coming to Grip with Huckleberry Finn　Tom Quirk　University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下)　西田実訳　岩波文庫

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の進め方に関するオリエンテーション　Mark Twain に関する概説
2回　南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
3回　1 - 4章　作中のキリスト教の位置づけ
4回　5 - 8章　アメリカ文学における父親のイメージ
5回　9 - 12章　ハックのジムに対する姿勢の本質
6回　13 - 16章　ハックとジムの論争の描写の意味について
7回　17 - 23章　グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
8回　24 - 27章　詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
9回　28 - 31章　メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
10回　32 - 35章　なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
11回　36 - 40章　トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。
12回　41 - 43章　ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
13回　南部の奴隷制度に関する論文の読解
14回　作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
15回　作品に関する論文の読解、全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平素の学習状況…70%　発表…30%

アメリカ文学研究　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ文化研究　【夜】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	アメリカの文化に関する高度な知識を身に付ける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバル社会の諸課題に主体的に向きあえるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

アメリカ文学作品の精読を通じて、アメリカ社会における多様性について理解を深める機会とする。特に、女性作家 Kate Chopinによる1899年発表の作品、The Awakening を扱い、アメリカ文学作品の原書を読むに足る英語力を培いながら、作品が前景化する諸問題や、作品を取り巻く批評の歴史が前景化する諸問題に接近することを目指す。現代社会が取り組む課題の一、「女性のエンパワーメント」や「ジェンダー平等」について考察を深めることも目標である。

教科書　/Textbooks

Chopin, Kate. The Awakening: And Other Stories (World's Classics). Oxford: Oxford UP, 2008. (ISBN: 978-0199536948)
受講希望者は事前に上記テキストを購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『目覚め』　宮北恵子、吉岡恵子訳、南雲堂、1999年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（授業の概要、成績評価方法などの説明）、Kate Chopin 概説
第2回　Introduction (by Pamela Knights)
第3回　The Awakening, 第1章 - 第4章：米国ルイジアナ州クレオール文化
第4回　第5章 - 第8章：結婚と女性（妻、母、個人）
第5回　第9章 - 第12章：結婚と恋愛
第6回　第13章 - 第16章：社会制度と個人
第7回　第17章 - 第20章：個性と才能
第8回　第21章 - 第24章：目覚め：学問
第9回　第25章 - 第28章：目覚め：抵抗
第10回　第29章 - 第32章：目覚め：葛藤
第11回　第33章 - 第36章：性別に基づくアイデンティティの問題
第12回　第37章 - 第39章：文化的アイデンティティの問題
第13回　批評・読解：伝記的アプローチ、作品におけるクレオール文化の影響
第14回　批評・読解：The Awakeningに対する当時の批判
第15回　批評・読解：作品のエンディングに関する解釈

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況... 80%
発表... 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに、各回に扱う作品の該当箇所や文献を必ず読むとともに、自分なりの考えを構成しておくこと。また授業終了後には、授業の内容を反復し、自分の考えを見直すとともに課題等に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

アメリカ文化研究　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

女性のエンパワーメント、文化的アイデンティティ、多様性

社会言語学研究　【夜】

担当者名 /Instructor　平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	社会言語学に関する知識を持ち研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	社会言語学の知識を持つ専門的職業人として資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	社会言語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会言語学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学の概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

教科書　/Textbooks

（予定）Miriam Meyerhoff. (2011) Introducing Sociolinguistics, 2nd ed. Routledge.
または岩田祐子・重光由加・村田泰美 (2013).『概説 社会言語学』. ひつじ書房.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schleef and Laurel MacKenzie. (2015) Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.
その他の文献は授業時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　社会言語学とは
３回　バリエーションとスタイル
４回　言語態度
５回　ポライトネス
６回　多言語と言語の選択
７回　実時間分析と見かけ上の時間分析
８回　社会階級
９回　社会的ネットワークと実践コミュニティ
１０回　ジェンダー
１１回　言語接触
１２回　学生による研究報告(1)先行研究
１３回　学生による研究報告(2)方法論
１４回　学生による研究報告(3)結果
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表・平常の学習状況…50%、レポート…50%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

『英語学研究概論』を受講すると、本講義の理解がより深いものとなります。

社会言語学研究　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語通訳研究　【夜】

担当者名 /Instructor　伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	通訳として立っていくに必要な高度な語学力、多岐にわたる背景知識を身に付け、国際的な感性を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	通訳に必要な技能を身に付け、一定の条件下で適格な通訳を行なうことができる技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	通訳の自覚をもって、グローバル社会におけるコミュニケーターとして、また異文化コンサルタントとして務められる奉仕の姿勢を身に付ける。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語通訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。通訳といっても、ここではおもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思います。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいのかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に応用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思います。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思います。

教科書　/Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第01回　オリエンテーション
第02回　異文化間コミュニケーションとしての通訳
第03回　通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
第04回　通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
第05回　通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
第06回　アジアにおける通訳事情とリレー通訳
第07回　通訳者養成のための訓練法概説
第08回　通訳者養成のための訓練法の実践
第09回　リスニングの考察
第10回　ノートテーキングの理論と実践
第11回　背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
第12回　背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
第13回　背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
第14回　通訳の実践演習
第15回　全体のまとめとディスカッション
※ただし、これらの内容は参加者の過去の経験や実技能力に応じてかなり変更される可能性がありますので、ご了解下さい。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
授業への積極的参加の度合い50％＋発表または実技50％

英語通訳研究　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プリント教材は事前に配布しますので、前もって準備して参加して下さい。また、実技能力を高めるためにも、しっかり復習および事後の練習をお願いしたいと思います。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もおありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード　/Keywords

中国思想文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	1学期	講義	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国思想文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国思想文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国古代思想史全般について、幾つかの教科書を講読することによって、中国思想史の基本知識を学び、中国文化の源流を理解する。

教科書　/Textbooks

○小島祐馬著『中国思想史』　創文社2000年（必要に応じてコピーして配る）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○胡適著『中国古代哲学史大綱（上）』商務印書館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　序説
第２回　中国古代の社会状態
第３回　孔子
第４回　孟子
第５回　子思子
第６回　荀子
第７回　墨子
第８回　農家
第９回　老子
第１０回　荘子
第１１回　列子・楊子
第１２回　法家
第１３回　易・五行
第１４回　春秋
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の予習状況３０％、受講準備３０％、レポート４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教員から指定された学術書をよく読むこと。

履修上の注意　/Remarks

漢文講読をマスターすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

好好学習、天天向上。

中国思想文化研究概論 【夜】

キーワード /Keywords

中国哲学史研究 【夜】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国哲学史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国哲学史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国中古の思想史を勉強することによって、中国思想史研究の基礎を築き、中国文化のルーツに対する理解を深める。

教科書　/Textbooks

○『中国思想史の流れ』（上、両漢・六朝）　橋本高勝編　晃洋書房

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

胡適著『中国中古思想史長編』（関連部分をコピーして配布）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　概説
第2回　賈誼
第3回　劉安
第4回　董仲舒
第5回　司馬遷
第6回　揚雄
第7回　王充
第8回　王符
第9回　何休
第10回 黄老
第11回 孔融
第12回 仲長統
第13回 何晏
第14回 王弼
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平時の予習状況５０％、レポート５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教員から指定された参考書をよく読むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国哲学史研究 【夜】

キーワード　/Keywords

中国語音声学研究 【夜】

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語学（音声学）の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語学（音声学）関連の資料を活用した調査研究能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代中国語の音声現象に対して関心を深めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国語音声学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では以下のことを学習目標とする。
①一般音声学、中国語音声学・音韻学の基礎的知識を身につける。
②上記①の基礎的知識をもとに、中国語の古代音から現代音への変遷をたどる。
③興味のあるテーマを決め、学期末にレポートを書いて提出する（必要な関連資料を収集する能力を身につけ、自分の意見・主張を論理的に展開することが大切）。

教科書　/Textbooks

佐藤昭　編著『概説　中国語音声学』2017年　購入については、授業時に指示をする。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『中国語語音史　中古音から現代音まで』　佐藤昭　著　白帝社　2002年
○『中国文化叢書１　言語』　牛島徳次等　大修館書店　1967年
○『中国語の歴史』　大島正二　大修館書店　2011年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。

第１回　オリエンテーション
第２回　音声学の基礎知識（１）【発音器官、調音器官】
第３回　音声学の基礎知識（２）【言語音の分類】
第４回　日本語の音節と中国語の音節
第５回　中国語の声母と韻母
第６回　中国語の基本音節表
第７回　中国の方言音
第８回　中国の方言区分
第９回　中国語の古代音と現代音
第10回　中古音から現代音への変化
第11回　中国語音韻学の基礎知識（１）【韻書】
第12回　中国語音韻学の基礎知識（２）【韻図】
第13回　中古音から中原音韻への変化
第14回　中原音韻から現代音への変化
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50%、レポート・・・50%

中国語音声学研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、テキストに目を通し、必要であれば語彙調べなど行って授業に出席すること。
授業後は、次回授業で実施される小テストに備え、学んだ内容についてしっかりと復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

まずは基礎的な知識を身につけ、この分野における研究方法について学びましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　語音　変遷

中国語教育論研究 【夜】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国語教育に関する必要な専門知識を身につける。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語教育を論じるに必要な研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で中国語教育の問題を解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国語教育論研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論に基づいた外国語教育の研究及び実践を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案する。

教科書　/Textbooks

随時プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

胡玉華　『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』　東方書店、２００９
村野井仁『第２言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法』　大修館書店、２００６

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　第１章　学習者を知る
　１．外国語をどう習得するか―認知的要因：知能及び適性
第２回　２．外国語をどう習得するか―認知的要因：認知スタイル及び学習ストラテジー
第３回　３．外国語をどう習得するか―情意的要因：動機
第４回　４．外国語をどう習得するか―情意的要因：性格
第５回　５．外国語をどう習得するか―社会文化的要因：母語の転移
第６回　６．外国語をどう習得するか―社会文化的要因：異文化の受容
第７回　第２章　教授活動を知る
　１．何をどう教えるか―内容
第８回　２．何をどう教えるか―方法
第９回　３．何をどう教えるか―目標
第１０回　第３章　中国語教育を知る
　１．中国における対外漢語
第１１回　２．非漢字圏における中国語教育
第１２回　３．日本における中国語教育―歴史
第１３回　４．日本における中国語教育―現在
第１４回　５．日本における中国語教育―最新動き
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…50％
課題の完成度……50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

中国語教育論研究 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科 ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本とヨーロッパとの比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

比較文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、アメリカ、イギリス、と日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。

教科書　/Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Introduction to the Course (Creaser, Fukushima, Williamson)
2回 Introduction of Historical and Cultural Legacy of Japan and the United States(Williamson)
3回 文学から見る日本とフランス(Fukushima)
4回 Island Nations:A Brief History of Britain and Japan (Creaser)
5回 Value Patterns in the United States and Japan (Williamson)
6回 思想から見る日本とフランス(Fukushima)
7回 The Role of the Monarchy: Britain and Japan (Creaser)
8回 Mid-Term Review (Creaser, Fukushima, Williamson)
9回 文化施設から見る日本とフランス(Fukushima)
10回 Modern Life and Education in Japan and the United States(Williamson)
11回 Modern Life and British and Japanese Education Systems (Creaser)
12回 映画から見る日本とフランス(Fukushima)
13回 Japan through the Lens of American Film (Williamson)
14回 British and Japanese Cuisine: Some surprising similarities (Creaser)
15回 Final Review(Creaser, Fukushima, Williamson)

成績評価の方法　/Assessment Method

Preparation and presentations 60%　Final paper 40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

履修上の注意　/Remarks

比較文化研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	佐藤 眞人 / Sato Masato / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科											
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class					
対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本文化に関する総合的知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	日本文化の諸領域の研究方法について習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日本文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本文化の諸領域について、３名の教員が各５回授業を実施する。

１～５回
グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の５回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

６～１０回
東洋日本美術史分野から主に平安仏画・絵巻・北宋山水画を中心に取り上げて、専門知識と基本的研究方法の確認を行う。平安仏画の回では美術史の王道である様式史に基づく研究方法について、絵巻を中心とした回では異時同図法という描き方について、北宋山水画を中心とした回では三遠之法とは何か、そして、その南宋絵画や日本絵画への影響について確認する。

１１～１５回
日本宗教史に関する主要なテーマを取り上げ、基礎知識と研究方法について学んでもらう。
神道の成立、神仏習合、最澄、空海、中世神道思想について、代表的研究業績を踏まえつつ、理解を深めてもらいたい。受講者に分担して発表し、全員で議論するという形式で進めていく。

教科書　/Textbooks

１～５回コピーテキストを使用することがある。
６～１０回毎回レジュメを配布する。
１１～１５回　使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

日本文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（講義の全体像）
２回　大衆文化研究史①大衆文化とは何か
３回　大衆文化研究史②1920年代を中心に
４回　大衆文化研究史③1950年代を中心に
５回　大衆文化資料の紹介とディスカッション
６回　平安仏画–照暈・截金
７回　平安仏画–具色・着衣文様
８回　異時同図法–本生図・絵巻
９回　異時同図法–絵巻
１０回　宋代山水画–三遠之法
１１回　神道の成立
１２回　神仏習合
１３回　平安仏教
１４回　鎌倉仏教
１５回　中世神道思想

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100％（（東洋日本美術史分野は確認小テストを行う）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あらかじめ配布された資料・テキストは熟読すること。
受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、充分に理解できていない箇所については、参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

１～５回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。積
極的な発言が求められる。
６～１５回
特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア　都市　生活　平安仏画　異時同図法　三遠之法　神道　仏教　神仏習合

言語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	身に付けた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

言語学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
○『言語を生みだす本能（上）・（下）』スティーヴン・ピンカー著、椋田　直子訳、NHKブックス、1995年。
○『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』福井直樹著、筑摩書房、2012年。
○シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、 朝倉書店。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　序：言語学の研究方法（漆原・葛西）
第2回　音韻：音声、音素、異音（漆原）
第3回　音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント（漆原）
第4回　同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音（漆原）
第5回　派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ（漆原）
第6回　複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性（漆原）
第7回　複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造（漆原）
第8回　複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞（漆原）
第9回　文の構造：句構造、c統御、支配（葛西）
第10回　移動現象（１）：格、Ａ移動、主要部移動（葛西）
第11回　移動現象（２）：Ａ-bar移動、島の制約（葛西）
第12回　言語間変異：原理とパラメータ（葛西）
第13回　語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト（葛西）
第14回　文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞（葛西）
第15回　発話行為：協調の原理、関連性理論（葛西）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度　35%　　期末レポート　65%

言語学研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習をすること（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
事後学習：教科書の練習問題や、担当教員が出す課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	文学、思想、文化に対する高度な知識を得て、比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つ能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	文学的資料を適切に分析し、比較文学において高度な研究ができる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題が解決できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

比較文学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この講義は大学院生にふさわしい比較文学に関する知識と価値観を学生に提供するもので、比較文学の研究史 (Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など) を踏まえて、影響研究、ジャンル研究、比較研究、翻訳研究、翻案研究などの実例を紹介し、研究方法を教える予定である。又、文学批評と関連する項目であるジェンダー、パラリテラチャー、ポストコロニアリズムに関しても視野に入れて授業を進める方針である。

この講義の到達目標は以下の通りである。
・ 比較文学研究に関する高度な知識を得ることで、国際社会・ 地域社会に役立つ能力を修得する。
・ 文学的資料の分析を通して、高度な比較文学研究ができる。
・ 比較文学の知識を、グローバル社会における課題解決に応用できる。

教科書　/Textbooks

インターネット資料、プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

比較文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　文学とは何か？（基本的問題提起）（岩本）
第2回　比較文学とは何か？（Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など）（岩本）
第3回　比較研究（フランス学派：文学作品の二項関係の影響研究）（岩本）
第4回　ジャンル研究（物語、詩、戯曲）（ストラック）
第5回　比較研究（アメリカ学派：文学と絵画、文学と映画などの対比研究）（ストラック）
第6回　文学批評の諸姿勢（ストラック）
第7回　ジェンダーと語り直し（ストラック）
第8回　受容と変容（岩本）
第9回　比較文学における翻訳研究（岩本）
第10回　翻案研究（岩本）
第11回　普遍性と文化の差異（岩本）
第12回　ポストコロニアリズム（ストラック）
第13回　パラリテラチャー（ストラック）
第14回　越境する文学（ストラック）
第15回　まとめ（岩本・ストラック）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30%　課題：20%　期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：前回の講義で紹介された語彙を復習して、取り組むべき問題点を再確認して下さい。
事後学習：授業で扱う文学作品は積極的に読み、作品の歴史的な背景に関する基本的な情報収集を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

授業準備のために文学作品を事前に読むことが必要な場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学、比較文学、 Weltliteratur、ジャンル、翻訳、翻案、ポストコロニアリズム、文学理論、パラリテラチャー

日本宗教文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor	佐藤 眞人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門的知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	他地域の宗教文化と比較して研究課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日本宗教文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

『扶桑略記』の講読。

仏教関係記事を中心とする漢文体の編年歴史書である『扶桑略記』から巻廿三「醍醐天皇　上」以降の記事を受講者が分担して輪読する。
日本宗教文化の研究に不可欠な日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版）
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回授業の進め方
２回『扶桑略記』と古記録の読み方について
３回『扶桑略記』輪読　即位記
４回『扶桑略記』輪読　寛平１０年１０月２０日条前半まで
５回『扶桑略記』輪読　寛平１０年１０月２１日条まで
６回『扶桑略記』輪読　寛平１０年１０月２４日条まで
７回『扶桑略記』輪読　寛平１０年１０月２５日条まで
８回『扶桑略記』輪読　寛平１０年１０月２９日条まで
９回『扶桑略記』輪読　寛平１０年１１月２１日条まで
１０回『扶桑略記』輪読　昌泰２年１０月８日条まで
１１回『扶桑略記』輪読　昌泰３年４月７日条まで
１２回『扶桑略記』輪読　昌泰４年１月２５日条まで
１３回『扶桑略記』輪読　昌泰４年８月２５日条まで
１４回『扶桑略記』輪読　昌泰４年８月条まで
１５回『扶桑略記』輪読　延喜２年３月１２日条まで

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は毎回割り当てられた漢文読解の発表準備をして望んでもらう。
疑問点等があればいつでも質問して下さい。

日本宗教文化研究 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

テキストの読解は日本宗教史のみならず日本文化研究の基礎です。しっかりと能力を身につけて下さい。

キーワード　/Keywords

『扶桑略記』　日本宗教史

日本美術史研究 【夜】

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本美術史の専門知識を修得する。美術史を専門とする学芸員の職を目指すことが可能なレベルの知識を身に付ける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	日本美術史の研究方法を修得し、美術史の学術論文を執筆する技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	他文化圏の美術に対しての日本美術ならではの特性を理解する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日本美術史研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本美術史においては、著名な作品でありながら、制作年代や制作者、当初の状態などについて、未だ解明されていない作品が幾つも存在する。本講義では、これまで多くの先行研究が発表されて来たにも関わらず、未だ定説を見ない問題について、それらの先行研究論文を読み進めながら考えて行く。

今年度取り上げる問題は、法華寺所蔵「阿弥陀三尊并持幡童子像」の堂内の掛け方についてと、高野山有志八幡講十八箇院所蔵「阿弥陀聖衆来迎図」の制作年代についてである。

従って、本授業での目標は、美術史学的な考察方法・研究方法の習得であり、最終的には参加者各自に自らの説を提示してもらうこととする。

教科書　/Textbooks

なし。但し、毎回、こちらが提示した先行研究論文を読んで来ること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の手順に関する説明
２回　法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解①【浄土図・来迎図】
３回　法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解②【迎講】
４回　法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解③【印相】
５回　法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解④【卍字繋ぎ文様】
６回　法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解⑤【輪宝を中央に置く文様】
７回　法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解⑥【堂内の配置】
８回　２～７回を踏まえたデイスカッション
９回　高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解①【夢中見仏】
１０回　高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解②【悉皆金色身】
１１回　高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解③【彼岸と此岸】
１２回　高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解④【阿弥陀五尊】
１３回　高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解⑤【四天王寺西門信仰】
１４回　高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解⑥【制作年代】
１５回　９～１４回を踏まえたディスカッション

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　授業への参加態度・・・ 50%

日本美術史研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、充分に理解できていない箇所については、参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本表象文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本の表象文化についての専門的知識を獲得し理解する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	日本の表象文化についての専門的な分析方法を習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	日本の表象文化についての課題を設定し、主体的に解決する態度を身につけている。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日本表象文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

前半では日本の大衆文化に関する研究書をとりあげて、その講読をおこなう。本年度は、１９５０年代～６０年代における大衆文化論をとりあげて講読する。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。本授業は、日本の大衆文化研究をテーマとする修士論文作成のために必要な知識と指向技術獲得を目指す。

教科書　/Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　テキスト講読【1940年代】【民主主義】
第３回　テキスト講読【1950年代前半】
第４回　テキスト講読【1950年代後半】
第５回　テキスト講読【1960年代前半】
第６回　テキスト講読【1960年代後半】
第７回　テキスト講読【福田定良】【哲学】
第８回　テキスト講読【鶴見俊輔】【思想】
第９回　テキスト講読【加藤秀俊】【社会学】
第１０回　テーマ発表【問題設定】
第１１回　テーマ発表【資料収集】
第１２回　テーマ発表【資料比較】
第１３回　テーマ発表【分析】
第１４回　テーマ発表【解釈】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度・・・２０％、講読発表・テーマ発表・・・８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：テキスト講読の予習
事後：テキスト講読の復習

履修上の注意　/Remarks

課題（文献の熟読）をおこない、授業に臨むこと。本授業は修士論文作成を目的とした専門性の高い内容を念頭においている。、

日本表象文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較広域文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor	ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較広域文学研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	比較広域文学に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	比較広域文学研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

比較広域文学研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

当演習においては、様々な名文献を考察し、その文献に潜んでいる隠喩的思想性を追求していきます。多数の文化に見られるメタファーを分析することを通して、異文化間における概念や思想の差異に関する理解を深めます。

教科書　/Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回コース紹介
第2回『美学』（アリストテレス）
第3回『詩学』（アリストテレス）
第4回『論語』（孔子）
第5回「山上の垂訓」（イエス）
第6回 『万葉集』
第7回 「方丈記」
第8回 シェイクスピア（「ソネット」）
第9回 ジョン・ダン
第10回 小林一茶
第11回 アメリカの「独立宣言」
第12回 ニーチェ
第13回　キップリング
第14回 M.L.キング
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業参加：40%　小テスト：0%　期末試験：0%　課題：50%　態度：10%

比較広域文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：前回の講義で紹介された語彙を復習して、取り組むべき問題点を再確認して下さい。
事後学習：次回で紹介される予定の作品の歴史的な背景及び作家の伝記に関する積極的な情報収集を行って下さい。

履修上の注意　/Remarks

Students will be expected to read the weeks assignment and come to class prepared to analyze and discuss the work.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ヨーロッパ比較文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor	福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	△	日本とヨーロッパ文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

ヨーロッパ比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

今年度は、哲学者から見た「映画」をテーマとして、思想、映画、写真、芸術、文学、歴史といった様々な領域を横断しながら、「映画」と人間の認識に関する文献や作品に触れていく。具体的には、ジル・ドゥルーズの映画論である『シネマ1』を読み解いていく。

教科書　/Textbooks

初回に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジル・ドゥルーズ『シネマ1』、法政大学出版局
○ジル・ドゥルーズ『シネマ2』、法政大学出版局
○ロラン・バルト著『明るい部屋』花輪光訳、みすず書房
○ヴァルター・ベンヤミン『図説　写真小史』久保哲司編訳、ちくま学芸文庫
○ポール・リクール『記憶・歴史・忘却』久米博訳、新曜社、等

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション：ドゥルーズ『シネマ』の射程
第２回　ベルクソンとドゥルーズ
第３回　フレームとショット、フレーミングとカット
第４回　モンタージュ
第５回　運動イメージ
第６回　知覚イメージ
第７回　情動イメージ：顔
第８回　情動イメージ：クローズアップ
第９回　実証：映像とテクスト
第１０回　欲動イメージ
第１１回　行動イメージ：行動
第１２回　行動イメージ：イメージ
第１３回　顔、かたちの変形
第１４回　行動イメージの危機
第１５回　まとめ：イメージと記憶、現実の彼方に

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点５０％　レポート５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、テクストの該当箇所を予習しておくこと。

ヨーロッパ比較文化研究 【夜】

履修上の注意　/Remarks

履修学生の興味に応じて、授業計画・内容は柔軟に対応する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文化とは何か。知性とは何か。こうした問いをふまえつつ、ヨーロッパの思想、映画、写真、芸術、文学、歴史に触れていく。

キーワード　/Keywords

映画　哲学　フランス　思想

日英比較文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor　フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日英比較文化研究に関する高度な知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	日英比較文化に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日英比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

教科書　/Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Music
Week 3: Fashion
Week 4: Media
Week 5: Food and Drink
Week 6: Monarchs of the past
Week 7: The Monarchy in present day Britain
Week 8: Politics
Week 9: Multicultural Britain: an historical overview
Week 10: Multicultural Britain: economic migrants and refugees
Week 11 Primary and secondary education
Week 12: University education
Week 13: The Arts
Week 14: Language
Week 15: Review

成績評価の方法　/Assessment Method

In class assessment 50%
Report 30%
Presentation and Discussion 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students are expected to read relevant materials each week.

日英比較文化研究 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Students will gain insight into historical and modern aspects of British society.

キーワード　/Keywords

Britain, Japan

日米比較文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日米比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書　/Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
5回 Value Patterns in the United States and Japan
6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
8回 Discussion based on reading materials II:Patterns of Culture
9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
15回 Wrap-up and Final Presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

日米比較文化研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究（形態論）【夜】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	形態論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	身に付けた専門知識を使って、言語の形態およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	身につけた専門知識を生かし、言語の形態と実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

理論言語学研究（形態論）

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

教科書　/Textbooks

漆原　朗子（編著）（2016)『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。東京：朝倉書店。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　言語学の対象と目的
第2回　言語学における形態論の位置づけ
第3回　形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
第4回　形態論の基本的概念(2)：派生
第5回　形態論の基本的概念(3)：屈折
第6回　形態論の基本的概念(4)：複合語
第7回　形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
第8回　形態論の基本的概念(6)：接語
第9回　アメリカ構造主義言語学における形態論
第10回　生成文法理論における形態論
第11回　語彙的緊密性
第12回　主要部と第一姉妹の原則
第13回　生産的語形成と限定的語形成
第14回　分散形態論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度　30%
発表　40%
期末レポート　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：課題の提出

理論言語学研究（形態論）【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

理論言語学研究（統語論）【夜】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	統語論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	身につけた専門知識を使って、統語現象およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	身につけた専門知識を生かし、統語論および実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

理論言語学研究　（統語論）

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

生成文法の『原理とパラメター』の理論的枠組みの中で、言語間の違いがどのようにして分析されてきたかを概観する。また、受講生の興味に応じて、様々な言語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

（１）生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
（２）統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書　/Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方
第２回　プラトンの問題
第３回　生成文法の展開
第４回　句構造理論　（１）【統語範疇、ｃ統御】
第５回　句構造理論　（２）【構成素テスト】
第６回　句構造理論　（３）【Ｘバー理論】
第７回　移動　（１）【Ａ移動】
第８回　移動　（２）【Ａバー移動】
第９回　移動　（３）【主要部移動】
第１０回　移動　（４）【局所性】
第１１回　世界の諸言語の分析（１）【ｗｈ移動】
第１２回　世界の諸言語の分析（２）【空項】
第１３回　世界の諸言語の分析（３）【削除】
第１４回　世界の諸言語の分析（４）【格】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…50％　　レポート…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の購読

理論言語学研究（統語論）【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	堀地　明 / 中国学科, 下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科 白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	中国研究の諸分野について専門的知識を習得し、自らの見解を表明できる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国研究の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	中国に関する諸問題に関心を持ち、広い視野から問題解決の方法を模索し行動することができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国の歴史･ 経済･ 政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解する。特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじる。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１回：全教員-授業ガイダンス
２回：白石-中国経済を分析する視点
３回：白石-中国経済への分析アプローチ（１）論文を読む
４回：白石-中国経済への分析アプローチ（２）分析手法
５回：白石-中国経済分析から得られるインプリケーション
６回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
７回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
８回：堀地-歴史資料を読解し分析する（１）中文史料
９回：堀地-歴史資料を読解し分析する（２）日文史料
１０回：下野-現代中国を政治的観点からみる - 問題の所在
１１回：下野-資料の探し方
１２回：下野-資料の読み方
１３回：下野-分析手法
１４回：全教員-総合討論と学生研究報告（１）報告
１５回：全教員-総合討論と学生研究報告（２）総合討論

成績評価の方法　/Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で１００％評価する。

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に教員が提示した課題を準備して出席すること、また授業後に教材を見直し論点を整理すること。

中国研究概論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国近代史　一次資史料　中国政治　中国経済　現代中国

東南アジア研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような態度を育成する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東南アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。（オムニバス方式／全15回）

1　田村慶子 / 5回
戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

2　伊野憲治 / 5回
東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

3　篠崎香織 / 5回
植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

教科書　/Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
＊これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。
弘末雅士『東南アジアの港市世界–地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史 第7巻）』岩波書店、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○白石隆『海の帝国ーアジアをどう考えるか』中公新書、2000年。
○ベネディクト・アンダーソン（白石隆・白石さや訳）『想像の共同体ーナショナリズムの起源と流行』NTT出版、1997年。
○東南アジア学会監修『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
○伊野憲治『アウンサンスーチーの思想と行動』アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。
○工藤年博編『ミャンマー政治の実像ー軍政23年の功罪と新政権のゆくえー』アジア経済研究所、2012年。

東南アジア研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【田村担当】
第1回　教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。
第2回　『東南アジア現代政治入門』序章および第一章の輪読と議論
第3回　『東南アジア現代政治入門』第二章および第三章の輪読と議論
第4回　『東南アジア現代政治入門』第四章および第五章の輪読、議論
第5回　『東南アジア現代政治入門』第六章の輪読および議論、まとめの議論

【伊野担当】
第6回 東南アジア諸国における民主化について―ミャンマーを中心に―（講義）
第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（理論に関する邦語論文の輪読）
第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（理論に関する英語論文の輪読）
第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（ミャンマーに関する邦語文献の輪読）
第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（ミャンマーに関する英語文献の輪読）

【篠崎担当】
第11回　『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章
第12回　『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章
第13回　『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。
第14回　『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。
第15回　『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論などの日常の授業への取り組み　70%
レポート　　30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を読むこと、事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人

アメリカ社会概論　【夜】

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	アメリカ社会理解に必要な基礎的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する基礎的な力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる基礎的な力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ社会概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のD･トランプ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書　/Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治　新版』(有斐閣アルマ　2010年)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス【研究史整理】【方法論】
第2回　21世紀後における保守主義政治の転回【保守主義】
第3回　トランプ政権のイデオロギー【D･ トランプ】
第4回　オバマ政権の歴史的位相【B･ オバマ】
第5回　合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
第6回　合衆国憲法体制の変容--市民権の発展と福祉国家【市民権】
第7回　アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
第8回　1980年代における国家論の再興【国家論】
第9回　歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
第10回　政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
第11回　1990年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
第12回　アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
第13回　保守主義者の自由主義政治への挑戦【リベラル･ コンセンサス】
第14回　1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
第15回　講義の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度　…　７０　％　　レポート　…　３０％

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

アメリカ社会概論　【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ　政治

アメリカ人種関係概論　【夜】

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ人種関係概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

教科書　/Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．イントロダクション
２．アメリカ人種関係論の概要
３．新しい「社会史」の登場
４．アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
５．アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
６．「白人性（ホワイトネス）」議論の登場
７．ホワイトネス各論１：M.ジェイコブソン
８．ホワイトネス各論２：D.ローディガー
９．ホワイトネス各論３：その他の主要な著作
１０．人種混淆の理論
１１．ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開：２０世紀前半
１２．ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開：２０世紀後半
１３．その他のグループ間関係
１４．２１世紀のアメリカの人種関係
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言・報告…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

アメリカ人種関係概論　【夜】

履修上の注意　/Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際関係研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	大平　剛 / 国際関係学科, 阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科 魏　芳 / FANG WEI / 経済学科, 山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	国際関係の理論、国際経済、国際政治の基礎について包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する事項について、修得した知識と技術を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際関係研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　リアリズム：覇権安定論（担当：阿部容子）
第3回　リベラリズム（1）相互依存論
第4回　リベラリズム（2）国際レジーム論
第5回　コンストラクティビズム：規範の役割
第6回　マルクス主義（1）生成の背景と思想（担当：大平　剛）
第7回　マルクス主義（2）実践と現代における意味
第8回　巨視的歴史理論（1）従属論
第9回　巨視的歴史理論（2）世界システム論
第10回　グローバル化する経済（1）自由貿易（担当：魏　芳）
第11回　グローバル化する経済（2）経済統合
第12回　グローバル化する経済（3）直接投資
第13回　国際統合論（1）連邦主義（担当：山本　直）
第14回　国際統合論（2）交流主義、新機能主義
第15回　国際統合論（3）ガバナンス論

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20%　　レポート・・・80%（20%×4本）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に各回で学ぶ内容について、予備知識を文献やインターネットを通して得ておくこと。事後学習としては、レポート課題が出されるので、テーマに則した文献や資料を収集してレポートを書くこと。

国際関係研究概論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

キーワード　/Keywords

中国社会史研究 【夜】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国社会の歴史について専門知識を習得し、自らの見解を表明することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国社会史の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	中国社会の歴史に関する専門知識に基づいて、中国の社会問題を歴史的に理解し、問題解決の方法を模索することができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

中国社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史的変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

教科書　/Textbooks

・ 上田信『海と帝国』(講談社、2005年)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』(清文堂、2005年)

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンスと文献の配布
第2回　中国という社会空間
第3回　明朝の成立
第4回　明朝統治の特質
第5回　交易の発展と社会変容
第6回　商人社会
第7回　社会秩序の変容
第8回　北辺貿易と清朝の成立
第9回　産業の発展
第10回　伝統中国の完成
第11回　伝統中国社会と環境問題
第12回　伝統中国社会と近世日本社会
第13回　土地改革と伝統中国社会の解体
第14回　改革開放下中国社会の構造
第15回　まとめ (総合的考察–伝統中国社会と現代中国社会)

成績評価の方法　/Assessment Method

報告 (６０％)・ 討論 (４０％) で評価する。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

報告の準備を入念に行うこと、事後に論点整理と課題を明確にすること。

履修上の注意　/Remarks

中国社会史研究 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

現代中国政治研究 【夜】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国政治およびそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国政治およびそれに関連する事項について先行研究を収集することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	中国政治およびそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代中国政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国の近現代史を踏まえて、①中華人民共和国の成立過程から現在までの歩み、②現代中国の政治体制について広く知識を修得し、現代中国が抱える諸問題について学術的な観点から議論できるようになることを授業の目的とする。

教科書　/Textbooks

Kenneth Lieberthal, Governing China: From Revolution through Reform, 2nd edition, W.W.Norton & Company, 2004.
天児慧『中国の歴史第11巻　巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年。
○毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　『中国の歴史第11巻　巨龍の胎動』はじめに・１章
３回　〃　２・３章
４回　〃　４・５章
５回　〃　６・７章
６回　〃　８・９章
７回　Governing China Chap.1
８回　〃　Chap.2
９回　〃　Chap.3
１０回　〃　Chap.4
１１回　〃　Chap.5～6
１２回　〃　Chap.7～8
１３回　〃　Chap.9～10
１４回　〃　Chap.11～12
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言・報告…60　%　　課題提出物…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

現代中国の近現代史・政治・経済・社会などについて基礎的な知識を備えていることが望ましい。
授業では、テキストを熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（３点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

現代中国政治研究 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東アジア国際政治研究 【夜】

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	東アジアの国際政治について、専門的な知見を有している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東アジアの国際政治について、社会科学的な調査や分析を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東アジアの国際政治に関して、修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東アジア国際政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では、日韓国交正常化交渉を切り口として、脱植民地化と冷戦論理の相剋によって規定されてきた戦後東アジア地域秩序の構図を、近年公開された新資料を使い理解するうえでいくつかの視座を提供したい。換言すれば、 戦後東アジアの国際規範でもあったサンフランシスコ講和条約に示された、いわゆる分離地域に対する法理とその精神が、日韓国交正常化交渉の場ではいかに議論されたのか、また、その帰結はイタリア講和条約などの他地域の例とどう異なったのかを比較検証することで、戦後東アジアにおける脱植民地化の論理を探り出したい。新資料とは、近年公開された日韓およびアメリカ政府資料である。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

浅野豊美 編 『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編：請求権と歴史認識問題の起源』（東京: 慈学社、2013年）
李鍾元･ 木宮正史･ 浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化I：東アジア冷戦編』（東京: 法政大学出版局、2011年）
李鍾元･ 木宮正史･ 浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（東京: 法政大学出版局、2011年）
その他、演習の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロ（授業の趣旨および進め方、資料の紹介、報告順番の決定など）
第2回　帝国日本の解体と戦後日韓関係
第3回　サンフランシスコ講和条約の適用と日韓関係
第4回　2つの講和条約と日韓交渉における植民地主義
第5回　日韓会談における被害補償交渉の過程分析
第6回　日韓請求権交渉と「米国解釈」
第7回　日韓会談の政治決着と米国
第8回　韓国の対日導入資金の最大化と最適化
第9回　日韓国交正常化交渉における基本関係問題
第10回　戦後日本のポツダム宣言解釈と朝鮮の主権
第11回　日韓会談と文化財問題
第12回　日韓会談と在日朝鮮人
第13回　日韓会談と領土問題
第14回　未完の日韓会談：残された問題
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告･ ･ ･ 50%
討論への貢献度･ ･ ･ 50%

東アジア国際政治研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を適切に行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業で指示する文献を授業開始前までに熟読したうえで討論に臨むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東アジア国際政治、脱植民地化、冷戦、解放、分離、日韓国交正常化交渉、賠償、請求権、サンフランシスコ講和条約

日本社会史研究 【夜】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	日本の文化が形成される近世社会の歴史に関心を持ち、歴史を社会と生活文化の視点から捉えることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	著書や論文などの文献にとどまらず、実際にくずし字史料を解読して実証的な研究を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	単に一国史の視点にとどまることなく、アジアやヨーロッパと比較する視点を持つことによって世界史の中に位置づけることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

日本社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

江戸時代の歴史とりわけ文化・思想の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『日本都市生活史料集成』（学習研究社）
○『日本庶民生活史料集成』（三一書房）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第2回　平戸町人別帳①　川崎屋
第３回　平戸町人別帳②　高麗人
第４回　犯科帳①抜荷
第5回　犯科帳②遊女
第6回　犯科帳③欠落
第７回　犯科帳④博奕
第８回　犯科帳⑤無宿
第９回　博多津要録①捨て子
第10回　博多津要録②茶屋
第11回　博多津要録③水主役
第12回　博多津要録④興業
第13回　博多津要録⑤寺内
第14回　補論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート提出・・・１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に史料を読んでおくこと
事後にくずし字史料をデータ入力しておくこと

日本社会史研究 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東南アジア近現代史研究 【夜】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	現代世界とのつながりのなかで、東南アジア近現代史を理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として応用することができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東南アジア近現代史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告･ 討論を行う。

教科書　/Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界–地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史 第7巻）』岩波書店、2002年。
後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史 第8巻）』、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
このほかにも授業中に別途指示する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

1回　導入
2回　『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
3回　『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
4回　『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
5回　『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
6回　『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
7回　『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
8回　『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
9回　『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
10回　『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
11回　『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
12回　『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
13回　『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
14回　『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論【国家形成】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　50　%　レポート　…　50%

東南アジア近現代史研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストに基づく討論が授業の主な内容となります。テキストを事前に熟読しておくこと。授業の後には、テキストの内容を自分の研究にどのように活かすことができそうか考えてみましょう。

履修上の注意　/Remarks

東南アジアについて基本的な知識がない受講者は、学部（国際関係学科）で開講している東南アジア研究概論、東南アジアの社会と歴史、東南アジアの政治と外交などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東南アジア地域研究I 【夜】

担当者名 /Instructor	伊野 憲治 / 基盤教育センター					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	現代国際社会における地域研究的アプローチの重要性を認識し、自ら運用できる知見と能力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観できる能力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	各研究テーマに即して、研究と実践との相関関係を把握する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東南アジア地域研究Ⅰ

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

教科書　/Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第２回：地域研究の起源【起源】
第３回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
第15回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート５０％
報告内容50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意　/Remarks

東南アジア地域研究I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域研究

東南アジア地域研究II 【夜】

担当者名 /Instructor	田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	東南アジア地域の近現代史、独立後の政治や社会の変容に関する基礎的な知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	広く先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような行動力を育成する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

東南アジア地域研究Ⅱ

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治･ 社会･ エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。
課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることがきるよう指導する。

教科書　/Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：
岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
　* 「[学としての国際政治」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
○アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
　* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
○清水一史･ 田村慶子･ 横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　テキストとスケジュールの相談、説明
第2回　『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
第3回　『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
第4回　『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
第5回　『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
第6回　アジア政治の課題について議論する
第7回　The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
第8回　The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
第9回　The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
第10回　The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
第11回　The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
第12回　The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
第13回　華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
第14回　これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
第15回　補足とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート　…　40%　　報告や議論　…　60%

東南アジア地域研究II 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献を精読すること。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意　/Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。
アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことのない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

アメリカ社会研究　【夜】

担当者名 /Instructor	中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科					
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	アメリカ社会理解に必要な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ社会研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

アメリカの社会文化を分析した古典的名著であるL･ ハーツの『アメリカ自由主義の伝統』を輪読する。19世紀前半にアメリカを旅したトクヴィルが観察したように、アメリカでは社会革命を経ずしてうまれた社会に特有の精神風土が花開くことになった。その風土をアメリカが世界大国になった20世紀中期の現実を踏まえて、あらためて考察しなおしたのがハーツの著作である。この演習では、21世紀アメリカの社会的現実を紹介しながら、ハーツの議論の今日的有効性とその限界を考えていく。その上で、参加者自体のアメリカ観の養成をはかる。

教科書　/Textbooks

Louis Hartz with an introduction by Tom Wicker, The Liberal Tradition in America: An Interpretation of American Political Thought since the Revolution (San Diego, CA: Harcourt Brace & Company,1991)[有賀貞訳『アメリカ自由主義の伝統』（講談社学術文庫　1994年）]

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス　【研究史整理】【方法論】
第2回　アメリカにおけるJ･ ロック【自由主義】
第3回　トクヴィルとハーツ【政治参加】
第4回　革新主義史学への挑戦者としてのハーツ【革新主義】
第5回　アメリカにおける階級【社会主義】
第6回　アメリカ革命への視座【アメリカ革命】
第7回　共和主義とアメリカ【共和主義】
第8回　ジャクソン期の「民主主義」【ジャクソン期】
第9回　南部政治の特殊性【南部】【奴隷制】
第10回　南北戦争と南北のイデオロギー対立【南北戦争】
第11回　再建期の思想動向【再建期】
第12回　革新主義を支えたもの【社会主義】【キリスト教】
第13回　ニューディールの実験主義【ニューディール】
第14回　ハーツと1950年代の自由主義政治【冷戦】
第15回　『アメリカ自由主義の伝統』の今日性【21世紀】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度　…　７０　％　　レポート　…　３０％

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

各回、課題を出すので教科書や資料でそれを次回の授業までに行うこと。また、毎回、振り返りの内容も指示する。

アメリカ社会研究　【夜】

履修上の注意　/Remarks

この講義はアメリカ社会概論とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ人種関係研究　【夜】

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得し、それに基づいて、現代世界が抱える問題について専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ人種関係研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

教科書　/Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
Karen Brodkin, How Jews Became White Folks and What That Says About About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．　イントロダクション
２．　優生学の登場
３．　「新移民」と人種
４．　ホワイト・エスニックとは
５．　反ユダヤ主義の系譜
６．　戦争と人種問題１：アフリカ系アメリカ人
７．　戦争と人種問題２：ホロコーストの記憶と反省
８．　戦争と人種問題３：日系人と強制収容
９．　公民権運動をめぐる議論１：1950年代
１０．公民権運動をめぐる議論２：1960年代前半
１１．公民権運動をめぐる議論３：1960年代後半
１２．ポスト公民権運動期の人種関係
１３．文化多元主義と多文化主義
１４．今日のアメリカの人種関係とその展望
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言・報告…100％

アメリカ人種関係研究　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際経済研究 【夜】

担当者名 /Instructor　魏　芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。グローバル社会が抱える諸問題を経済学の視点から理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	経済学の分析手法を身につけ、国際経済の現実問題に応用して議論を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	修得した知識・技能を生かし、国際的な視野に立って物事を考える。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義は、不完全競争市場下の貿易政策の経済分析を学習する。部分均衡分析の手法を用いて、国際貿易政策の分析に応用できることを期待している。

到達目標は以下の通りである。
①不完全競争の市場構造を理解できる。
②貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
③現実の貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

教科書　/Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』(MIT Press)
和訳：大山道広訳『現代の貿易政策』（東洋経済新報社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』（東京大学出版社）
柳川範之著『戦略的貿易政策』（有斐閣）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　貿易政策と市場支配力【戦略的効果】【生産効率】
３回　完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
４回　完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
５回　保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
６回　保護と国内市場支配力II【国内寡占】
７回　外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
８回　外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
９回　外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
１０回　戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
１１回　戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
１２回　戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
１３回　貿易政策調査発表I
１４回　貿易政策調査発表II
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み　30 %　　課題提出・発表　70 %

国際経済研究 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学の知識が必要。
毎回授業後の復習も必須。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際機構研究 【夜】

担当者名 /Instructor	山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科						
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際機構の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際機構に関する先行研究を踏まえ、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	国際機構をめぐる実践的な問題に関心を持ち、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際機構研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

国際機構に関する理解を深めるために、国際機構の目的、制度、機能および課題を研究する。

教科書　/Textbooks

Clive Archer, International Organizations, Fourth Edition, Routledge, 2014.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

テキストの講読と報告を通じて、国際機構の現代的展開を概観および考察する。
第1回　はじめに
第2回　テキスト第1章【国際機構の定義】
第3回　テキスト第1章【国際機構の歴史】
第4回　テキスト第2章【国際機構への加盟】
第5回　テキスト第2章【国際機構の目的と活動】
第6回　テキスト第3章【現実主義と国際機構】
第7回　テキスト第3章【修正主義と国際機構】
第8回　テキスト第3章【急進主義と国際機構】
第9回　テキスト第4章【国際機構の役割】
第10回　テキスト第4章【国際機構の機能】
第11回　テキスト第4章【グローバル・ガバナンス】
第12回　テキスト第5章【国際機構の将来】
第13回　テキスト第5章【国際機構の課題】
第14回　テキスト第5章【国際機構のもうひとつの可能性】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

参加50%、報告50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

国際機構に関する入門書・専門書を事前に購読しておくこと。
テキストを事前に講読し、報告できるように準備する必要がある。
以上、くわしくは初回の授業で指示する。

履修上の注意　/Remarks

国際機構研究 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

イギリス文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor　木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテクストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Foweles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク,ハンス 、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　イメージの起源 (死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵) (イメージの起源)
３回　イメージの起源 (死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵) (死)
４回　イメージの起源 (死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵) (再生)
５回　文学テクストへの応用 (Charles Dickens)
６回　芸術の神話 (果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学) (イメージと神話)
７回　芸術の神話 (果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学) (歴史)
８回　芸術の神話 (果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学) (古代芸術)
９回　文学テクストへの応用 (P. B. Shelley)
１０回　スペクタル後 (ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法) (スペクタル)
１１回　スペクタル後 (ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法) (映像)
１２回　スペクタル後 (ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法) (遠隔視)
１３回　文学テクストへの応用 (W. B. Yeats)
１４回　イメージ形成と国家表象について
１５回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素１００パーセント

イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテクストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代イギリス文学研究　【夜】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を基軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、"inhumanism" を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標：　英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。（ The Ecocriticism Readers　by Cheryll Glotfelty ）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　導入　（自然と文学について）
２回　The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
３回　The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii　精読と解釈【環境文学研究の誕生】
４回　The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx　精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
５回　The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii　精読と解釈【人文学と環境危機】
６回　The Ecocriticism Readers pp. xxii – xxiv　精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
７回　The Ecocriticism Readers pp. xxiv – xxv　精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
８回　伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
９回　ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
１０回　ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
１１回　ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
１２回　ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
１３回　自然と人間のあり方についての議論：　授業を踏まえて（１）【機械文明の問題】
１４回　自然と人間のあり方についての議論：　授業を踏まえて（２）【共生の可能性】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・・・８０％
毎回の授業への参加度など・・・２０％

現代イギリス文学研究　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor　ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

教科書　/Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
Week 5: Research paper literature review
Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
Week 7: Research paper Questions & Variables
Week 8: Research paper Participants & Materials
Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
Week 11: Data analysis & data commentary language focus
Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
Week 13: The evil of Power Point (informational design)
Week 14: Getting published
Week 15: Research proposal or paper presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

Research proposal or paper (100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

英語表現法 【夜】

履修上の注意　/Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

アメリカ文学研究　【夜】

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji　Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
	2単位	2学期	演習	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 Adventures of Huckleberry Finn を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論考する。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

教科書　/Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn　Mark Twain　A Norton Critica Edition　ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

- Huck Finn　Ed. Harold Bloom　Chelsea House Publisher
- Coming to Grip with Huckleberry Finn　Tom Quirk　University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下)　西田実訳　岩波文庫

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の進め方に関するオリエンテーション　Mark Twain に関する概説
2回　南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
3回　1 - 4章　作中のキリスト教の位置づけ
4回　5 - 8章　アメリカ文学における父親のイメージ
5回　9 - 12章　ハックのジムに対する姿勢の本質
6回　13 - 16章　ハックとジムの論争の描写の意味について
7回　17 - 23章　グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
8回　24 - 27章　詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
9回　28 - 31章　メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
10回　32 - 35章　なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
11回　36 - 40章　トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。
12回　41 - 43章　ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
13回　南部の奴隷制度に関する論文の読解
14回　作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
15回　作品に関する論文の読解、全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平素の学習状況…70%　発表…30%

アメリカ文学研究　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代アメリカ文学研究　【夜】

担当者名 /Instructor　アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest "walkers" in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, On The Road, by Jack Kerouac, and The Road, by Cormac McCarthy—who is perhaps America's greatest living author.

教科書　/Textbooks

Cormac McCarthy, The Road, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, On The Road, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1: Introduction to course and expectations
2: Walking, and what it means in context
3: Henry David Thoreau
4: Walt Whitman
5: James Fenimore Cooper
6: John Dos Passos
7: Henry Miller
8: Jack Kerouac
9: John Steinbeck
10: Hunter S. Thompson
11: Bill Bryson
12: Paul Thoreaux
13: Gus Van Sant (director)
14: Cormac McCarthy
15: Final presentation and course review

現代アメリカ文学研究　【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

Requirements: Final Essay: 40%, Four 1-page summaries: 20%, participation: 20%, Presentations: 20%,

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意　/Remarks

This course will be taught in English and all students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not be able to pass the course.

キーワード　/Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor	ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸　尚美 / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

教科書　/Textbooks

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

O Ritchie, W. C. & Bhatia, T. K. (2009). The new handbook of second language acquisition. Bingley: Emerald.
O Gass, S. & Selinker, L. (2001). Second language acquisition: An Introductory Course (2nd ed). Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.
O Hummel, K. M. (2014). Introducing second language acquisition: Perspectives and practice.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Age
Week 3: Vocabulary
Week 4: Input/Output
Week 5: Cognition
Week 6: Developmental Sequences
Week 7: Aptitude
Week 8: Motivation
Week 9: Affect
Week 10: Crosslinguistic influences
Week 11: Teacher development I (motivation)
Week 12: Teacher development II (anxiety)
Week 13: Developmental disorders
Week 14: Second Language Phonology
Week 15: Presentation of research papers

成績評価の方法　/Assessment Method

Research paper, 50%; In-class participation and discussion, 20%; 2 presentations, 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students should do the readings before class. Work on your presentation throughout the semester.

英語教育法研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

second language acquisition, SLA, language, research, English

社会システム総合概論 【夜】

担当者名 /Instructor	大平　剛 / 国際関係学科, 前田　淳 / MAEDA JUN / 経済学科 河嶋　静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科, 鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	社会システムにおける基礎的で共通の知識を修得し、各専攻での専門的な知識や理解の礎を形成できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	△	各専攻での専門的な課題に対して、適切な分析の基礎が修得できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	各専攻で修得する専門的知識を駆使して、社会の様々な課題に主体的に取り組む姿勢を修得できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会システム総合概論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

現代社会が抱える様々な課題に対して、経済学的な観点、社会学的な観点、歴史的な観点、国際関係論的な観点等、multidisciplinaryな視点からアプローチします。受講生は専攻の異なる学生と討議を重ね、異なる学問分野からの知的刺激を受けながら、各テーマを多角的に捉える視点を身に付けます。そのことによって、自己の研究テーマに広がりをもたせることができるようになります。また、前半部分には、研究者として心得ておかなければならないアカデミック・ルールについても学びます。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　図書館ツアー
第3回　アカデミック・ルール (剽窃行為等) について
第4回　テーマ①「ジェンダー」講義第１回 (担当：河嶋静代)
第5回　「ジェンダー」講義第２回 / グループ・ワーク (プレゼンテーション準備)
第6回　グループ・ワーク (プレゼンテーション準備)
第7回　プレゼンテーション
第8回　テーマ②「東西文化の比較」講義第1回 (担当：鄧紅)
第9回　「東西文化の比較」講義第2回 / グループ・ワーク (プレゼンテーション準備)
第10回　グループ・ワーク (プレゼンテーション準備)
第11回　プレゼンテーション
第12回　テーマ③「格差社会」講義第1回 (担当：前田　淳)
第13回　「格差社会」講義第2回 / グループ・ワーク (プレゼンテーション準備)
第14回　グループ・ワーク (プレゼンテーション準備)
第15回　プレゼンテーション

※第4回以降の担当者については、順番が入れ替わる可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート60% (20%×3本)
平常点30%
アカデミックスキルに関する確認小テスト10%
※各テーマが終了するごとに、受講生には2000字程度のレポート課題が課せられます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、グループ・ワークで自分が担当する箇所をしっかりと調べておくことが求められます。また、事後学習としてレポート執筆が義務づけられますので、アカデミック・ルールがきちんと身についているかを確認してください。

社会システム総合概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

レポート課題では、アカデミック・ルールのスキルが身についているかどうかも評価の対象となりますので、学術論文の書き方に関する文献を読むなどしてルールに慣れ親しんでおくことが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

水曜の6限に社会システム修士課程1年の全員が一堂に会する授業です。他専攻の学生とグループを組むこともあり得ますので、積極的にコミュニケーションを取り、グループ・ワークに努めてください。なお、場所は新図書館の「図書館ホール」を予定していますが、数回、別の場所に移動になる場合があります。

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　田島　司 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

社会心理学に関連する研究を進めていくための基礎的な指導を行う。研究テーマを絞り、研究史をまとめる作業を行いつつ、研究方法の予備的検討を行う。

教科書　/Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　オリエンテーション
２～１４回目　発表や討論など
１５回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究内容５０％、研究遂行上の積極性５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、（１）グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、（２）地域レヴェルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。（３）これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○雑誌『月刊　社会教育』国土社
○雑誌『公民館』全国公民館連合会
○雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
以下のテーマに関して２～３回で進めていく。（1：ガイダンス、２：動向検討、３：論点整理）
（１）「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。
（２）子どもから成人にわたる教育の論理（学習過程の独自性）について検討を行う。
（３）生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。
（４）地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。
（５）ＮＰＯやＮＧＯについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。
（６）生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素･･･40%、課題･･･40%、討議･･･20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、配付資料等の検討、論点の整理
事後は、講義内容を踏まえて、資料の再検討、論点に関する自己の見解の明確化

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法の習得するために、テーマに関する文献収集とその検討や研究手法に関する指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし。
資料は初回の授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　研究計画の検討１【研究目的・課題をめぐって】
３回　研究計画の検討２【研究方法をめぐって】
４回　修士論文に関わる文献の購読１【修士論文・課題】
５回　修士論文に関わる文献の購読２【修士論文・方法】
６回　修士論文に関わる文献の購読３【日本教育制度学会・学会誌掲載論文】
７回　修士論文に関わる文献の購読４【日本教育政策学会・学会誌掲載論文】
８回　修士論文に関わる文献の購読５【日本教育経営学会・学会誌掲載論文】
９回　修士論文に関わる文献の購読６【日本教育法学会・学会誌掲載論文】
１０回　修士論文に関わる文献の購読７【日本教育社会学会・学会誌掲載論文】
１１回　研究方法１【フィールドワーク・学校】
１２回　研究方法２【フィールドワーク・学校外教育】
１３回　研究計画の検討３【先行研究の検討（研究目的・課題をめぐって）】
１４回　研究計画の検討４【先行研究の検討（研究方法をめぐって）】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度…40%　　発表報告…60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料は事前によく読んでおくこと。
発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文作成のための基礎力を身につけることを目的とする。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　研究テーマの設定と討論①
第３回　研究テーマの設定と討論②
第４回　研究テーマの設定と討論③
第５回　研究テーマの設定と討論④
第６回　関連資料の講読と討論①
第７回　関連資料の講読と討論②
第８回　関連資料の講読と討論③
第９回　関連資料の講読と討論④
第１０回　関連資料の講読と討論⑤
第１１回　関連資料の講読と討論⑥
第１２回　関連資料の講読と討論⑦
第１３回　関連資料の講読と討論⑧
第１４回　関連資料の講読と討論⑨
第１５回　関連資料の講読と討論⑩

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での発表・討論・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、発表者は自分の修士論文に関する資料をレジュメ形式で作成する。
事後学習として、レジュメに目を通しながら理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジュメを作成し、授業終了後はレジュメ等に目を通しながら理解を深めること。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会問題としての生活問題に関する理論を基礎にして、対象者を権利の主体として位置づけるための社会福祉研究のあり方について、文献研究を通して深めていく。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　問題意識に関する討論
３回　講読文献の決定と討論
４回　文献講読と討論
５回　文献講読と討論
６回　文献講読と討論
７回　文献講読と討論
８回　問題意識を深めるための中間討論
９回　文献講読と討論
１０回　文献講読と討論
１１回　文献講読と討論
１２回　文献講読と討論
１３回　文献講読と討論
１４回　文献講読と討論
１５回　まとめの討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては社会福祉の基本的理解を進めてほしいので、授業で紹介する文献を読んでおくこと。その際には社会福祉の専門用語について理解を深めること。事後学習としては、興味関心のある社会福祉問題について資料を収集し、問題関心を広げてほしい。

履修上の注意 /Remarks

指定するテキストの中には、すでに絶版となっている物も含まれているため、文献探索の労をいとわない様にしてほしい。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活問題、社会問題、主体形成

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での２年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。
本年度に関しては、被虐待状況に置かれた子どもの抱える心理的・精神医学的問題、あるいは発達障害の子どもへの理解と援助の問題を中心に検討する。
なお、参加者の希望をきいて、それを授業内容に組み込んでいく予定である。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　参加者の問題意識の交流
３回　研究計画の検討
４回　文献購読　第１章
５回　文献購読　第２章
６回　文献購読　第３章
７回　文献購読　第４章
８回　文献購読　第５章
９回　文献購読　第６章
10回　参加者の研究計画の再検討
11回　事例検討　その１
12回　事例検討　その２
13回　フィールドワーク　その１
14回　フィールドワーク　その２
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点　７０％　　期末レポート　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献については必ず事前に読み込んでおくこと

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

２年間の研究活動を見通して、問題意識をしっかりもって参加してほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究計画、研究方法

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　深谷　裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究テーマ・研究課題の設定方法、課題に応じた資料の収集方法や、調査方法等の論文作成に必要な知識について学び、課題の明確化と研究への着手を進める。

教科書 /Textbooks

授業の中で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　論文作成にあたって（概要説明）
第２回　問題意識の整理
第３回　研究方法１（研究の種類）
第４回　研究方法２（研究の進め方）
第５回　研究計画書の書き方
第６〜１０回　研究計画書の発表（第１回目）
第１１〜１４回　研究計画書の修正（第２回目）
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と授業への積極的関与により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマと研究計画について必ず整理してくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この科目は、研究と修士論文の作成のための基礎的な知見と研究方法を修得することを目的とします。
研究テーマに関する文献・資料の収集を行いながら、先行研究と研究の方法論を学び，研究を独自で展開するために必要な能力を身につけます。同時に、論文執筆に必要なスキルを高めます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。
人間関係に関わる諸課題について調査できる。
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回～第15回　論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的に伝えられる文章を準備をしてください。授業後は、指摘内容を整理し、次回の授業に反映できるようにノートとして保存してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、自らの研究課題に関連する論文（レポート）の作成に向けて、以下の準備作業を行う。
（１）研究テーマ・問い、論証戦略の確定
（２）調査方法の検討
（３）自らの研究テーマ・問いについての既存の研究の整理
（４）調査法の習得

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　研究テーマ・問いの確認
第３回　既存の研究の探索
第４回　既存の研究の検討
第５回　文献リストの作成
第６回　基本仮説・作業仮説の検討
第７回　論証戦略の検討
第８回　調査法の整理
第９回　調査法の検討
第10回　文献レビュー（テキスト批評）1
第11回　文献レビュー（テキスト批評）2
第12回　文献レビュー（テキスト批評）3
第13回　文献レビュー（テキスト批評）4
第14回　調査の計画
第15回　研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 20%　レポート・・・ 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に指定した文献を読んでおくこと。
報告者はレジュメを用意すること。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会･環境･福祉･教育･心埋･言語･宗教･芸術などすべてここに含まれる) のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。
ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。
人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

第１回オリエンテーション：研究計画
第２回調査方法検討
第３回周辺領域の文献収集
第４回文献リストの作成
第５回　先行研究に関する批判
第６回先行研究に関する総論
第７回調査計画
第８回調査計画の再検討
第９回仮説作成
第10回　仮説作成の再検討
第11回予備調査
第12回予備調査の再検討
第13回先行研究との関連性
第14回本調査への準備
第15回　まとめ
予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション　…　５０％
各自の調査研究　…　５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意　/Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。

キーワード　/Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

教科書　/Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　研究の分担発表、討論
３回　研究の分担発表、討論
４回　研究の分担発表、討論
５回　研究の分担発表、討論
６回　論文講読の分担発表、討論
７回　論文講読の分担発表、討論
８回　論文講読の分担発表、討論
９回　論文講読の分担発表、討論
１０回　研究の分担発表、討論
１１回　研究の分担発表、討論
１２回　研究の分担発表、討論
１３回　研究の分担発表、討論
１４回　研究の分担発表、討論
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (討論への参加状況含む) …40%　　事前調査と発表内容…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

事前に、発表までの作業計画をたてて準備し、発表資料を作成すること。
各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。
修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、２年次からの論文作成の実践に備えます。
様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標：　多くの作品を読破することで、自分の扱う作品やテーマを絞り込み、それらに対する批評方法を意識化できるようになること。
①英米語圏の文学の知識を応用し、論文作成の基本能力を養うこと。
②英米語圏の文学作品や批評理論の資料を分析できる技能を修得すること。
③英米語圏の文学の課題を主体的に分析できる態度を養うこと。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　導入。担当学生と相談の上、１学期の予定表を作成します。
第２回　テーマに沿って課題１の発表。コメント。課題２の確認。
第３回　前回のコメントを踏まえた調整。課題２の発表。コメント。課題３の確認。
第４回　前回のコメントを踏まえた調整。課題３の発表。コメント。課題４の確認。
第５回　前回のコメントを踏まえた調整。課題４の発表。コメント。課題５の確認。
第６回　前回のコメントを踏まえた調整。課題５の発表。コメント。課題６の確認。
第７回　前回のコメントを踏まえた調整。課題６の発表。コメント。課題７の確認。
第８回　前回のコメントを踏まえた調整。課題７の発表。コメント。課題８の確認。
第９回　前回のコメントを踏まえた調整。課題８の発表。コメント。課題９の確認。
第１０回　前回のコメントを踏まえた調整。課題９の発表。コメント。課題１０の確認。
第１１回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１０の発表。コメント。課題１１の確認。
第１２回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１１の発表。コメント。課題１２の確認。
第１３回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１２の発表。コメント。課題１３の確認。
第１４回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１３の発表。コメント。
第１５回　総括。修士論文の題目を決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書…８０％　授業への参加度など…２０％

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回出す課題をしっかりとこなしていってください。また、授業で学習したことは常に念頭に置きつつ、修論作成に活かしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000〜1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎１）
第２回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎２）
第３回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎３）
第４回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎４）
第５回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎５）
第６回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開１）
第７回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開２）
第８回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開３）
第９回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開４）
第１０回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開５）
第１１回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用１）
第１２回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用２）
第１３回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用３）
第１４回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用４）
第１５回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用５）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前　1000〜1200字程度のエッセイを用意する。
事後　指摘された内容に従い、エッセイを書き直す。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

課 題 を 準 備 し て く る こ と 。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文学作品の読解、批評論文の読解を通して、アメリカ文学を分析する際の手法を理解し、身に付けることを目的とする。
授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定するが、本年度はジョン・スタインベックの小説の精読を行う予定である。また、修士論文の執筆に必要な資料の収集、読解、活用に関する指導と、修士論文の構想の作成に関する指導も行なう。

教科書 /Textbooks

受講生の研究の実状を踏まえた上で、和文、英文の各種資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の研究の実状を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、授業のテーマと方向性に関する詳細の決定
２回　最初に決めたテーマと関連した資料収集：図書館
３回　最初に決めたテーマと関連した資料収集：ネット活用
４回　最初に決めたテーマと関連した資料収集：他大学蔵書
５回　最初に決めたテーマと関連した作品の読解
６回　最初に決めたテーマと関連した作品の分析
７回　最初に決めたテーマと関連した日本語資料の読解
８回　最初に決めたテーマと関連した日本語資料の分析
９回　最初に決めたテーマと関連した英語資料の精読
１０回　最初に決めたテーマと関連した英語資料の読解
１１回　最初に決めたテーマと関連した英語資料の分析
１２回　修論のテーマに関する指導
１３回　修論の構想に関する指導：章構成について
１４回　修論の構想に関する指導：各章の内容について
１５回　レポートの提出・講評

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%　平素の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

夏休み中に修士論文の構想を確定し、夏休み明けの最初の授業時に発表する必要がある。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

研究課題に取り組むための準備として十分な文献講読を行い、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等の基礎を指導する。

教科書　/Textbooks

未定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　研究テーマについて(1)
３回　研究テーマについて(2)
４回　文献講読とディスカッション(1)
５回　文献講読とディスカッション(2)
６回　文献講読とディスカッション(3)
７回　文献講読とディスカッション(4)
８回　文献講読とディスカッション(5)
９回　文献講読とディスカッション(6)
１０回　文献講読とディスカッション(7)
１１回　文献講読とディスカッション(8)
１２回　文献講読とディスカッション(9)
１３回　学生による研究報告(1)
１４回　学生による研究報告(2)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表・平常の学習状況…50%、レポート…50%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、これから大学院での研究活動を始めるにあたって必要な基礎力を身に着けるためのお手伝いをしたいと思います。あくまでも研究の主体は受講生ですから、こちらから何かを教えるというのではなく、主体的に取り組んでこられたことを確認し、発展させるための手助けをしたいと思います。これから2年間しっかりがんばりましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回　研究方針の確認(1)
第02回　必要な文献の購読と吟味(1)
第03回　必要な文献の購読と吟味(2)
第04回　必要な文献の購読と吟味(3)
第05回　必要な文献の購読と吟味(4)
第06回　必要な文献の購読と吟味(5)
第07回　必要な文献の購読と吟味(6)
第08回　必要な文献の購読と吟味(7)
第09回　学期末小論文の作成準備協議(1)
第10回　学期末小論文の作成準備協議(2)
第11回　学期末小論文の作成準備協議(3)
第12回　学期末小論文の作成準備協議(4)
第13回　学期末小論文の作成準備協議(5)
第14回　学期末小論文の作成準備協議(6)
第15回　学期末小論文の作成準備協議(7)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、学期末小論文によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究ですから、1週間ごとの進捗状況を授業時に報告していただきます。それをもとに協議し、そこで課題を確認し、次の授業までの間にリサーチしていただき、それをさらに次回の授業で報告してもらう、という形態で行なっていきますので、事前、事後ともにしっかりと研究活動を続けていって下さい。

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

加油！

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

論文作成の基本知識と技巧を習得する。

教科書　/Textbooks

授業ごとにプリントを配る。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

鄧紅著『王充新八論』（中国社会科学出版社2003年）○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　先行研究の選定
第二回　先行研究の引用
第三回　学術論文の章節
第四回　学術論文の構造
第五回　学術論文の言語表現
第六回　論文の標点
第七回　論文のバランス
第八回　注釈の作成
第九回　参考資料の調査
第十回　資料の調べ方
第11回　図書館の利用法
第12回　インターネットと論文作成
第13回　論文講読（１）
第14回　論文講読（２）
第15回　論文試作、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業準備４０％、レポートの完成度６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教員から指定された学術図書をよく読むこと。

履修上の注意　/Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード　/Keywords
儒家、漢代、王充、学術書

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学ぶことを目標とする。扱う作品は、漢詩、漢文、近世白話小説、古小説など中国古典文学の範疇に属するものとする。また研究論文を読むこともある。

教科書　/Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者作成の資料。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　作品や論文の精読(1)
第2回　作品や論文の精読(2)
第3回　作品や論文の精読(3)
第4回　作品や論文の精読(4)
第5回　作品や論文の精読(5)
第6回　作品や論文の精読(6)
第7回　作品や論文の精読(7)
第8回　作品や論文の精読(8)
第9回　作品や論文の精読(9)
第10回　作品や論文の精読(10)
第11回　作品や論文の精読(11)
第12回　作品や論文の精読(12)
第13回　作品や論文の精読(13)
第14回　作品や論文の精読(14)
第15回　作品や論文の精読(15)
※具体的な内容は、受講者と相談のうえ決める。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

資料の作成。
資料の訂正や考え直し。
参考資料などを用いて中国古典文学に関して理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国古典文学

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国語教育に関する文献を講読し、主に日本における中国語教育の諸問題から興味のある課題を見出す。同時に、外国語教育研究における資料収集・データ分析・論文作成などの基本を身に付ける。

教科書　/Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

史有为　著　『寻路汉语——语言习得与对外汉语教学研究』 商务印书馆、2013年
胡玉華　著　『中国語教育とコミュニケーション能力の育成−「わかる」中国語から「できる」中国語へ』
東方書店、　2009年
竹内理・水本篤　編著　『外国語教育研究ハンドブック (改訂版) 』　松柏社、2014
黄南松・胡文泽・何宝璋著　『对外汉语教学语法疑难解析』 北京大学出版社、 2015年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス + 日本における中国語教育の現状
第２回 ~ ５回　文献講読 + 資料収集方法
第６ ~ １０回　文献講読 + データ分析方法
第１１ ~ １４回　文献講読 + 論文作成方法
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…50%
課題の完成度.....50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

必ず予習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中の積極性を高く評価する。

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本宗教史の領域の中から重要なテーマに関する代表的研究論文を読み、その内容について報告してもらう。
さらに報告内容について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業の進め方
２回　日本宗教史研究の課題（概説）
３回　報告と議論
４回　報告と議論
５回　報告と議論
６回　報告と議論
７回　報告と議論
８回　報告と議論
９回　報告と議論
１０回　報告と議論
１１回　報告と議論
１２回　報告と議論
１３回　報告と議論
１４回　報告と議論
１５回　報告と議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容５０％　授業への取り組み５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告にあたっては十分な準備をして臨むこと。
全員指定された論文を事前に読んで疑問点等を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者数が少ないので、毎回相当な量の論文を読み報告する必要がありますが、それが研究の基礎力を付けることになります。

キーワード　/Keywords

日本宗教史

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では、大学院生活の最初の段階として必要な研究への取り組みの基礎固めをおこなう。
受講者と相談のうえ、文献収集とその精査を中心におこなっていく。最終的な目標は修士論文のテーマの可能性をできるだけ広い視野のもとで明確にしていくことである。

教科書　/Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回～第４回　研究計画の作成と基本文献の収集
第５回～第７回　基本文献の講読と精査
第８回～第１０回　関連文献の講読と精査
第１１回～第１３回　テーマ構想の可能性についての検討
第１４回～第１５回　授業の総括と今後の研究計画の構築

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点５０％　レポート５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：テキスト講読の予習
事後：テキスト講読の復習

履修上の注意　/Remarks

授業で出された課題について、情報収集を綿密におこなうことが求められる。授業外時間での情報収集能力の向上を意識してほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　修士論文計画に関する検討
2回～14回　院生による口頭発表及び教員による指導
15回　今後の研究計画に関する検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30%　小テスト：0%　期末試験：0%　課題：45%　態度：25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：論文など、配布リーディングの専門用語の意味を確認すること。
事後学習：内容に関する質問があるかどうかを把握すること。

履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、認知言語学、認知文学

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will be an introduction to comparative cultural analysis. We will cover different modes of analysis and interpretation for research. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.The goal is the acquisition of research concepts and fundamentals for later application. Students will be encouraged to focus on their chosen areas of research for presentation and discussion.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回 Orientation and Introduction
2 回 Research Fundamentals A
3 回 Research Fundamentals B
4 回 Research Fundamentals C
5 回 Introduction of research student research topics and materials.
6 回 Discussions and Presentations A
7 回 Discussions and Presentations B
8 回 Discussions and Presentations C
9 回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
１０回 Student Discussion and Presentation A
１１回 Student Discussion and Presentation B
１２回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
１３回 Student-led Discussion and Presentation A
１４回 Student-led Discussion and Presentation B
１５回 Student-led Discussion and Presentation C

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、どのような課題について論文を書くか、また、その受講生のこれまでの学習・研究状況に応じて、必要な講義と文献講読を行う。同時に、言語学の分野における論文執筆作法の基礎を身につける。言語学の下位分野1領域の興味のある課題について、小さな論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　受講生との相談
第２回　言語学の対象と目的【規範文法・記述文法・理論言語学】
第３回　音声学【調音音声学・音響音声学・聴音音声学】
第４回　音韻論【文節音素・超分節音素・音節構造】
第５回　形態論1【屈折形態論・形態音素規則】
第６回　形態論2【派生形態論・複合語形成】
第７回　統語論1【項構造・句構造】
第８回　統語論2【原則と媒介変項の理論】
第９回　意味論1【真理条件・含意・前提】
第10回　意味論2【照応・作用域】
第11回　語用論1【発話行為論】
第12回　語用論2【グライス理論・関連性理論・ポライトネス理論】
第13回　言語学上の問題の発見と分析方法【仮説演繹体系】
第14回　学生による発表
第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への準備状況および参加度…30%　課題…30%　レポート…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
事後学習：課題の提出

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講生と相談のうえ、言語学の下位分野の中から、興味のある課題を選び、論文を作成する。受講生が選んだテーマに応じて、必要な文献講読を行う。到達目標は以下の通りである。

(1)文献購読を通して、言語学に関する知識を身につける。
(2) 言語学に関する論文作成の基礎を身につける。

教科書　/Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　受講生と相談
第2回 - 第10回　文献講読
第11回 - 第14回　受講生による発表
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…50%　　レポート…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の購読

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中華人民共和国の共産党一党支配体制と市場経済化との関係について検討し、改革開放政策に対する評価について議論する。中国研究の資料･文献について収集･ 読解能力を養う。詳細は受講生の関心に応じて決定する。学期末にレポートを課す。

教科書 /Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

授業計画･ 内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで進める。
１回　イントロダクション
２回～１４回　指定した文献の輪読･ 報告･ 議論。
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言･ 報告…60%　　レポート…40%

事前･ 事後学習の内容 /Preparation and Review

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（３点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。
中国･ 台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ，それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的･ 実証的な分析を行い，報告･ ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画･ 内容 /Class schedules and Contents

1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
3回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
4回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
5回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
6回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
7回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
8回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
9回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
10回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
11回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
12回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
13回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
14回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
15回　まとめ
＊内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告･ ･ ･ 60%　　ディスカッションへの参加状況･ ･ ･ 40%

事前･ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。
事後学習：文献（論文）の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

（主にミクロ）経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とする。そのため学部レベルの当該科目の知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献と原典・古典を解読する。受講生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。

教科書 /Textbooks

授業中、関連文献と原典・古典を紹介し選ぶ。また、受講生各自の関心分野に関する参考文献について、随時相談に応じる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　授業の概要、関連文献や原典・古典の選定
第2～15回　受講生の報告、討論
　　論文作成方法の学習、論文作成の相談

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、討論などの学習状況（50%）、レポートや論文の提出（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

関連文献や原典・古典の予習、レジュメの作成、討論の準備。事後の復習と修正。

履修上の注意 /Remarks

東アジア国際関係史・比較思想の関連文献を読み漁ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自主学習と論文作成に励むこと。

キーワード /Keywords

アジアから考える視点、文明論的な視点、東アジアの比較思想史

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア経済に関連したテーマで修士論文を作成することを前提にして、東アジア経済の基本的文献とともに研究を進める上での方法論についても文献を輪読していき、論文執筆に求められる知識と研究能力を身につけていく。

教科書 /Textbooks

研究テーマに応じて相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回～第14回　レジュメによる報告とディスカッション
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート　40%　　報告　60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回で取り上げる項目について指定した文献はもちろん、関連する文献も自分で調べて読みこなしておく。事後学習としては授業で出されたコメントを参考にして論文執筆に役立てる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文を書くための基礎作業を行う

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第5回　研究史のまとめ方
第6回～第15回　史料の探し方・読み方

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (4000字)・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に史料を読んでくること。事後に史料をワープロに入力しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理と、「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に対して個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回～14回　修士論文の経過報告
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み　…　50　%　レポート　…　50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文執筆が順調に進むよう、計画的に作業を進めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自が研究対象とする地域と課題を設定し、基本的な文献を収集・読破する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回：研究する上での基本的姿勢 (講義)
第 3 回：課題設定における諸注意 (講義)
第4回 ~ 第14回：各自の報告・議論
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生の必要に応じて開講する。

戦後東南アジアの国際関係、政治や社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生による報告と議論を行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的・初歩的知識の獲得】を目指す。
同時に、修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法（文献検索や参考文献の提示の仕方などの細かい点も含めて）を教示し、論文もしくは課題研究を完成させることを目指す。
また何度か短い課題レポートを科し、添削をして返却する。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、以下を考えている。
（１）清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
（２）岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
（３）Amitav Acharya, Constructing a Security Community in Southeast Asia, Routledge, 2001.
（４）服部民夫・船津鶴代・鳥居高編『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。
○大阪市立大学経済研究所監修『アジアの大都市シリーズ』日本評論社、1998年～2000年。
　バンコク編、ジャカルタ編、クアラルンプル・シンガポール編、マニラ編の4冊がある。
○Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

その他、受講生の問題関心に応じて、適宜指示する。本学図書館の「東南アジアを知るコーナー」の図書も参考にして欲しい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　テキストとスケジュールの相談、説明
第2～4回　『東南アジア現代政治入門』を3回に分けて輪読、議論する
第5～7回　『アジア政治とは何か』を3回に分けて輪読、議論する
第8～10回　Constructing a Security Community in Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
第11～13回　『アジア中間層の生成と特質』を3回に分けて輪読、議論する
第14回　これまでの議論を踏まえて各人の課題レポートを決め、その内容を報告する
第15回　まとめの議論

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート　…　40%　　報告や議論　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に指定した文献を読むこと。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード　/Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国を中心とした社会の諸問題について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業の進め方などについての話し合い
２回　論文の書き方、資料収集方法などについての確認
３回　受講者による発表・討議
４回　文献講読と解説
５回　文献講読と解説
６回　受講者による発表・討議
７回　文献講読と解説
８回　文献講読と解説
９回　受講者による発表・討議
１０回　文献講読と解説
１１回　文献講読と解説
１２回　受講者による発表・討議
１３回　文献講読と解説
１４回　文献講読と解説
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度…３０％　発表…７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて資料収集を行い、参考文献を読む。事後は指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。

履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジュメを作って発表にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　文献紹介
第3回　文献の背景説明
第4-8回　一冊目の輪読
第9回　文献の背景説明
第10-14回　二冊目の輪読
第15回　講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 … ７０ ％　レポート … ３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会概論とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　イントロダクション。
第２～14回　修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論
第15回　　まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…30%　　討論への参加度…40%　　レポート類…30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆に向けての基礎的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 はじめに
２回 修論執筆に向けた基礎的な指導(1)
３回 修論執筆に向けた基礎的な指導(2)
４回 修論執筆に向けた基礎的な指導(3)
５回 修論執筆に向けた基礎的な指導(4)
６回 修論執筆に向けた基礎的な指導(5)
７回 修論執筆に向けた基礎的な指導(6)
８回 修論執筆に向けた基礎的な指導(7)
９回 修論執筆に向けた基礎的な指導(8)
１０回 修論執筆に向けた基礎的な指導(9)
１１回 修論執筆に向けた基礎的な指導(10)
１２回 修論執筆に向けた基礎的な指導(11)
１３回 修論執筆に向けた基礎的な指導(12)
１４回 修論執筆に向けた基礎的な指導(13)
１５回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に授業準備を十分に整え、事後にその回の課題を完了させておくこと。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　魏　芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義は、大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生の仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。

到達目標は以下の通りである。
①国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。
②現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。
③国際経済の数理モデルを理解できる。

教科書　/Textbooks

中西訓嗣・広瀬憲三・川井一宏著『国際経済理論』（有斐閣ブックス）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）
伊藤元重・大山道広著『国際貿易』（岩波書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　リカードモデルI【比較優位】【貿易パターン】
３回　リカードモデルII【2国多財モデル】【相対賃金】【技術進歩】
４回　特殊的要素モデルI【特殊的要素】【生産構造】
５回　特殊的要素モデルII【比較静学】
６回　ヘクシャー・オリーンモデルI【ヘクシャー・オリーン定理】【要素価格均等化定理】
７回　ヘクシャー・オリーンモデルII【ストルパー・サムエルソン定理】【リプチンスキー定理】
８回　貿易均衡【交易条件】【オファー・カーブ】
９回　貿易政策論の基礎I【小国】【ラーナーの対称性定理】
１０回　貿易政策論の基礎II【大国】【関税と数量規制政策の同値性】
１１回　海外直接投資I【国際資本移動】【マクドゥーガル分析】
１２回　海外直接投資II【多国籍企業】【取引コスト】
１３回　戦略的貿易政策I【国際寡占】【戦略的行動】
１４回　戦略的貿易政策II【輸入関税政策】【輸出補助金政策】
１５回　まとめ

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み　30 ％　　課題提出（数回）　70 ％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分など経済数学の知識が必要。
毎回授業後の復習も必須。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際貿易、直接投資、経済統合

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この演習では、修士課程の1年生が修士論文を作成する上で必要となるスキルを身に付けることを目指します。論文とはいかなるものであるかをまずは学び、論文作成上のアカデミック･ ルールを身に付けます。次いで、実際に学術論文をもとに、論文の内容把握とともに、論理展開の方法について学習します。

教科書　/Textbooks

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

前半部分は上記テキストを用い、後半部分では学術論文のコピーを教材として使用します。
第1回　イントロダクション
第2回　テキスト第1章、第2章
第3回　テキスト第3章、第5章
第4回　テキスト第7章
第5回　論文執筆のアカデミック･ ルール
第6回　学術論文の解剖①（１）（日本語論文）（内容把握）
第7回　学術論文の解剖①（２）（日本語論文）（論理展開の分析）
第8回　学術論文の解剖②（１）（日本語論文）（内容把握）
第9回　学術論文の解剖②（２）（日本語論文）（論理展開の分析）
第10回　学術論文の解剖③（１）（日本語論文）（内容把握）
第11回　学術論文の解剖③（２）（日本語論文）（論理展開の分析）
第12回　学術論文の解剖④（１）（英語論文）（内容把握）
第13回　学術論文の解剖④（２）（英語論文）（論理展開の分析）
第14回　学術論文の解剖⑤（１）（英語論文）（内容把握）
第15回　学術論文の解剖⑤（２）（英語論文）（論理展開の分析）

成績評価の方法　/Assessment Method

報告･ ･ ･ 70%　日常の授業への取り組み･ ･ ･ 30%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、配布された資料に目を通してから授業に臨んでください。事後学習としては、学んだ内容を実際の論文等で確認する作業をしてください。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

国際機構を主題とする修士論文を作成するために、基礎的な文献や一次資料を収集しつつ、これらを整理するための技能を養う。

教科書　/Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回-第14回　報告と議論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告30%、参加70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書と参考書を事前に講読し、報告できるように準備する必要がある。復習も求める。
くわしくは初回の授業で指示する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

During the foundational course of the first year of graduate study, we will focus on your own research interests. This class will be devoted to helping you explore your own research interests and in learning to become more proficient in reading academic articles and critically assessing them. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Research schedules
Week 3: Dr. Larson-Hall's research presentation
Week 4: Student-led research presentation
Week 5: Student-led research presentation
Week 6: Thesis-writing help
Week 7: Dr. Larson-Hall's research presentation
Week 8: Student-led research presentation
Week 9: Student-led research presentation
Week 10: Thesis-writing help
Week 11: Dr. Larson-Hall's research presentation
Week 12: Student-led research presentation
Week 13: Student-led research presentation
Week 14: Thesis-writing help
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

A 3000-word paper (50%); Presentations (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation necessary for this course; You will learn more about teaching and second language acquisition after this course.

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講生と相談の上、言語学の下位分野の中から興味のある分野を選び、研究課題に取り組むための準備として十分な文献購読を行う。また、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識、及び文献や資料の収集・調査方法の基礎を身につける。

教科書　/Textbooks

授業時に指定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回 - 第3回　研究テーマについて
第4回 - 第12回　文献購読とディスカッション
第13回 - 第14回　学生による研究報告
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度：50%
レポート：50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：分権の予習や必要な資料の収集
事後学習：授業で扱った内容の整理、及び関連文献の講読

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　田島　司 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや，採用する研究手法等によって進め方は異なるために，共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には，研究テーマの絞り込み，関連する先行研究の渉猟とまとめ，問題の明確化，実験・調査の計画と実施，データの分析，論文の執筆，という流れであり，これらを受講者が互いに発表，議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

教科書　/Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回～１５回　受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法　/Assessment Method

研究内容　…　50　%　研究への積極的取り組み等　…　50　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　恒吉　紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、（１）グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、（２）地域レヴェルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。（３）これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○雑誌『月刊　社会教育』国土社
○雑誌『公民館』全国公民館連合会
○雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
以下のテーマに関して２～３回で進めていく。（１：ガイダンス、２：動向検討、３：論点整理）
（１）「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。
（２）子どもから成人にわたる教育の論理（学習過程の独自性）について検討を行う。
（３）生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。
（４）地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。
（５）ＮＰＯやＮＧＯについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。
（６）生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素･･･40%、課題･･･40%、討議･･･20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前は、配付資料等の検討、論点の整理、論文等の収集
事後は、講義内容を踏まえて、既存研究の再検討、多角的な視点からの検討

履修上の注意　/Remarks

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　児玉　弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

概要
特別研究基礎の成果及び出てきた課題をふまえ、研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法を習得する。

目標
①研究に必要な知識を習得する。
②より効果的な研究法を選択、吟味し、実践する。

教科書　/Textbooks

なし。
資料は初回の授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　文献の検討１【研究論文・課題】
３回　文献の検討２【研究論文・方法】
４回　文献の検討３【日本子ども社会学会・学会誌掲載論文】
５回　文献の検討４【日本教育学会・学会誌掲載論文】
６回　文献の講読５【日本比較教育学会・学会誌掲載論文】
７回　文献の講読６【異文化間教育学会・学会誌掲載論文】
８回　中間まとめ
９回　研究方法１【フィールドワーク・学校】
１０回　研究方法２【フィールドワーク・学校外教育】
１１回　研究方法３【面接・質問事項の精査】
１２回　研究方法４【面接・聞き取りの手法】
１３回　研究計画の検討１【先行研究の検討（研究目的・課題）】
１４回　研究計画の検討２【先行研究の検討（研究方法）】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

参加度　…50％
発表報告…50％

特別研究１　【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布資料は事前によく読んでおくこと。
発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　田中　信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

臨床心理学領域の修士論文を書くのに必要とされる知識・理論の習得や、問題の所在を明確化して研究デザインを導き出すための力を身につけることを目的とする。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　文献講読と討論①
第3回　文献講読と討論②
第4回　文献講読と討論③
第5回　文献講読と討論④
第６回　文献講読と討論⑤
第７回　文献講読と討論⑥
第８回　文献講読と討論⑦
第９回　文献講読と討論⑧
第１０回　文献講読と討論⑨
第１１回　研究デザインと討論①
第１２回　研究デザインと討論②
第１３回　研究デザインと討論③
第１４回　研究デザインと討論④
第１５回　研究デザインと討論⑤

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、発表者は自分の修士論文に関する資料をレジュメ形式で作成する。
事後学習として、レジュメに目を通しながら理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジュメを作成し、授業終了後はレジュメ等に目を通しながら理解を深めること。

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　小賀　久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべき課題を吟味する。

教科書　/Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1 ~ 5 回　社会福祉研究の動向に関する討論
第 6 ~ 10回　研究方法に関する検討
第11、12回　研究課題に関する報告と討論
第13、15回　研究論文の意味と位置

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては研究方法に関する文献を読むこと。事後学習としては各回の授業内容について不明な点を整理・調査し、次の授業につなげること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　楠　凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、修士課程での２年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。
とりわけ本年度は被虐待状況に置かれてきた子ども・青年の自立のプロセスとそこでの支援の問題について、フィールドワークの取り組みも行ないつつ検討していきたい。

教科書　/Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　参加者の問題意識の交流
３回　研究計画の検討
４回　文献購読　第１章
５回　文献購読　第２章
６回　文献購読　第３章
７回　文献購読　第４章
８回　文献購読　第５章
９回　文献購読　第６章
10回　参加者の研究計画の再検討
11回　事例検討　その１
12回　事例検討　その２
13回　事例検討　その３
14回　事例検討　その４
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点７０％、期末レポート　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講読文献については必ず事前に読み込み、疑問点などを明確にしておくこと

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究活動の基礎

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　深谷　裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

研究課題の整理と、研究方法の精緻化を進める。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　特別研究の進め方（概要説明）
第２〜６回　研究計画の修正と進捗報告
第７〜１４回　関連文献・関連論文の報告
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究報告により評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず報告の準備をしてくること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　野井　英明 / Hideaki　Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この科目は、特別研究基礎から引き続いて、研究と修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とします。
研究テーマに関する文献・資料の収集を行いながら、先行研究と研究の方法論を学び、研究を独自で展開するために必要な能力を身につけます。同時に、論文執筆に必要なスキルを高めます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。
人間関係に関わる諸課題について調査できる。
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回～第15回　論文執筆指導

成績評価の方法　/Assessment Method

自主的な研究活動　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

十分な資料の収集と考察を行い、他者に的確に伝わる文章を作成してください。授業後は、指摘した内容を理解して整理し、今後の研究活動に生かせるようノートとして保存しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　稲月　正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講者の問題関心にそった論文（レポート）の作成をめざす。
そのため、以下のことを行う。
（１）自らの研究関心に関連する文献のレビュー（テキスト批評）
（２）調査法の習得
（３）論文（レポート）の執筆

教科書　/Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　問いと論証戦略の確認
第３回　既存の研究の整理（文献リストの作成）
第４回　文献のレビュー（テキスト批評）１
第５回　文献のレビュー（テキスト批評）２
第６回　調査法の検討
第７回　文献のレビュー（テキスト批評）３
第８回　文献のレビュー（テキスト批評）４
第９回　文献のレビュー（テキスト批評）５
第10回　研究報告１
第11回　文献のレビュー（テキスト批評）６
第12回　文献のレビュー（テキスト批評）７
第13回　文献のレビュー（テキスト批評）８
第14回　文献のレビュー（テキスト批評）９
第15回　研究報告２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 20%　レポート・・・ 80%

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定した文献・論文を読んでくること。
報告者はレジュメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会･環境･福祉･教育･心理･言語･宗教･芸術などすべてここに含まれる) のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。
ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。
人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

第１回オリエンテーション：研究計画
第２回本調査データの検討
第３回周辺領域の文献
第４回文献リストの作成
第５回　先行研究に関する批判
第６回先行研究に関する総論
第７回補足調査計画
第８回補足調査計画の再検討
第９回中間発表準備および章立ての作成
第10回　章立ての再検討
第11回論文指導
第12回論文指導
第13回論文指導
第14回論文指導
第15回　まとめ
予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究１　【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション　…　５０％
各自の調査研究　…　５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意　/Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。

キーワード　/Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　研究の分担発表、討論
３回　研究の分担発表、討論
４回　研究の分担発表、討論
５回　研究の分担発表、討論
６回　論文講読の分担発表、討論
７回　論文講読の分担発表、討論
８回　論文講読の分担発表、討論
９回　論文講読の分担発表、討論
１０回　研究の分担発表、討論
１１回　研究の分担発表、討論
１２回　研究の分担発表、討論
１３回　研究の分担発表、討論
１４回　研究の分担発表、討論
１５回　修士論文発表会への参加

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（討論への参加状況含む）…40%　事前調査と発表内容…60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に、発表までの作業計画をたてて準備し、発表資料を作成すること。
各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること。

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。
修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、２年次からの論文作成の実践に備えます。
様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標：　多くの作品の中から自分の扱う作品やテーマを決定し、それらに対して批評方法を実践し、方向性を見出せるようになること。
①英米語圏の文学の知識を応用し、論文完成の基本能力を養うこと。
②英米語圏の文学や批評理論の資料を分析し、研究に応用できるようになること。
③英米語圏の文学に関する課題を主体的に考える態度を養うこと。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

特別研究１　【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　導入。担当学生と相談の上、２学期の予定表を作成します。
第２回　１学期に決定した修士論文の題目に沿って課題１の発表。コメント。課題２の確認。
第３回　前回のコメントを踏まえた調整。課題２の発表。コメント。課題３の確認。
第４回　前回のコメントを踏まえた調整。課題３の発表。コメント。課題４の確認。
第５回　前回のコメントを踏まえた調整。課題４の発表。コメント。課題５の確認。
第６回　前回のコメントを踏まえた調整。課題５の発表。コメント。課題６の確認。
第７回　前回のコメントを踏まえた調整。課題６の発表。コメント。課題７の確認。
第８回　前回のコメントを踏まえた調整。課題７の発表。コメント。課題８の確認。
第９回　前回のコメントを踏まえた調整。課題８の発表。コメント。課題９の確認。
第１０回　前回のコメントを踏まえた調整。課題９の発表。コメント。課題１０の確認。
第１１回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１０の発表。コメント。課題１１の確認。
第１２回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１１の発表。コメント。課題１２の確認。
第１３回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１２の発表。コメント。課題１３の確認。
第１４回　前回のコメントを踏まえた調整。課題１３の発表。コメント。
第１５回　総括。修士論文のおおよその流れの決定。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の報告書…80％　　授業への参加度など…20％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回出す課題をしっかりとこなしていってください。また、授業で学習したことは常に念頭に置き、修論作成に活かしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　木原　謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000〜1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の１日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書　/Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で、必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第２回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第３回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第４回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第５回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第６回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第７回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第８回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第９回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第１０回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第１１回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第１２回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第１３回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第１４回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導
第１５回　エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート、平素

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前】1000〜1200字程度のエッセイ
【事後】指摘された内容に従ってエッセイの書き直し

履修上の注意　/Remarks

毎回、1000〜1200字のエッセイ課題を用意してくること。

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　前田　譲治 / Johji　Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

前期に引き続き、アメリカ文学、特に小説を分析する際の研究法に関する理解を深め、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定し、可能な限り、修士論文の作成につながる形での授業を行いたい。本年度は、ジョン・スタインベックの小説と批評論文の精読を行う予定である。前期に引き続き、修士論文執筆に必要な資料の読解と、収集に関する指導を継続する。後期は、夏休み明けに提出してもらう修士論文の構想を入念に検討し、その構想を確定する作業も行ないたい。

教科書　/Textbooks

受講生の研究の実情を踏まえた上で、和文、英文の各種資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の研究の実情を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、授業のテーマと方向性の決定
２回　夏季休業中の研究に関する報告
３回　夏季休業中の研究に関する指導
４回　修士論文のテーマに関する指導
５回　修士論文の構想に関する指導
６回　修士論文執筆に必要な資料の収集
７回　修士論文執筆に必要な資料の読解
８回　修士論文執筆に必要な資料の分析
９回　修士論文で取り上げる作品の精読：ストーリ展開
１０回　修士論文で取り上げる作品の精読：人物描写
１１回　修士論文で取り上げる作品の精読：伝記との関連性
１２回　修士論文で取り上げる作品の精読：社会背景との関連性
１３回　修士論文の構想の確定
１４回　全体のまとめ
１５回　次年度の研究に関する指導

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%　平素の研究状況50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意　/Remarks

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

研究課題を具体化する能力の養成を目的に、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等を指導する。社会言語学的手法を用いて、人間の言語行動と彼らの属する社会との係わりを探求する課題の研究指導を行う。

教科書　/Textbooks

未定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　研究テーマについて(1)
３回　研究テーマについて(2)
４回　方法論について検討(1)
５回　方法論について検討(2)
６回　方法論について検討(3)
７回　方法論について検討(4)
８回　方法論について検討(5)
９回　課題研究(1)
１０回　課題研究(2)
１１回　課題研究(3)
１２回　課題研究(4)
１３回　課題研究(5)
１４回　学生による研究報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表・平常の学習状況…50%、レポート…50%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「特別研究」は、大学院での学びの中核となる修士論文作成を視野に、そのためのsupervisionを行っていくために設定されたものです。本学期から本格的な研究活動が始まります。来年度の修士論文を視野に準備を進めていきましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回　研究状況・課題の確認
第02回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
第03回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
第04回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
第05回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
第06回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
第07回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
第08回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
第09回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
第10回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
第11回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
第12回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
第13回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
第14回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
第15回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究ですから、1週間ごとの進捗状況を授業時に報告していただきます。それをもとに協議し、そこで課題を確認し、次の授業までの間にリサーチしていただき、それをさらに次回の授業で報告してもらう、という形態で行なっていきますので、事前、事後ともにしっかりと研究活動を続けていって下さい。

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

加油！

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文の題目を確定し、基本構造と章節を定める。

教科書　/Textbooks

授業ごとに配る

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鄧紅著『王充新八論続編』中国社会科学出版社2007年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　論文第1ブロックの作成
第2回　論文第2二ブロックの作成
第3回　論文第3ブロックの作成、「はじめに」
第4回　論文第4ブロックの作成
第5回　論文第5ブロックの作成
第6回　論文第5ブロックの作成、「第一節」
第7回　論文第7ブロックの作成
第8回　論文第8ブロックの作成
第9回　論文第9ブロックの作成、「第二節」
第10回論文第10ブロックの作成
第11回論文第11ブロックの作成
第12回論文第12ブロックの作成、「第三節」
第13回論文第13ブロックの作成
第14回論文第14ブロックの作成、「おわりに」
第15回　まとめ、解説

成績評価の方法　/Assessment Method

授業準備３０％、レポートの完成度７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教員から指定された学術図書をよく読むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学ぶことを目標とする。扱う作品は、漢詩、漢文、近世白話小説、古小説など中国古典文学の範疇に属するものとする。また研究論文を読むこともある。

教科書　/Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者作成の資料。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　作品や論文の精読(1)
第2回　作品や論文の精読(2)
第3回　作品や論文の精読(3)
第4回　作品や論文の精読(4)
第5回　作品や論文の精読(5)
第6回　作品や論文の精読(6)
第7回　作品や論文の精読(7)
第8回　作品や論文の精読(8)
第9回　作品や論文の精読(9)
第10回　作品や論文の精読(10)
第11回　作品や論文の精読(11)
第12回　作品や論文の精読(12)
第13回　作品や論文の精読(13)
第14回　作品や論文の精読(14)
第15回　作品や論文の精読(15)
※具体的な内容は、受講者と相談のうえ決める。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

資料の作成。
資料の訂正や考え直し。
参考資料などを用いて中国古典文学に関して理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国古典文学

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

外国語教育に関する文献を講読、「特別研究基礎」で見出した課題を熟考し、その解決方法を探り、レポートにまとめ、発表する。

教科書　/Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

吉島茂・大橋理枝訳　『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』　朝日出版社、2004年
冯胜利・施春宏　著　『三一语法：结构•功能•语境——初中级汉语语法点教学指南』　北京大学出版社、2015年
東京大学外国語教育学研究会編著　『外国語教育学研究のフロンティア–四技能から異文化理解まで』　成美堂、2009
竹内理・水本篤編著　『外国語教育研究ハンドブック（改訂版）』　松柏社、2014

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス＋世界における中国語教育の動き
第２～第８回　文献講読
第９～１１回　課題についての議論
第１２～１４回　論文発表
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度……50％
レポートの完成度…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

文献の予習と発表の事前準備が必要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中の積極性を高く評価する。

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　佐藤　眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講生が各自興味関心のある日本宗教史に関する原典資料を選択し、それを読解・報告する。
報告内容について全員で議論する。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の進め方
２回　報告および議論
３回　報告および議論
４回　報告および議論
５回　報告および議論
６回　報告および議論
７回　報告および議論
８回　報告および議論
９回　報告および議論
１０回　報告および議論
１１回　報告および議論
１２回　報告および議論
１３回　報告および議論
１４回　報告および議論
１５回　報告および議論

成績評価の方法　/Assessment Method

告内容５０％　平常の学習態度５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告にあたっては十分準備しておくこと。
報告内容について事前に相談を受けること。
報告で不十分な点については後日補足しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文執筆のための基礎的な力を養う。受講者は具体的な構想を随時発表していく。

教科書　/Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　研究テーマについての討議①
第３回　研究テーマについての討議②
第４回　研究テーマについての討議③
第５回　研究テーマについての討議④
第６回　研究方法についての討議①
第７回　研究方法についての討議②
第８回　研究方法についての討議③
第9回　研究方法についての討議④
第１０回資料解釈についての討議①
第１１回資料解釈についての討議②
第１２回資料解釈についての討議③
第１３回資料解釈についての討議④
第１４回資料解釈についての討議⑤
第１５回総括と今後の課題の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点５０パーセント　レポート５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：テキストを読んでレジュメを作成する
事後：演習内容の復習

履修上の注意　/Remarks

授業外時間では綿密な情報収集を心がけること。

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　修士論文計画に関する検討
２回～14回　院生による口頭発表及び教員による指導
１５回　今後の研究計画に関する検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30%　小テスト：0%　期末試験：0%　課題：45%　態度：25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：論文など、配布リーディングの専門用語の意味を確認すること。
事後学習：内容に関する質問があるかどうかを把握すること。

履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、表象、認知言語学、認知文学

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 Orientation and Introduction.
２回 Guidance for thesis research A
３回 Guidance for thesis research B
４回 Guidance for thesis research C
５回 Introduction of student thesis topics and materials.
６回 Discussions and Presentations A
７回 Discussions and Presentations B
８回 Discussions and Presentations C
９回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
１０回 Student Discussion and Presentation A
１１回 Student Discussion and Presentation B
１２回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
１３回 Student-led Discussion and Presentation A
１４回 Student-led Discussion and Presentation B
１５回 Student-led Discussion and Presentation C

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、修士論文作成の予備研究としての研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。そして、可能であれば複数の言語学関連教員の前での発表を通して、発表技術（ハンドアウト、発表、質疑応答への対応など）を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　受講生との相談
第２回 - 第９回　文献講読
第10回 - 第13回　課題研究
第14回　受講生による発表
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度…45%　課題…10%　レポート…45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
事後学習：課題の提出および次回に行われる前回の内容に基づく質疑応答への準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、修士論文作成のための予備研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。文献購読を通して、受講生の選んだテーマについて理解を深めながら、最後は、先行研究の概要をレポートとしてまとめる。到達目標は以下の通りである。

(1)文献購読を通して、修士論文作成に必要な知識を身につける。
(2) 言語学に関する論文作成の技法を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　受講生と相談
第２回 - 第11回　文献講読
第12回 - 第14回　受講生による発表
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度…50%　　レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の購読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文作成のための研究発表と研究指導を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし、研究課題に即して指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　研究報告と指導
第３回　研究報告と指導
第４回　研究報告と指導
第５回　研究報告と指導
第６回　研究報告と指導
第７回　研究報告と指導
第８回　研究報告と指導
第９回　研究報告と指導
第10回　研究報告と指導
第11回　研究報告と指導
第12回　研究報告と指導
第13回　研究報告と指導
第14回　研究報告と指導
第15回　研究報告と指導

成績評価の方法　/Assessment Method

研究報告と討論により１００％評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告の準備を入念に行うこと、事後に論点整理と課題を明確にすること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

現代中国の対外認識および外交の変遷について検討し、内政と国際要因が中国の対外的な行動にいかなる影響を与えてきたのかについて理解を深める。また研究テーマに関する資料の収集･ 読解能力を養う。詳細は受講生の研究テーマに応じて決定する。学期末にレポートを課す。

教科書　/Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

以下のスケジュールで進める。
１回　イントロダクション
２回～１４回　指定した文献の輪読･ 報告･ 議論
１５回　レポート提出とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言･ 報告…60　%　　レポート…40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（３点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。
中国･ 台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ，それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的･ 実証的な分析を行い，報告･ ディスカッションを行う。

教科書　/Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
3回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
4回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
5回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
6回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
7回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
8回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
9回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
10回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
11回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
12回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
13回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
14回　テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
15回　まとめ
＊内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告･ ･ ･ 60%　　ディスカッションへの参加状況･ ･ ･ 40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。
事後学習：文献（論文）の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

特別研究１　【夜】

履修上の注意　/Remarks

（主にミクロ）経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とするので，学部レベルの当該科目の知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深める。そのために、関連文献と原典・古典を解読する。受講生の関心分野や論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。この授業は基本的に、1学期の[特別研究基礎]の延長線上にある。

教科書 /Textbooks

授業中、関連文献や原典・古典を紹介し選ぶ。また、受講生の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、必要に応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　授業の概要、関連文献や原典・古典の選定
第2~15回　文献解読、報告と討論
　　受講生の論文指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、報告と討論（50%）、レポートや論文の提出（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

関連文献、原典・古典の予習、レジュメの作成と報告。事後の復習と各自報告・論文の修正。

履修上の注意 /Remarks

東アジアの国際関係史・比較思想に深い関心をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を読み漁ること。

キーワード /Keywords

アジアからの視点、文明論的な視点、比較思想史

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジアの経済発展について事例研究に関する主要文献を熟読して、修士論文作成に必要な研究テーマの設定と資料収集、分析を行うことを目指す。

教科書 /Textbooks

最初の授業時に研究テーマを考慮して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に必要に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、研究テーマの確認
２回～14回　各自、事例研究にかかわる文献を選んで、発表していく。
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート　40%　報告　40%　ディスカッション　20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回で取り上げる項目について指定した文献はもちろん、関連する文献も自分で調べて読みこなしておく。事後学習としては授業で出されたコメントを参考にして論文執筆に役立てる。

履修上の注意 /Remarks

出来るだけ早い時期に、研究テーマに関する文献リストと各章の構成を確定しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　八百　啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文のための指導の時間です。今年は受講生がいないため開講しません。
くずし字法の習得により修士論文に必要な古文書の解読を行います。

まず１６か月間の研究計画を立てて、研究史の整理（先行研究の比較と分析）を報告してもらいます。
その後、修士論文のために集めた史料を紹介してもらいます。それに基づいて分析と解読を行います。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

児玉幸多編『くずし字解読辞典　普及版』（東京堂出版）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　研究計画①
第3回　研究計画②
第4回　研究史の整理①
第5回　研究史の整理②
第6回　研究史の整理③
第7回　基本史料の紹介①
第8回　基本史料の分析①
第9回　基本史料の紹介②
第10回　基本史料の分析②
第11回　基本史料の紹介③
第12回　基本史料の分析③
第13回　基本史料の紹介④
第14回　基本史料の分析④
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究史の整理（２８０００字程度）と基本資料の紹介と分析（１４０００字程度）の期末レポート・・・100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に史料を読んでおくこと。事後に史料をワープロに入力しておくこと。

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理を引き続き行い、論文のテーマとなる「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

教科書　/Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生に対して個別に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回～14回　修士論文の経過報告
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　50　%　レポート　…　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

修士論文の執筆が順調に進むよう、計画的に作業をしていきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　伊野　憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文作成へ向け、研究史を丹念にフォローし、論点を整理したうえで、課題を明確化する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回：研究史の作り方（講義）
第3回～14回：各自の報告・議論
第15回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告５０％
レポート５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後東南アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生を中心とする報告と討論を通して、【大学院生として身につけておくべき学問的素養】を身につける。同時に、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法を教示し、論文を完成させること】を目指す。
また課題レポートをいくつか科す。レポートは添削･ 評価をして返却し、修士論文作成の技能を高めていく。

教科書 /Textbooks

受講生の修士論文（もしくは課題レポート）のテーマによって相談して決定するが、以下が候補となる。
(1)Ho Khai Leong and Samuel C. Kuo ed.,China and Southeast Asia, ISEAS, 2005.
(2)岩崎育夫編『アジアと民主主義』アジア経済研究所、1997年。
(3)山影進『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
　＊「[学としての国際政治」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
○アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
　＊「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

その他、受講生の問題関心に応じて、適宜指示する。

授業計画･ 内容 /Class schedules and Contents

第1回　テキストとスケジュールの相談、説明
第2～4回　China and Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
第5～7回　『アジアと民主主義』を3回に分けて輪読、議論する
第8～10回　『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』を3回に分けて輪読、議論する
第11～12回　これまでの議論を踏まえて、各自のテーマを決定して報告
第13～14回　報告に対する総括と全体の議論を2回に分けて行う
第15回　補足とまとめ

特別研究１　【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート　…　40%　　報告や議論　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献を読むこと、事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード　/Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　寺田　由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講生の修士論文のテーマに沿った文献講読ならびにプレゼンテーションを行う。

教科書　/Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献･ 資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査･ 収集する。また、適宜指示する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１回	授業の進め方などについての説明
２回	論文作成方法や資料収集方法の確認
３回	プレゼンテーションと討議
４回	文献講読と解説
５回	文献講読と解説
６回	プレゼンテーションと討議
７回	文献講読と解説
８回	文献講読と解説
９回	プレゼンテーションと討議
１０回	文献講読と解説
１１回	文献講読と解説
１２回	プレゼンテーションと討議
１３回	文献講読と解説
１４回	文献講読と解説
１５回	総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…３０％　　プレゼンテーション…７０％

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に発表に向けた資料収集を行い、参考文献を読み。事後に指摘されたことや、さらに興味を持ったことについて各自で調べる。

履修上の注意　/Remarks

プレゼンテーションの際には、レジュメを作成すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　文献紹介
第3回　文献の背景説明
第4-8回　一冊目の輪読
第9回　文献の背景説明
第10-14回　二冊目の輪読
第15回　講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 … ７０ ％　　レポート … ３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　イントロダクション。
第２～14回　修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論
第15回　　まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…30%　　討論への参加度…40%　　レポート類…30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文の指導。

教科書　/Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 はじめに
２回 修論作成に向けた指導(1)
３回 修論作成に向けた指導(2)
４回 修論作成に向けた指導(3)
５回 修論作成に向けた指導(4)
６回 修論作成に向けた指導(5)
７回 修論作成に向けた指導(6)
８回 修論作成に向けた指導(7)
９回 修論作成に向けた指導(8)
１０回 修論作成に向けた指導(9)
１１回 修論作成に向けた指導(10)
１２回 修論作成に向けた指導(11)
１３回 修論作成に向けた指導(12)
１４回 修論作成に向けた指導(13)
１５回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告の内容・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

事前に報告準備を十分に整え、事後にその回の課題を完了させておくこと。

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　魏　芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自興味ある研究課題を見つけ、修士論文を作成するためのスキルを身につける。到達目標は以下の通りである。
・ 国際経済の数理モデルの分析アプローチを理解できる。
・ 諸経済理論により現実の国際経済問題を説明できる。
・ 学習したスキルを応用できる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマを考慮して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～第14回　受講生による報告・討論
第15回　課題の提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り込み　60%　　課題の提出　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

大学院レベルのミクロ・マクロ経済学を事前に履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、新興国の台頭によって国際的な秩序の再編が進みつつある現状を踏まえ、「グローバル・サウス」を支える様々な国際機関に焦点を当てて躍動する「グローバル・サウス」の実態把握に努める。そのことによって、我々の西欧中心史観に修正を加えるとともに、「グローバル・ノース」と「グローバル・サウス」の間に認められる国際政治力学について考察する。

教科書　/Textbooks

Jacqueline Anne Braveboy-Wagner, Institutions of the Global South, Routledge, 2009.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ヴィジャイ・プラシャド『褐色の世界史』水声社、2013年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　NAMについて
第3回　G77について
第4回　OPECについて
第5回　汎アメリカ主義について
第6回　汎アフリカ主義について
第7回　汎アラブ主義と汎イスラムについて
第8回　サブ地域コミュニティ：ラテンアメリカとカリブ海
第9回　サブ地域コミュニティ：アフリカ
第10回　サブ地域コミュニティ：東南アジア、南アジア、西アジア、大洋州
第11回　関連英語文献①
第12回　関連英語文献②
第13回　関連英語文献③
第14回　関連英語文献④
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告と貢献度・・・１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に該当頁をしっかりと読んでくること。事後学習としては、学んだ内容についてインターネット等でさらに情報を収集し、内容の理解を深めるようにすること。

履修上の注意　/Remarks

特別研究１　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究１　【夜】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域･分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

国際機構を主題とする修士論文の作成に向けて、文献を収集および整理しつつ、修得した知識と技能をもとに問題関心を深める。

教科書　/Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回-第14回　報告と議論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告30%、参加70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書の指定の個所を事前に講読し、報告できるように準備する必要がある。授業の内容を復習することも求める。
くわしくは初回の授業で指示する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor　ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

During the second course of the first year of graduate study, we will focus on your own research interests. This class will be devoted to helping you explore your own research interests and in learning to become more proficient in reading academic articles and critically assessing them. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Research schedules
Week 3: Dr. Larson-Hall's research presentation
Week 4: Student-led research presentation
Week 5: Student-led research presentation
Week 6: Thesis-writing help
Week 7: Dr. Larson-Hall's research presentation
Week 8: Student-led research presentation
Week 9: Student-led research presentation
Week 10: Thesis-writing help
Week 11: Dr. Larson-Hall's research presentation
Week 12: Student-led research presentation
Week 13: Student-led research presentation
Week 14: Thesis-writing help
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

A 3000-word paper (50%); Presentations (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation necessary for this course; You will learn more about teaching and second language acquisition after this course.

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training

特別研究１ 【夜】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究１

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

受講生と相談の上、修士論文（又は特定課題研究）作成のための予備研究を行う。そのために必要な文献購読などを通して、関連テーマについての基礎的・理論的知識を深めていく。

教科書　/Textbooks

授業時に指定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業時に紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回 - 第3回　研究テーマについて
第4回 - 第9回　文献講読
第10回 - 第14回　学生による課題研究の発表
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表・平常の学習状況：50%
レポート：50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理、及び関連文献の講読

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究基礎や特別研究1の成果及び出てきた課題をふまえ、研究論文の作成に向け、必要な理論的知識及び研究法を習得する。

目標
①研究に必要な知識を習得する
②研究の課題設定に応じ効果的な研究法を実践する

教科書 /Textbooks

なし。
資料は授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　研究計画の検討１【課題設定】
3回　研究計画の検討２【先行研究と研究方法】
4回　研究データの検討１【インタビューデータ】
5回　研究データの検討２【収集資料】
6回　研究データ分析の検討１【インタビューデータ分析】
7回　研究データ分析の検討２【収集資料分析】
8回　研究データ分析の検討３【追加調査の計画】
9回　中間発表
10回　追調査データの検討１【追加インタビューデータ】
11回　追調査データの検討２【収集資料】
12回　追調査データ分析の検討１【追加インタビューデータ分析】
13回　追調査データ分析の検討２【追加収集資料分析】
14回　論文構成の検討【章構成】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度　50%
発表報告　50%

特別研究２ 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料はよく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、
発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための個別指導を行う。論文作成に必要な専門的知識と研究方法を習得し、研究テーマを具体化するための能力を養成する。
修士論文中間発表の準備・指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　研究に関する報告と討議・検討
3回　研究に関する報告と討議、検討
4回　研究に関する報告と討議、検討
5回　研究に関する報告と討議、検討
6回　研究に関する報告と討議、検討
7回　研究に関する報告と討議、検討
8回　研究に関する報告と討議、検討
9回　研究に関する報告と討議、検討
10回　研究に関する報告と討議、検討
11回　研究に関する報告と討議、検討
12回　研究に関する報告と討議、検討
13回　研究に関する報告と討議、検討
14回　研究に関する報告と討議、検討
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度50%、発表報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習として、指示されたところまで学習を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特別研究２　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けて、文献講読と発表を行い、修士論文の完成に向けての指導を行う。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「愛着障害と修復的愛着療法」　ミネルヴァ書房他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．修士論文構想の発表と検討
３．修士論文構想の発表と検討
４．修士論文構想の発表と検討
５．修士論文構想の発表と検討
６．修士論文構想の発表と検討
７．修士論文構想の発表と検討
８．修士論文構想の発表と検討
９．修士論文構想の発表と検討
10．修士論文構想の発表と検討
11. 修士論文構想の発表と検討
12. 修士論文構想の発表と検討
13. 修士論文構想の発表と検討
14. 修士論文構想の発表と検討
15．修士論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で報告できるように努力すること

履修上の注意 /Remarks

特別研究２　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のため、個別的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　問いと論証戦略の確認
第３回　既存の研究の整理（文献リストの作成）
第４回　文献のレビュー（テキスト批評）1
第５回　文献のレビュー（テキスト批評）2
第６回　調査法の検討
第７回　文献のレビュー（テキスト批評）3
第８回　文献のレビュー（テキスト批評）4
第９回　文献のレビュー（テキスト批評）5
第10回　研究報告１
第11回　文献のレビュー（テキスト批評）6
第12回　文献のレビュー（テキスト批評）7
第13回　文献のレビュー（テキスト批評）8
第14回　文献のレビュー（テキスト批評）9
第15回　研究報告２

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20%　レポート・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告準備をすること。
課題について事前に調べておくこと。

特別研究２　【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会･環境･福祉･教育･心埋･言語･宗教･芸術などすべてここに含まれる) のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。
ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。
人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

第１回オリエンテーション：研究計画
第２回本調査データの検討
第３回周辺領域の文献
第４回文献リストの作成
第５回　先行研究に関する批判
第６回先行研究に関する総論
第７回補足調査計画
第８回補足調査計画の再検討
第９回中間発表準備および章立ての作成
第10回　章立ての再検討
第11回論文指導
第12回論文指導
第13回論文指導
第14回論文指導
第15回　まとめ
予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究２ 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション … ５０％
各自の調査研究 … ５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本学期末をめどに、修士論文作成のための中間発表会が予定されています。修士論文の全体像ができあがり、内容を充実させていく時期になります。あせらず、それでいて着実に準備を進めていきましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回　研究状況・課題の確認
第02回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
第03回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
第04回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
第05回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
第06回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
第07回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
第08回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
第09回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
第10回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
第11回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
第12回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
第13回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
第14回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
第15回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究ですから、1週間ごとの進捗状況を授業時に報告していただきます。それをもとに協議し、そこで課題を確認し、次の授業までの間にリサーチしていただき、それをさらに次回の授業で報告してもらう、という形態で行なっていきますので、事前、事後ともにしっかりと研究活動を続けていって下さい。

履修上の注意 /Remarks

特別研究２　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

加油！

キーワード　/Keywords

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

修士論文作成に向けて研究を進める。あわせて作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学ぶ。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。
または受講者作成の資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　作品または研究論文の精読
第2回　作品または研究論文の精読
第3回　作品または研究論文の精読
第4回　作品または研究論文の精読
第5回　作品または研究論文の精読
第6回　作品または研究論文の精読
第7回　作品または研究論文の精読
第8回　作品または研究論文の精読
第9回　作品または研究論文の精読
第10回　作品または研究論文の精読
第11回　作品または研究論文の精読
第12回　作品または研究論文の精読
第13回　作品または研究論文の精読
第14回　作品または研究論文の精読
第15回　作品または研究論文の精読

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

資料作成。
報告後の考え直しや調べ直し。
参考書等を利用して中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

特別研究２ 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本での「演習」形式の授業のやり方に慣れて欲しい。

キーワード /Keywords

中国古典文学、漢詩、陶淵明、白居易

特別研究２ 【夜】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究２

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要　/Course Description

「特別研究１」で考案した問題解決方法を修士論文の仮説として、その理論ベースを固める。同時に、仮説を検証するための計画を立て、先行実験を行う。

教科書　/Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

外国語教育研究ハンドブック（改訂版）竹内理　水本篤　編著　松柏社　2014

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス＋仮説の確立
第２～第４回　仮説検証についての計画及び議論
第５～第１４回　先行実験の報告及び議論
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の発表・コメントにより100％で評価

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業実験に関連する情報（先行研究など）の収集及び分析を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

文献の予習と発表の事前準備が必要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究2の成果及び出てきた課題をふまえ、必要な理論的知識及び研究法を用いて研究論文を作成する。

目標
①研究に必要な知識、方法を用いて研究が進められる。
②これまでの習得した知識技能を十分に発揮して、研究の成果を表現する。

教科書 /Textbooks

なし。
資料は事前に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 イントロダクション
２回 調査結果の確認と追調査の検討
３回 調査結果の分析1【データの処理】
４回 調査結果の分析2【データの精査】
５回 調査結果の分析3【データの分析】
６回 調査結果の考察1【仮説の検証】
７回 調査結果の考察2【結果全体の考察】
８回 中間報告
９回 論文の検討1【序論】
10回 論文の検討2【本論】
11回 論文の検討3【結論】
12回 論文全体の検討1【論文の構造】
13回 論文全体の検討2【整合性】
14回 論文全体の検討3【表現の精査】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度 …50%
発表報告…50%

特別研究３ 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料は事前によく読んでおくこと。
発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。
授業時に紹介した参考文献を購読することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために個別的な指導を行う。論文の構成や内容などの検討を図りながら論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合は適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目　オリエンテーション
2回目　研究に関する報告と討議、検討
3回目　研究に関する報告と討議、検討
4回目　研究に関する報告と討議、検討
5回目　研究に関する報告と討議、検討
6回目　研究に関する報告と討議、検討
7回目　研究に関する報告と討議、検討
8回目　研究に関する報告と討議、検討
9回目　研究に関する報告と討議、検討
10回目　研究に関する報告と討議、検討
11回目　研究に関する報告と討議、検討
12回目　研究に関する報告と討議、検討
13回目　研究に関する報告と討議、検討
14回目　研究に関する報告と討議、検討
15回目　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、　論文80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習として、指示されたところまで学習を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特別研究３　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての個人指導を中心に行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者と協議の上、決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　修士論文の個別指導
３回　修士論文の個別指導
４回　修士論文の個別指導
５回　修士論文の個別指導
６回　修士論文の個別指導
７回　修士論文の個別指導
８回　修士論文の個別指導９回
10回　修士論文の個別指導
11回　修士論文の個別指導
12回　修士論文の個別指導
13回　修士論文の個別指導
14回　修士論文の個別指導
15回　修士論文最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

修士論文の執筆作業を継続的に行い、その進行状況と内容を毎週、報告すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究３　【夜】

キーワード　/Keywords

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために、個別的・具体的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

必要に応じて個別に指導する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて個別に指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の授業において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

与えられた課題について調べておくこと。
報告の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会･環境･福祉･教育･心理･言語･宗教･芸術などすべてここに含まれる) のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。
ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。
人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の執筆にむけた取り組みをサポートする

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

第１回オリエンテーション：研究計画
第２回本調査データの検討
第３回周辺領域の文献
第４回文献リストの作成
第５回　先行研究に関する批判
第６回先行研究に関する総論
第７回補足調査計画
第８回補足調査計画の再検討
第９回中間発表準備および章立ての作成
第10回　章立ての再検討
第11回論文指導
第12回論文指導
第13回論文指導
第14回論文指導
第15回　まとめ
予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究３ 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション … ５０％
各自の調査研究 … ５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

いよいよ今学期末、これまでの研究の集大成となる修士論文の提出時期となります。総仕上げの時期となります。今できることを最大限頑張って、満足できる修士論文を完成できるよう、頑張っていきましょう。そのための最終supervisionを行ないます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回　研究状況・課題の確認
第02回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
第03回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
第04回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
第05回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
第06回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
第07回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
第08回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
第09回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
第10回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
第11回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
第12回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
第13回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
第14回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
第15回　学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究ですから、1週間ごとの進捗状況を授業時に報告していただきます。それをもとに協議し、そこで課題を確認し、次の授業までの間にリサーチしていただき、それをさらに次回の授業で報告してもらう、という形態で行なっていきますので、事前、事後ともにしっかりと研究活動を続けていって下さい。

履修上の注意 /Remarks

特別研究３　【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

加油！

キーワード　/Keywords

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて研究を進める。あわせて作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。
または受講者作成の資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　作品または研究論文の精読
第2回　作品または研究論文の精読
第3回　作品または研究論文の精読
第4回　作品または研究論文の精読
第5回　作品または研究論文の精読
第6回　作品または研究論文の精読
第7回　作品または研究論文の精読
第8回　作品または研究論文の精読
第9回　作品または研究論文の精読
第10回　作品または研究論文の精読
第11回　作品または研究論文の精読
第12回　作品または研究論文の精読
第13回　作品または研究論文の精読
第14回　作品または研究論文の精読
第15回　作品または研究論文の精読

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資料作成。
報告後の考え直しや調べ直し。
参考書等を利用して中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

特別研究３ 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本での「演習」形式の授業のやり方に慣れて欲しい。

キーワード /Keywords

中国古典文学、漢詩、陶淵明、白居易

特別研究３ 【夜】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

特別研究３

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「特別研究２」の引き続き、仮説を検証する本実験を行い、その過程において新たに起きた問題及び発見について議論する。

教科書 /Textbooks

授業中に指定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス＋仮説の確立
第２～第１４回　仮説検証の報告及び議論
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100％で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業実験に関連する情報（先行研究など）の収集及び分析を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords